BROADCAST CREATORS ASSOCIATION OF JAPAN

放送人の会

No.94
2022.02.11
2.21訂正版

〒102-0094　千代田区紀尾井町１－１　千代田放送会館　３階 TEL &fax03-3221-0019　Mail info@hosojin.jp
発行　一般社団法人・放送人の会　会長　今野　勉　編集担当　伊藤雅浩（編集長）、菅野高至（広報委員長・ＨＰ担当）、鈴木典之、逸見京子、藤田知久カメラ担当）、松尾羊一　事務局　深尾隆一　須斎恵美子

チェチェンの戦いとフェースダブル

放送人の会　会長　今野　勉

私がＴＢＳのテレビ演出部に配属になった１９６０年代、およそ１００人ほどの演出部員の中に、女性ディレクターは、ドラマセクションに１人、歌謡セクションに１人、計２人しかいなかった。

女性ディレクターのＡＤについたことがあるが、スタジオのカメラ、音声、照明などのスタッフは全員男性だった。いつもは愛想のいいスタッフたちが、人が変わったように、女性ディレクターに冷淡だったり意地悪だったり、女ごときに指図されるなんて男の沽券にかかわるという感情を隠さなかったり、といった状況だった。

ドラマセクションの女性ディレクターは、まもなくＴＢＳを辞め、パリに行ってしまった。彼女は、フランス語が堪能だった。彼女がその後、どう言う人生を送ったのか、私は知らない。

女性の、しかも放送局員ではないディレクターが、放送人グランプリの大賞を受けることに何の違和感も持たれない現在からは、想像できない６０年ほど前の放送界であった。

男女差別の問題においては、当時と比べて相当、様子が変わったと私は思っている。もちろん、完全ではないが。

私たちの社会生活において、性の問題は、男女差別の他に、もう一つある。性的マイノリティの問題、いわゆるＬＧＢＴの問題である。

チェチェンに起こっていること

２０１２年頃から、私は、宮沢賢治の謎の詩を調べ始めて、２０１７年に「宮沢賢治の真実修羅を生きた詩人」を上梓したのであるが、その中で私は、詩が難解なのは、賢治が保阪嘉内という一学年下の男性に、友情を越える、むしろ恋情ともいえる感情を持っていた、ということがあり、それに気づかないと、詩の意味は解らないのだ、ということを述べた。

最初は、それが、現在、議論になっているＬＧＢＴの問題なのだ、ということに気がつかなかった。私は、今、ＬＧＢＴという視点から、賢治の作品を見直しつつあるところだ。

そういうわけで、ＬＧＢＴ関連の、テレビや新聞の報道には、気をつけている。その中で、最近、目を疑うような記事を目にした。ロシア南部のチェチェン共和国で、治安当局が、同性愛者やトランスジェンダーなどの性的マイノリティの人々を拘束し、拷問を加え、性的マイノリティの仲間を告白させ、芋づる式に捕まえている、というのだ（毎日新聞２０２２・１・11）。

チェチェンの現状を潜入取材した監督のデイビッド・フランス氏は「ナチス・ドイツ以来となる少数者の粛正だ」と述べたという。地元の人権団体が、性的マイノリティの人々を国外に脱出させる活動を行っているが、拷問による死傷者や行方不明者が多数出ており、数万人の性的マイノリティの人々が息を潜めている状況だという。

映像技術が告発を可能にした

この記事で、私が注目した情報がある。デイビッド・フランス監督は、脱出作戦に同行取材した。脱出を助ける活動家たちの言動が写されている。それをそのまま伝えることが必要なのだが、それでは活動家たちの身元が治安当局に知られてしまう。

ふつうは、その顔をモヤモヤで覆って隠すのだが、フランス監督はその手法に満足しなかった。彼らの表情こそが告発の核心なのだと思ったのだろう。フランス監督は、登場人物に合わせた別人の表情を映画に合わせて撮影し、その顔をＡＩによる「フェースダブル」というデジタル映像技術を使って、本物の顔にすげ替えたのだ。

なるほど、「フェースダブル」など、何となく、いかがわしい映像技術だと思っていたのだが、ドキュメンタリーのぎりぎりのリアリティを保証するために使うとは――。

デイビッド・フランス監督の「チェチェンへようこそ――ゲイの粛清」は、２月下旬に日本で公開されるという。

宮沢賢治が亡くなったのは、昭和八年（１９３３）である。私は昭和十一年に生まれた。小さな炭鉱で育ったが、子供の頃「オトコオンナ」とか「オカマ」とか呼ばれる人がいて、私たちは、何のためらいもなく、その言葉を口にしていた。世の中は本当に変わったのだろうか。

会員の皆さま
放送人グランプリ 2022
投票の締切は、3月18日(金)

年頭所感 2022

災害報道と堀川とんこうさん

河野尚行

私の現在の住まいから歩いて10分余りの所に多摩川が流れている。普段は水量が少なく、広い河川敷の一部を蛇のように身をくねらせて流れ、鉄橋の上には田園都市線や小田急線が走っている。ところが、ゲリラ豪雨や台風に襲われると、水嵩は急速に川幅いっぱいに広がり、流れ込む支流の小川や排水管に逆流、「バックウオーター現象」や「内水氾濫」を引き起こす。溢れ出した泥水は、岸辺の住宅の土台を崩し、マンションの地下に流れ込み、電源や水槽を破壊、都市住民の生活を掻き乱す。地縁、血縁が薄い新興住宅地を狙い撃ちするような自然の猛威だ。

１９７４年９月、この多摩川の本流が狛江付近で氾濫、岸辺の住宅19戸を流し去った。

その当時、私は朝の「スタジオ１０２」の担当で、副調のＰＤ席で現場からの中継映像を見つめていた。中継現場からもどった同僚の座間味君からも、悲惨な現場の詳しい説明を受けた。だが、時間がたち、日々の仕事に忙殺され、この災害のことなど忘れかけていた頃、ＴＢＳのドラマに「岸辺のアルバム」が登場、評判を呼ぶことになる。私の囲りでも、八千草薫や竹脇無我の演技が話題なった。

私が夜間勤務の合間に目をやったドラマの最終回の画面には、多摩川決壊の濁流に押し流される新築の住宅が映っていた。

この日本のＴＶドラマ史に残るシリーズの名作「岸辺のアルバム」が堀川とんこうさんの作品である事を知ったのは私が「放送人の会」に入ってからも、しばらく経ってからのことである。数年前に、とんこうさんに無理なお願いして「岸辺のアルバム」全作品のＤＶＤを借り出し、改めて鑑賞させてもらった。

群れながらも孤独、日本の高度成長末期のサラリーマン家族の人間模様、男と女の微妙な襞、絆のほころびを描く鋭い描写力と物語の展開に引き込まれ、全編、見入った。

我々報道屋は時代の流れを記録し、輪郭のはっきりした人々の喜び、苦しみ、悲しさは伝えても、人々の日常生活に潜み込む虚しさや人生の哀しみは、なかなか伝えきれない。

◇

日本列島は災害列島である。地球温暖化による異常気象、頻発する台風や線上降水帯による豪雨や土石流や河川氾濫。そして地殻変動による地震や津波や火山噴火や火砕流。

11年前の２０１１年３月11日、東日本大震災が発生、日本列島の半分が激しく揺れた。その３年後、とんこうさんは山田太一とのコンビで「時は立ちどまらない」を制作する。

この大災害は、押し寄せる大津波の空からの生中継に始まり、スマホを含め、夥しい量の映像が記録されている。沿岸の集落や景観を破壊、２万人もの死者と行方不明者を出し、炉心溶融と水素爆発の原子力発電所は放射能を広範囲に撒き散らし、一見無傷な集落を幾つも廃村へと追い込んだ。これら人々の苦しみを、被災地の悩みを、行政の欠落を、映像と音声は大量に微細に記録し続けた。

しかし、ドラマ「時は立ち止まらない」を見た時、母や妻や子を亡くし、船や港を奪われた初老の漁師親子が、周囲の同情を撥ね付け、ちゃぶ台返しで荒れ狂う様を目にした時、この世の中にはフィクションでなければ表現できない人間の感情、ドラマでなければ伝えきれない屈折した心の深淵があるのだと、痛感させられた。それまでに積み上げられた被災地の膨大な事実の隙間に沁み入り、人々の心の奥底を揺さぶる作品であった。

３年半前の西日本豪雨では、岡山県を流れる高梁川支流の小田川が逆流して大氾濫を起こし、倉敷市の新興住宅地を中心に4600戸余りが浸水、51人もの命が奪われた。

泥水が引いた後、泥にまみれた家族のアルバムを、ボランティアグループが洗浄・復元する手助けを始めているのを、地元のケーブルＴＶが伝えていた。その映像が捉えた被災者の言葉に、家族写真を見つめ直す被災者の表情に、とんこうさんの「岸辺のアルバム」のワンシーンを想い重ねた。

◇

その堀川敦厚さんが亡くなって２年近くが過ぎた。私はとんこうさんの膨大なドラマ作品のほんの一部しか見ていない。「モモコシリーズ」も「松本清張の原作もの」も見ていない。従ってドラマ制作者としてのとんこうさんを語る資格は全くない。が、「放送人グランプリ」や「放送文化基金賞」の審査の席などを通じ、とんこうさんとは親しく話しを交わす機会も多く、時には車で送ってもらったこともあり、その人となりについては、ある程度知っている積もりであるが、とんこうさんの背広姿は一度も目にしたことがなかった。

いつも黒っぽい衣装で身を包み、スニーカー姿も多く、短い顎ひげを蓄えてはいたものの髪は長くはしておらず、あえて、芸術家風のポーズは取ってはいなかったが、どう見ても、サラリーマンには見えなかった。

とんこうさんは、いつまでも現場の匂いがするクリエーターであり続けた。同じ放送人として、50才過ぎには、ネクタイと背広姿の日々を余儀なくされていた我が身から見ると、常にまぶしい存在であった。

◇

青梅食む　電波で生きた５０年

病床にあったとんこうさんの句である。

最後の１年間はお会いできなかったが、その死はいささか早すぎた。いま思えば、千代田放送会館のガラス張りの狭い喫煙室に集まり、煙草を吸っていた光景を思い出す。そのたばこが結局は命取りに繋がってしまった、のであろうか。

だが、奥様が編んだ、とんこうさんの句集『ひるの月』の中の写真、くわえたばこ姿のとんこうさんは、実にかっこいいのである。

◇谷川の水　やがて澄み夏おわる
◇秋来たり　病院の丘はぐれ雲
◇極月が　庭先に来て待っている

堀川　とんこう

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

宮﨑賢さんが初監督、ドキュメンタリー映画『“かくり”の証言』

曽根英二

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍の正月いかがお過ごしでしょうか。もう何回目の正月かと思うほどにコロナとの付き合いが長期戦になっています。

去年10月に「ＮＡＧＡＳＨＩＭＡ～“かくり”の証言」というドキュメンタリー映画が静かに世に出されました。取材、撮影、編集、監督、すべて宮﨑賢さん。長さ1時間50分という大作です。

「あの宮崎さん?」。そう、山陽放送の報道カメラマンとして活躍した人。「ハンセン病強制隔離」を瀬戸内海の長島をベースに国内外を取材、13本のドキュメンタリーを放送しています。「ディレクターは交代するがカメラマンは宮崎」でという、ハンセン病を一番知っているジャーナリストです。

ハンセン病への偏見や差別が社会に充満していた日本社会の病巣を40年も抉ってみせました。元患者さんらの隔離の証言、「宮崎賢さんにだから話しておく」という生々しいものです。タイトルがなぜ平仮名か?宮崎さんの渾身のドキュメンタリー映画、各地で上映会が始まっています。

長年のハンセン病取材を放送人の会や放送文化基金が表彰したことも、宮崎さんをドキュメンタリーの現場に置き続けました。

初の宮崎賢監督作品、定年退社から8年間の独自取材、編集も夜中に起き出してはつないでいったといいます。縛られることなく作ったドキュメンタリー映画。宮崎さんのピュアーな感性が健在です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

米寿に青春を想う

荻野慶人

「文芸春秋と私の青春時代」を、石原慎太郎氏が新年特別号で回顧している。

太学時代に、復刊する同人雑誌「一橋文芸」に執筆を乞われ、夏休みの寮に泊まり込んで常々苦々しく眺めていた弟・裕次郎と仲間たちの放埒ぶりを描いた。その『太陽の季節』が、「注目に値する新人作家の出現」と彼の言う〈奇跡的〉激賞で芥川賞に輝いた。

衝撃的「太陽族」「慎太郎刈り」ブームを背景に東宝の助監督試験を突破した彼は、藤本真澄プロデューサーの個人秘書となった。

昭和31年(1956)秋、私は早大卒だが実家に近い宝塚映画製作所に前年の春就職して『桂春団治』(木村恵吾監督、森繁久彌主演)のサード助監督を務めていた。

『太陽の季節』『狂った果実』(日活)、『処刑の部屋』(大映)と石原原作の連続ヒットに、東宝も傍観しているわけにはゆかない。『若い獣』を石原自身の脚本監督で企画した。

これには砧撮影所の助監督たちが猛反発する。自分たちを差しおいて素人の新入社員を起用するのは認められないというのだ。

そんな噂が私たちの耳に伝わって間もなく、石原氏が藤本プロデューサーと撮影所に姿を見せて助監督たちを動揺させた。大プロデューサーと肩を並べて法善寺のオープンセットを見て歩く石原氏は背が高く写真より遥かに凛々しく、とても新入社員には見えなかった。

同世代の恩地日出夫監督が著書『砧撮影所とぼくの青春』(文芸春秋社'99)で、若い助監督たちの本音を述懐している。「…助手経験なしの素人が監督として成功したとすれば、東宝撮影所の監督昇進をめぐる閉鎖的な環境が壊れるかも知れない。そんな期待がぼくの心の片隅になかった、と言えば嘘になる…」

東宝の首脳部も撮影現場に波風が立つのを嫌ったのだろう。結局、石原氏の初監督は二年後に外部の連合映画のスタジオで実現した。

当時23歳だった私もこの一月末に89歳になった。私は塞翁の馬に跨りその後転じた読売テレビをも退職して、今は東京都杉並区の住民である。選挙区は東京8区で、慎太郎氏には居丈高で中国をシナと呼んだりしても好意を持つが、長男で日本テレビ出身でもある伸晃氏に投票したことはない。案の定、昨年10月の第49回衆議院議員総選挙で、比例復活もかなわず30余年保った議席を失う。

慎太郎氏の言動をTVでも新聞でも暫く見ないが、同じ時代を生き抜いてきた米寿の旗手の健康を祈って止まない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

えちごトキめき紀行

石原信和

令和三年七月二十二日、新潟県を走るえちごトキめき鉄道のリゾート列車「雪月花」乗車の日帰り旅行に行ってきました。母の介護とコロナ騒ぎで、なかなか旅に出られない日々が続いていましたが、二回のワクチン接種も終わったことだし、かねてから仲間達で計画してきたツアーなので、緊急事態宣言下ではありましたが、思い切って出かけてきました、

えちごトキめき鉄道は、新潟県上越市に本社を置く第三セクター方式の鉄道事業者です。平成二十七年三月十四日の北陸新幹線の長野駅～金沢駅間延伸開業に伴い、並行在来線として、JRから経営分離された路線の内、JR東日本信越本線の妙高高原駅～直江津駅間と、JR西日本北陸本線の直江津駅～市振駅間の二区間を運営する鉄道事業者として、平成二十二年に設立されました。妙高高原駅～直江津駅間が妙高はねうまライン、直江津駅～市振駅間が日本海ひすいラインと呼ばれています。なお、実際には、あいの風とやま鉄道の泊駅まで、直通運転されています。

今回のツアーは、台湾の鉄道が大好きな仲間達の集まりです。コロナ騒ぎの影響で、台湾渡航も困難となったため、代わりにどこか行きたいということで、二両編成の「雪月花」の一両を貸切にしていただきました。

「雪月花」は、糸魚川駅を十三時五十九分に発車。車内では、ウェルカムドリンクや食事も提供されます。この午後便の料理は、糸魚川の老舗割烹「鶴来家」が監修・調理しています。別料金で、新潟各地の地酒も楽しむことができます。

「雪月花」は、進行方向左側に日本海を見ながら直江津に向かいます。途中、トンネルの中にある筒石駅では、下車して写真を撮ることも可能です。直江津駅からは、里山の風景を見ながら進みます。スイッチバックで有名な二本木駅でも、撮影タイムが用意されています。その後、しなの鉄道との乗換駅、妙高高原駅まで行き、折り返して、北陸新幹線との接続駅、上越妙高駅には、十六時四十四分に到着。参加者は、この駅で解散となりました。

皆さんも、是非、「雪月花」の旅を体験されてはいかがでしょうか。詳しくは、えちごトキめき鉄道のホームページをご覧下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

俳優修業

山田良明

70歳の夏、仕事が一段落、急に時間に余裕ができた。さて、何を始めるか。ふと頭に浮かんだのが「役者」。演技の勉強をしてみたい。都内のアマチュア演劇グループをネットで検索、いくつかのグループの公演情報は出てきたが、募集はない。

数日後、下北沢を歩いていて、柄本明夫妻にばったり出会う。私の話を聞いて即座に「大人のためのお芝居入門講座というワークショップを女房がやってます。見学されたらどうでか」と提案される。セリフを覚えられるか不安なのだがと躊躇すると「それも含めてボケ防止」と言ってカラカラと笑われた。翌週、稽古場にお邪魔してワークショップを見学。20名程の中年老年男女が角替和枝さん指導の下、即興やエチュードに興じていた。即入会を許

され、呼び名はよっちゃんとなって毎週土曜日の授業に参加した。

3か月後、稽古場での試演会。複数の戯曲のシーンを組み合わせた「劇的なるものをめぐっちゃって」という芝居で高校演劇以来の舞台を踏んだ。私が演じたのは唐十郎作品の冒頭2ページ半のモノローグ。セリフが私の頭のどこに入ったのか疑問を解消できないまま本番が迫り、舞台裏の狭い暗闇の中で、心臓が口から飛び出すとはこういうことかと極度の緊張を体験し、ままよと飛び出しセリフを叫んだ。楽しむというにはほど遠い苦行であったが、やり終えた後の爽快感は代えがたいものであった。

以来5年、70歳からの俳優修業、道半ばである。公演を見てくれた演出家に誘われ、憧れの紀伊国屋ホールの舞台も体験した。友人のプロデューサーに請われ、テレビドラマにも出させていただいた。演じてみて初めて分かったこと。頭で理解していても肉体は自由に動かないこと。何もしない演技が一番難しいこと。様々な人間を演じるというけど、所詮は自分自身しか表現できないこと。自分をさらけ出すのが恥ずかしいのではなく、努力の足りなさが恥ずかしいのだということ。それでも演じることは面白い。日々、衰えていく頭と体に抗わず、寄り添ってもう少し演じてみたいと思っている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

十時の気分

吉田賢策

新春四日夜ＮＨＫ総合「プロフェッショナル」で取り上げたある女性編集長の仕事ぶりに心惹かれた。「ハルメク」という女性シニア向け雑誌の編集を任され、低迷した売り上げを伸ばし38万部の女性誌一位におしあげる。老後の健康やお金等従来の企画の切り口を変え、「グレイヘア」など美容やファッション等「夢」や「ニーズ」を主にした。その裏には調査などの手法によって本音を引き出すマーケティングがあったのだ。この番組を見ていて昨年12月に亡くなった中尾幸男さんの仕事振りに思いを馳せた。彼は企画とマーケの合体で見事な仕事をやってのけた。

中尾さんとの出会いは半世紀近く前ある勉強会の席。芝生がきれいな庭を見ながら「近頃のテレビはつまらないな。僕たちで革命を起こそうよ」と語り合ったものだった。それから月日は流れ彼は電通業務推進のエースとして新しい報道番組を企画提案する立場となり、丁度自分も師匠小田久栄門さんが革新的報道番組を模索していた時期で提案に乗る形となる。自分も下働きではあるがエキサイティングな企画造りの末端を担うことになった。「ニュースステーション」誕生の頃の話である。思いだしたのは電通・局側と練り上げた企画が発進し制作チームが出来上がり、体制が整いつつある頃、中尾さんから全員招集の要請があった。

彼が提示したのは「十時の気分」という視聴層を分析し、この時代どのような形の番組スタイルが受け入れやすいかをマーケティングセクションの力を借りた渾身のリポート。セットから伝え方他、夜十時台という報道未知の時間への挑戦に大いにヒントになるものだった。当初よろよろと走る船だったが、この航路図がガイドの役割を果し底力を出す。

「ハルメク」2月号は「50代からのネット活用術」3月号は「スマホ活用術」とある。今放送と通信の融合の時代に、彼が行った様に新しい企画を提示したいものだ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

追想：伊集院礼子先輩

千葉邦彦

伊集院（旧姓：帰山）礼子さんが昨年11月26日に亡くなられたことを喪中のご挨拶状で知り、大変驚き、悲しく思った。伊集院さんは都立小石川高校で6年、ＮＨＫでは7年先輩にあたる。1968年にアナウンサーとして入局し、『スタジオ102』『女性手帳』などを担当された。やや高めのコロコロとした華やかな声は冠婚葬祭のうち冠・婚・祭には相応しいけれど、葬には向かないと言う人もいた。

伊集院さんと最初に出会ったのは1980年代初頭、放送センター4階の渡り廊下だった。伊集院さんは考えごとをしていたのか、周囲を見ず、なおかつ蛇行気味に歩いて来て、書類を抱えた私とぶつかりそうになった。瞬時に避けたが、「私が避ける、伊集院さんはその方向につられて動く」を何度か繰り返した。最終的に「どうぞ」と大きく進路を空けて差し上げると、「あはは。ごめんなさぁい！」。そう言って、去って行かれた。放送で聴くそのままの、よく響く明るい声だった。このときは勿論お互い名乗っていない。

1997年6月、私は国際放送局から放送文化研究所に異動した。着任の日、先に研究者に転身していた伊集院さんが「あらぁ！」と笑顔で迎えてくれたから、このとき既に面識を得ていたということになる。渡り廊下の一件以降に、おそらく高校の同窓会（ＮＨＫ紫友会）でご挨拶していたのだろう。伊集院さんは、「小石川高校の生徒に共通していた豊かな力量と余裕のようなもの」を誇りに思っておられた。私も同じだ。

1998年12月、メディア情報部の忘年会は後半、カラオケ大会になった。私は伊集院さんを突然指名して、アメリカンポップスの名曲『ヘイ・ポーラ』（オリジナルの歌唱はポールとポーラ）をデュエットすることにした。ステージに上がり、「日本語にしますか、英語でいきますか？」と訊くと、伊集院さんは「日本語にしましょう」と答えた。伊集院さんと私という意外な組み合わせに、曲がかかる前から聴衆はざわついていた。それまで隅の方で退屈そうにしていた山田英幾君（元・政治部記者、ワシントン特派員）までもがスルスルっとステージ正面に移動してきた。この日の歌唱は二人とも気合十分で、日本版をヒットさせた田辺靖雄と梓みちよに近い出来だった（と思う）。サビの部分では男性が女性の肩を抱いて歌うのがお約束の曲であるが、そういうことをしては失礼にあたるので、左手を伊集院さんの背中後方に浮かせていた。人々は大いに盛り上がってくれた。なかでも山田君の昂揚ぶりは顕著だった。普段は斜に構えている印象の彼のあんなに楽しそうな顔を見たことはなかった。山田君は『ヘミングウェイの刻印』をはじめ優れた著作を遺して、この5年後に早世した。

1999年5月、レクリエーションで伊集院さんと横浜にご一緒した。池田正之先輩と才気煥発な女性研究員の4人で「ホテルニューグランド」に滞在したのだ。夜、散歩に出た。港の風に吹かれて歩くうち、「バンドホテル」の前に来た。戦前・戦中・戦後の横浜を語るうえで欠かせないこのホテルが70年の歴史に幕を下ろす夜だとは知らぬまま、最上階のナイトクラブ「シェルルーム」の入り口に立った。フロアは立ち見を含む大勢のゲストで賑わっていた。ほどなく、ウイリー沖山氏（同クラブの支配人、歌手）が足早にやって来て、伊集院さんに、「あぁ！これはこれは。少しお待ちいただければ、お席をご用意できますが」と申し出てくださった。洗練された、とても感じのよい対応だった。お申し出を丁重に辞し、ステージの演奏に送られて、フロアを後にした。映画

のワンシーンのような出来事だった。沖山氏は2020年に亡くなった。

さて、結び。文研時代のある日、私が『20世紀放送史』の構成案を作成していると、伊集院さんが、「君は何を書いているのかな？」とでもいうように、肩越しにワープロの画面を覗き込み、「ほぉ？」という表情をされたことを思い出す。今また、この追想を空の上から眺めて、「ふむふむ、そうだったわね。よく書けていますよ」と学校の先生のように言ってくれる気がする。

伊集院さんは天国でもコロコロと華やかな声で話し、歌ってもおられるに違いない。悲しまないことにしよう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

仙台の小三治さん

木村成忠（仙台市在住）

去年10月7日落語家で人間国宝の柳家小三治さんが亡くなった。そのふた月後の12月8日は小三治さんの仙台での独演会が予定されていた。「柳家小三治独演会」を仙台で初めて聴いたのが2009年10月29日、電力ホールというキャパ1000人の会場だった。それ以降仙台での最後の独演会となった一昨年の12月23日の会まで毎年十二年連続聴きに行った。客の入りは毎回満席。仙台での最後の演目は「粗忽長屋」と「猫の皿」。この日の小三治さんは出来がよかったと感じたらしく「演（やっ）っていて自分でもおもしろかった」と語った。

私は小学生時代から現在まで続く大の落語ファン。大学に入り東京に行くまでもっぱらＮＨＫラジオで親しんだ。その頃ＮＨＫラジオでは限られた演者しか聴けなかった。それはラジオ東京（現ＴＢＳラジオ）が人気落語家と専属契約を結んでいて他局出演を認めなかったからと知ったのはずっと後のことだった。現在は仙台開催の落語会と所蔵の約700枚のＣＤ・ＤＶＤと約400冊の落語全集などの書籍で楽しんでいる。仙台は落語会が多いところらしく年間30から40本ほど開催されている。2018年4月からは小さいながら常設の小屋もできた。私は例年15～20本位聴いているが、去年はコロナ禍の中7本に激減した。

仙台の小三治さんの会は開演前からあたたかい雰囲気に包まれている。それは小三治さんがいつも「仙台は第二の故郷」と公言しているからである。客もそれに応えて「小三治はおらほの落語家だ」と強い親近感を持っているのだ。

小三治さんが「仙台は第二の故郷」というのは東京生まれの小三治さんが就学前、終戦直前までの一時期仙台市の南に位置する岩沼市に疎開していたことを指すのだろう。母親の生まれが岩沼、父親は仙台市の「南隣名取市。両親とも宮城県人なのだ。

小三治さんは「枕の小三治」の異名があり、枕を楽しみにしているファンも多い。時として本題の落語並みに時間を取ることもある。2009年10月29日の高座では、岩沼の疎開の話をしゃべりだしたら、30分過ぎても終らない。小三治さんの窮余の策「落語をしゃべるつもりで準備はしているんですが、次から次へ思い出が湧いてきて止まりません。どうでしょう、このまま続けたいんですが……」。すると会場は「どうぞ続けてください」と催促の拍手。落語家はこれをしゃべりたい、客はそれを聴きたい。演者と聞き手の思いが合致した至福の時だった。

小三治さんの最後の高座は昨年10月2日東京・府中の森芸術劇場の一門会で、演じたのは「猫の皿」。妙な符合だが仙台での最後の高座も「猫の皿」だった。ＣＤディレクター京須偕充さんは「むかし志ん生今小三治」というほど評価が高いネタである。しゃべり終えて来場者に謝意を述べ緞帳が下りようとしている時、それを遮って「皆さんにお願いがあります。いま日本中がコロナで苦しんでいる中、医療従事者の方々が感染を防ごうと日夜奮闘して下さっています。ここで医療従事者の皆さんに拍手を送りたいのですが、いかがでしょうか」。会場は万雷の拍手が巻き起こった。

私は柳家小三治さんと同時代を生き、その落語を聴けたことに感謝し、お礼を申し上げたい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

コモンセンスのひと
宮内さんのこと

木原　毅

宮内鎮雄さんが亡くなった。年末にＣＳのＴＢＳニュースバードの恒例企画『今年の映画を振り返る』（金平茂紀キャスターとのやりとりが楽しかった）に姿がないので心配していたら年明け早々の訃報である。残念だ。

名前から察せられるように宮内さんは敗色濃厚となった1945年1月生まれ。ＩＣＵ卒業後ＴＢＳにアナウンサーとして入社。ＩＣＵ入学時のオリエンテーションで先輩として指導したのがのちの日本人宇宙飛行士第1号となる秋山豊寛さんだったというのも不思議な縁を感じる。さらに加えるなら秋山さんも宮内さんもＴＢＳから当時提携関係にあった英国ＢＢＣへの出向組だ。

入社時より抜きんでた英語力で外信部に届く通信社のティッカーの束から最新の音楽や映画情報を丹念に読みこなして、深夜ラジオの『バックインミュージック』で紹介。ものによっては欧米のエンターテインメント情報に半年以上のディレイがあった時代である。

トーク全盛の深夜放送に骨のある洋楽番組、これを学生時代に熱心に聴いていたひとりが山下達郎さん。その後（ブレイク後である。すでにＴＦＭの『サンデーソングブック』でラジオ界での名声も獲得していた）、たまたまＴＢＳにやってきた山下さんに知人が宮内さんを紹介したところ、当の宮内さん、憧れの人としては実に素っ気ない対応だったそうだ。いかにも宮内さんらしいエピソード。

個人的には仕事よりも海や山といったフィールドでの付き合いがほとんどだったが、民放アナウンサーとして自分に許された範囲で好きなことを責任を持ってこなす、遠慮や忖度はしない。そのスタイルは生涯変わらなかった。もう四半世紀も前だったか宮内さんを含めた仲間で中米に遊んだことがあった。経由地のダラスで日本行きの便を待っているとオーバーブッキングで席を譲ってほしいとのアナウンスが。クリスマスと正月休暇明けで条件はどんどん釣り上がる。残念ながら僕らは全員がそれぞれ翌日から仕事が待っていた。宮内さんはというとことさら悔しそうなそぶりも見せず平然とトム・ジョーンズの『イッツ・ノット・アンユージャル』を鼻歌でハミングしていた。そんな人なのである。

僕が宮内さんにお願いした数少ない仕事のひとつが『森本毅郎・スタンバイ』のタイトルコール。イメージがぴったりだったのでコーナーやサウンドロゴの鳴きもお願いした。番組は今も宮内さんの声で始まる。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

顔の見えないコミュニケーション

小川和之

オミクロン株の急拡大でコロナ禍の出口が見えない今、対面で話す機会が極端に減っている。勢いメールやラインなどのＳＮＳによ

るやりとりが増えることになる。

リモートワークの時代。事務的な要件を伝える通信手段としては便利だが半面、本意が十分に伝わりにくい側面がある。

肉声が直接伝わる電話ならまだしも、特に顔の見えないメールは、時としてちょっとした文字づらの表現が誤解を生んだり、トラブルの元になったりすることがある。

丁寧に書いたつもりが慇懃無礼で逆効果、相手の気持ちを逆撫ですることもある。

機械的なパソコンの文字に人の温もりは感じられないし、よほど名文でもなければ心の機微が伝わらない。

そもそも人間は言葉だけで会話していない。フェースラングェッジ、ボディーグェッジ、アイラングェッジ……無意識のうちにそれらを総動員して全身でコミュニケーションをとっている。

対面であれば相方の表情を見て、その場ですぐ語り口を変えたり、言い直すこともできるが、メールの文章だとそれができない。

更にメールを出した方は、相手がそれをすぐに読んですぐに返事が来ると思い込みがちだが、相手が着信に気づかず返事が遅れたりすると『なぜ返信が来ない』と心配になったり、不信感に発展する可能性もある。かくして人と人との距離がだんだん遠くなる。

また、一度のミーティングで済む作業もメールベースでは、やり取りに時間がかかる。会のパンフレット作成も皆で事務局に集まり印刷会社業者と直接顔を会わせて打合せ、実質三日間で仕上げたが、メールでやり取りしていたら何日かかるかわからない。Ｚｏｏｍにしても細かな修正作業には向かない。

リモートワークの時代でもやはり対面に勝るものはない。

お互いの理解を深めるために、いつかまた酒でも酌み交わしながら顔を合わせてコミュニケーション出来る日が来ることを願っている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

正月雑感

～嘘のまこと まことの嘘～

渡辺紘史

正月には、心引き締め、身を改める習いがある。私の場合、何か厳かな儀式めいたものがあるわけではない。例年、屠蘇の勢いを借りて己の至らなさを叱り、正義が行き届かぬ世の不合理に悲憤慷慨している。

――と言えば嘘で、単に、酔いに任せて不満や愚痴をまき散らしているに過ぎない。昨年の夏に手術を受け、屠蘇なし、お節も控えめにと、医師から酒食の制限をうけたことから、今年は悲憤も慷慨もしないはずであったが、酒はなくても（これも嘘、舐めるほどには嗜みました）、やはり悲憤し慷慨した。昨年発覚した国土交通省の「嘘とごまかし」に対して、である。

嘘やごまかしは、いつの世にも尽きないものだが、格差際立つコロナ禍の最近は、国からの給付金や補助金をだまし取る例が目につく。しかし今回の国土交通省による統計の不正は、国自身によるに「嘘とごまかし」だ。

一喜一憂しながら眺める感染者数、陽性率や病床使用率、昨年末から爆発的拡大を続けるオミクロン株によるこれらの数字は、国民の行動や経済活動を規制する「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」の基準となるもので、よもや虚偽の数字などあり得ないが、国土交通省の数字には、嘘がまかり通っていたのだ。問題の「建設工事受注動態統計」は文字通り国家経済の動向を示し、国内総生産（ＧＤＰ）の値を決め、国民生活を左右する「国家予算」の基礎となる客観的（嘘ではない）数字の集積であるはず。制度がスタートした2000年から始まったという「不正」の中身は、1月14日公表された検証委員会によれば、事務処理遅滞に起因し、さらなる怠慢、不作為、隠蔽につながったというが、数字の水増しを始めた2013年が、記録の改竄や廃棄に実績のある（?）モリ・カケ・サクラの安倍政権の始まりとあれば、そのかかわりの中で、忖度による意図的な数字の誤魔化し偽装となったとの疑いも残る。

19世紀の英国首相ディズレーリの言葉だという〈嘘には三つの種類がある。嘘と大嘘、そして統計である〉にあるように、国家の統計にはもともと嘘が多いのが当たり前なのか、〈数字は嘘つきではない。嘘つきが数字を使う〉というアメリカの経済学者スティーヴン・ランズバーグが言うように、嘘つきたちが、数字を使って意図的に誤魔化しを行ったのか、嘘が個人のものではなく、国家という権力機関によるものであればこそ、モリ・カケ・サクラで果たされなかった国会の中で、ぜひとも明らかにせよと悲憤慷慨する国民も多いはずである。

もう一つは、昨年12月26日に放送されたＮＨＫＢＳ１「河瀬直美が見つめた東京五輪」における「嘘」である。これまで何度も繰り返されるメディアによる「嘘とごまかし」は、自身が長年生きてきた世界のことだけに、他人事でいられない。

番組は、コロナ禍のなかで開催された東京五輪公式記録映画を製作中の監督・河瀬直美氏に密着したドキュメンタリーで、問題とされたのはインタビューでは語られなかった「金をもらって五輪開催反対デモに動員された」とのテロップが流されたことである。後に、その事実はなかったと指摘され、ＮＨＫがそのミスを認め謝罪したのだが、開催には政治的思惑が交差し、国民のなかに大きな議論のあったものだけに、「嘘のテロップ」が意図的な〈捏造〉だったのか、あるいは、あくまでも制作者のミスによる〈誤表記〉なのか問題となっている。

年明けの14日、放送倫理・番組向上機構（ＢＰＯ）は放送倫理違反の審議対象にするかの討議を開始すると発表した。真偽はそこに委ねられるべきだろうが、番組は、自ら望んで監督となった河瀬氏の活動を、五輪に反対する世論の存在も含めて紹介しており、この文脈の中で、あえて五輪反対論者の存在を胡散臭いものとして〈捏造〉する必要があったのか、また河瀬氏の立場への忖度に何の効果があるのか、意図してまで「嘘」をつく、その動機に首をかしげざるを得ないというのが、番組を見ての私の感想だ。

ただ、それとは別に、今回問題なのは、番組制作にあたって、著しく慎重さと丁寧さを欠いたことではないか。いうまでもなく、ドキュメンタリーは事実がすべての出発点。その事実が、あってはならないことや非難すべき重大なことであれば猶更、その事実にきっちりと向き合うべきで、制作者が安易に「テロップ」処理で済ますことではないはずだ。インタビューに肝心の発言がなければ、なぜ再インタビュー（この場合、インタビューをした監督に対して要請する等）しなかったのだろうか。ＳＮＳで感度を研ぎ澄ました最近の視聴者には、常に攻撃材料を漁っている例もみられ、五輪推進者としての河瀬氏の肩を持てば持つほど、河瀬氏を、あのナチス絶対政権下のベルリンオリンピック公式映画総監督、レニ・リーフェンシュタールに重ねる人たちが出てくる。〈嘘も百回つけば真実になる〉（ナチス宣伝相・ゲッベルス）。〈嘘を大声で、充分に時間を費やして語れば、人はそれを信じるようになる〉（アドルフ・ヒトラー）という時代は、現代に置き

換えやすい。また制作側が河瀬監督に忖度を利かせれば利かせるほど、NHKは政権の意のままになるメディアだと揶揄され、信頼を失う結果となろう。1月24日、NHKは、改めて調査チームを作り、問題の調査を始めることを表明したが、ごまかさず、言い訳することなく、事実に丁寧に向き合う努力を続けるべきだろう。

——と、こうすべき、ああすべき、あれはいけない、これもいけないと、今年も変わらずの悲憤慷慨であったが、多くの人たちをだます、このような「公共の嘘」とは違い、普通、人が人としてつく「個人の嘘」に、世は寛容のようだ。——「私は嘘をつかない」というほどの嘘はない。——嘘も方便、人間生活の潤滑油だと、肯定的でもある。

許される嘘に、「ドラマにおける嘘」もある。50年ほど前の話である。ドラマの駆出し時代、“遅（おそ）坂”さん、と呼ばれていた脚本家早坂暁氏の“ホン（＝脚本）とり”をしていた時を思い出す。例によって、ホテルに閉じ込めた早坂さんは、のらりくらり、「今日は20枚」「今日は30枚」と、でまかせばかりで一枚も書かない。ホテルに同宿し見張りを続けるが、よく逃げられる。やっとの思いで、逃げ出した雀荘から連れ戻し、渋谷の街を歩きながらの話である。ゲームのような“本取り”にあきれながら、生意気に「嘘は困ります、演出も、出演者もスタジオで待ってます」と言うと、早坂さんは、いつもの照れたような笑いを少し引き締め、「ナベちゃん、小さな嘘くらい勘弁してよ、ドラマの大きな嘘を必死に考えているのだから——」と答えた。

「小さな嘘、大きな嘘！」、分かったようで分からないままに、妙に納得した。

「大きな嘘」とは、ドラマの骨格をなす、もの語り（＝もの騙り）の構想を謂うのだと、初めて、フィクションたるドラマとは何かを教えてもらったのである。早坂さんはこんなことも言っていた。「ドラマの大きな嘘はいい、しかし小さな嘘はついてはいけない」と。ドラマ描写には、事実に基づく小さなディテール（リアリティー）こそが大事なのだということも教えられたのである。

ドラマの嘘ではないが、わが人生も、多くの嘘とともにあったことを思い出す。人と競り合って自分の大きな転機を選び取った時、大きな作品に出会い、野心に燃えたぎっていた頃のことを。と同時に今、あの「汗をかきながら吐き出していた嘘」はどこに行ったのだと思う自分がいる。〈嘘とは、私がつくったものではなく、階級に分かれた社会に生まれたものである。だから、私は生まれながら嘘を相続している〉（サルトル）と、嘘をつくのは人間であれば当然のことというそぶき、〈人間は時に、嘘をついたり、人をだましたりして生きていかないと、健康がたもてませんよ〉（永六輔）と居直りながら、あの頃は、嘘を抱えて一心不乱に走っていたのだ。

しかし今、我が日常の「嘘とごまかし」、実にスケール小さい。大きな嘘をつく理由もなし、嘘をつき続ける気力もない。つく嘘は、子供が風呂から早く出ようと、唱える数をごまかすような児戯めいたもの。例えば、医者に申告する体調管理上の数字、ノートにつける毎日の記録（摂取カロリー、ストレッチの回数、酒の摂取回数と量）の些細なごまかしなど、いずれも、何のための嘘かも不明で、嘘という意識もない。ただ、いい加減なだけのようだ。〈この歳になると、いやでも本当のことを言っちまいますよ。嘘をつくなんて、とてもめんどうくさくて〉（カミュ）という、そんな齢になってしまったのだろうか。

悲憤慷慨の正月が過ぎた今、昨年の手術の所為だけでなく、身に纏う嘘の衣も剥ぎとられ、ますます軽くなった身体を眺めながら、ただ嘆息するだけである。

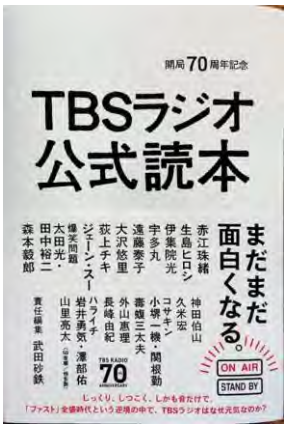
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

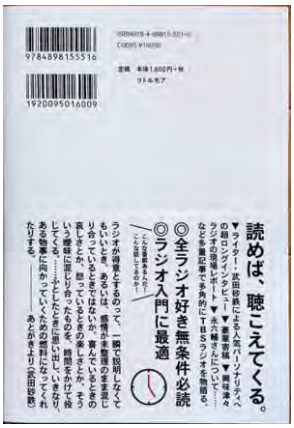
「状況と想像力の同時進行」という放送メディアの立ち位置を確認するために

——「開局70周年記念 TBSラジオ公式読本」を読む

前川英樹

「開局70周年記念　TBSラジオ公式読本」（責任編集武田砂鉄、リトルモア刊）は面白い。





日本の民間放送がスタートした1951年にラジオ東京（現TBSラジオ）は誕生したのだが、その年にCBCラジオ（中部日本放送）、MBS（毎日放送）ラジオなど6局が開局し、翌1952年に12局、翌々1953年は14局と民放が続々と開局している。したがって、このような開局70年企画はこれからもいろいろ登場するだろう。昨年、民放連（日本民間放送連盟）は「民間放送70年史」を刊行した。

「TBSラジオ公式読本」は、武田砂鉄によるTBSラジオのパーソナリティーたちのインタビューを通して、ラジオというメディアの現在がどのような感性と意識で成立し持続しているか、その魅力が掘り下げられていてまことに興味深い。ラジオって面白い、と思わせる。一言でいえば、ラジオを面白がる人の魅力がラジオの魅力なのであるが、その面白がり方そのものがひどく人間的なのだ。けれども、ラジオがそのような魅力に到達するためにはやはり70年という時間が必要だったのであり、そこに至るまでには随分いろいろな曲がり角があったはずだ。

［I］

私が朝のラジオを聴く習慣になって大分経つ。とはいえ、格別熱心なリスナーとは言えない。私とラジオの接点を考えてみた。

私の年代（1941年生まれ）でいえば、私たちの時間の中にはいつもラジオが身近にあった。

さすがに大本営発表は憶えていないが、「東部軍管区発令」で始まる空襲警報は微かに憶えている。玉音放送の記憶はない。次に来るのが、敗戦後である。それは、今話題の「カムカムエブリボディー」であり、「東京ブギウギ」や「銀座カンカン娘」である。「二十の扉」、「話の泉」、「とんち教室」は一家の楽しみであり、「鐘の鳴る丘」（上野駅は怖いという記憶がそこにはある）、「新諸国物語」（紅孔雀、白鳥の騎士、など）が始まる時間は遊びを止めて家に帰ったものだった。「三太物語」に「さくらんぼ大将」。夜は、徳川夢声と七尾玲子の「西遊記」を覚えているが、大人たちの話題は「君の名は」だった。よく分からなくても「街頭録音」になぜかドキドキした。中でも印象に残って

いるのは「尋ね人」だった。黒竜江省とか松花江という名前もそれで覚えたのだと思う。気象状況でウラジオストックとかナホトカとかいう地図でも知らない地名を覚えた。世界地図なんて小学校上級生まで見る機会がなかったように思う。メルカトール図法という言葉とともに世界がやってきた。

そして民放が誕生する。「ぴよぴよ大学」とか小西六(現コニカミノルタ)が提供する番組、そしてコマーシャルという新しい情報形式に出会う。

三歳年長の兄は私と違って理科好きで鉱石ラジオを組み立てていた。バリコンとはバリュアブルコンデンサーというのだが、それが何なのかは全く分からなかった。家庭用ラジオにマジックアイというものが付くようになって、周波数探しが簡単になったのは何時頃だろうか。

スポーツ好きな父は、相撲はもちろん六大学野球などの熱心なファンだった。慶応の平古場・衆樹・中田、早稲田の広岡・小森、明治の入谷、立教の五井、法政の関根、などの名前は私も憶えている。ラグビーをラジオで中継するというのはなかなか難しかっただろうが、そのスポーツはメートルではなくヤードで距離を示すのだということもラジオを通して教わった。箱根駅伝はその頃から熱心に聞いていた。

落語は志ん生、文楽、三木助、金馬など。ラジオを聴きながら噺家がいまどんな仕草をしているのかを父が解説してくれた。

歌謡曲?は、灰田勝彦、ディックミネ、美空ひばり。教育熱心な母に、流行歌は不良になるからやめなさいと言われた。

中学生の頃から映画音楽やポップスが流れてくるようになったと思うが、その頃は家の事情でラジオを聴く機会はほとんどなかった。日曜日の朝、洋盤?を掛ける番組を聞いた記憶があるが番組名も覚えていない。ポポンミュージックレターだろうか?ユカワレイコという名前を知っているがその番組だったかどうか定かでない。

大学受験の頃、ラジオ講座を聴いていたが何の講座か忘れたし、効果があったかどうかも分からない。下宿暮らしの夏休みに甲子園の高校野球はよく聴いていた。

大学時代もラジオに接する機会はあまりなかったが、何故か森繁久彌と加藤道子の朗読で「石光真清の手記」を覚えている。後に「城下の人」以下四巻の名作であると知った。繰り返し読んで、これは近代日本の記録として傑作だと今でも思う。

大学1年の時に安保闘争を経験するのだが、その時「ラジオスケッチ」(ラジオ東京)でラジオドキュメンタリーという世界を知り、ラジオ関東(現RFラジオニッポン)の島アナウンサーが機動隊に殴打されながらレポートした現場生中継に衝撃を受ける。

といって、それがこの世界に入る理由ではなかった。

[Ⅱ]

TBS(1960 年社名変更)に入った頃、ラジオは午前中に「ウッカリ夫人とチャッカリ人」というドラマが放送されたていたり、午後はワイド型の編成が始まろうとしている中に「こども電話相談室」が組み込まれていたりという時代だった。ラジオフロアーの廊下を通ると、OA中の音声が廊下に流れていて、テレビ局舎とは違う時間と空間がそこにはあった。だが、その違いを深く考えることをその時私はしなかった。テレビの圧倒的成長を前にして、いま思えば過渡期としてラジオは様々なトライアンドエラーを試みようとしていた時代だったのだろう。その後、TBSは分社化という選択をしてTBSR&C(ラジオアンドコミュニケーションズ)になり、そして今TBSラジオになっている。私は分社化の時期に、本社としてラジオ部門の組織が必要だということで一時期ラジオ局長を担当していた。

その時代を経て、いまのパーソナリティーによる新しいラジオ文化に行き着いたのだと思う。産業としてラジオがどのようなポジションを占めるのか見えていないが、文化としてある手応えを確かめようとしているのだと私は思う。ラジオはいま何か新しい鉱脈を掘り当てつつあるのではないだろうか。そう思うのは、この本「TBSラジオ公式読本」を読んだからでもあるのだが、同時に70周年企画のもう一つの企画のことを思ったからでもある。

[Ⅲ]

昨年(2021 年)末で終了してしまったのだが、TBSラジオは70 周年企画の一つとしてラジオ東京時代の番組アーカイブの音源を公開していた。ああっ!いい仕事をしていたのだラジオは、と凄く率直に思った。ドラマもドキュメンタリーも、だ。今更、そのような手間暇かけた完成度の高いパッケージ型の番組が求められる時代ではない。それはその通りだ。しかし、そのような番組が、人々が求めるメディアに民放を育てたのだし、その継続と蓄積の上に今のラジオがあることを知っておくべきだろう。そうしたアーカイブは常に開かれた形で人々に提供されるべきである、そう思う。

「公式読本」というからには、そこにもっと踏み込んで欲しかった。“それ”がなければ今はない。ちょっと残念。

創成期の頃、選挙報道の聴取率調査を分析したラジオ東京は、社報に「報道の民放、娯楽のNHK」と書いたはずだ。ラジオが報道メディアとしてやるべきことを私たちの先輩は自覚しつつあったのだ。NHKがなくても聴取者は困らない、そういう放送局を目指していたのだ、と思う。その数年後、60年安保闘争が最も激しかった状況でアイゼンハワー米大統領の訪日が迫り、政府は「アイク訪日歓迎」のスポットを放送するよう各局に要請した。その時、ラジオ東京編成課長は「このスポットはOAは出来ません」と拒否したのだった。

「TBSラジオ公式読本」に「(武田)――この本をまとめていてTBSラジオは『戦争を伝える』という意識を強く持ち続けてきた放送局なのだなと痛感します。**外山**　大切にしなければいけないところだと思います。・・・**長峰**　だってそれしかないじゃないですか。それ以外にないじゃないですか。語りついていくしかないんです。」とある。こうした意識は個人から個人へと受け継がれていくのだが、それは局の共有の意識財産として蓄積され継承されていく。

だから、アーカイブが必要なのであり、それは公開されなければならないのだ。

[Ⅳ]

「放送人」というカテゴリーについて最初に語ったのは梅棹忠夫であるという。彼はこう書いている。以下、「放送人の誕生と生成」(「情報の文明学」中公叢書所収1968. 初出:「放送朝日」1961 年10 月号　朝日放送)以下、**太字は引用者。**

「民間放送の発達は、この一〇年間にいろいろの社会的効果をもたらしたが**放送人というものを、ひとつの社会的カテゴリーとして確立したこと**をも、その成果の一つにかぞえあげてもよいであろう。」

「かれら(ラジオ、テレビの制作者たち…引用者)」は、まことに創造的であり、また、まことにエネルギッシュである。しかし、かれらのつくっているものが、かれらの創造的激し

いエネルギーの消耗に、ほんとうに値するものなのであろうか。」「全く、ラジオもテレビも放送してしまえばおしまいだ。どんなに苦心してうまくつくりあげた番組も、一回こっきり、後はなにものこらない。そのために、何日も、何週間もまえから、ひじょうな努力をほらうのである。」

「わたしがいっているのは、彼らがむだな努力をしているということではない。かれらがあれだけのエネルギー放出をやっている以上、現代の健全な哲学にもとづいて、そのエネルギー放出を正当化するにたるなんらかの論理的回路が、かれらの心のなかに用意されているはずなのだ。それは何かということなのである。この点をはっきりさせることが、**放送人というものの内的人間像の、論理的側面をあきらかにする**ことにもなるだろう。」「けっきょく、なにに生きがいをもとめて、あれほどのエネルギーを注入するのかといえば、番組の**商業的効果ではなくて**その番組の**文化的効果に対する確信**みたいなものがあるからではないかとおもう。」「**放送人の社会的存立を保証する論理の回路は、けっきょく文化性をもってこなければ完結しないのである。**」

「じつは、**ある一定時間を様々な文化的情報でみたすことによって、その時間をうることができる、ということを発見した時に、情報産業の一種としての商業放送が成立したのである。**そして、**放送の『効果』が直接に検証できないという性質を、積極的に評価したときに、放送人は誕生したのである。**」

パーソナリティー時代のラジオも、梅棹が指摘するそのメンタリティーと構造は変わらないのではないか。

もう一つ引用してこの拙文を終わりにしよう。テレビの存在について、私たちが常に立ち返るべき原点を指し示す言葉である。

以下「お前はただの現在に過ぎない　テレビに何が可能か」(萩本晴彦・村木良彦・今野勉、田畑書店 1969 ・再刊 朝日文庫 2008)より。

『「時間」をすべて自ら政治的に再編したあとで、それを「歴史」として呈示する権利を有するのが「権力」だとすれば、そのものの「現在」が(を?…引用者)、as it is(あるがままに)呈示しようとするテレビの存在は、権力にとって許しがたいであろう。「テレビ、お前はただの〈現在〉に過ぎない。お前は安定を欠き、公平を欠き、真実を欠く」――それが体制の警告だ。テレビが堕落するのは安定、公平、などを自ら求めるときだ。

「時間」をすべて自ら選択し内面化したあとで、それを「作品」として呈示することを「芸術」とするならば、時間を追うことによってのみ、独自の表現をもたらそうとするテレビは、芸術の第一義的本質を欠いている。非選択的、非永遠的、非作品的……etc。それは、いわゆる「芸術」からみれば「テレビ、お前はただの〈現在〉にすぎない」となるだろう。……「黒人にとってジャズは一般的黒人文化のほとんど直接的な表出である。」(リロイ・ジョーンズ)。大衆にとって、テレビは一般的な大衆文化のほとんど直接的な表出である。

「テレビ、お前はただの現在に過ぎない」という否定は、そのままこうして一挙に裏返しにされる。「イエス、テレビ=わたしはただの現在でありたい。」テレビはこのとき、権力のための情報機関であることから身を辛うじて引き離し、芸術のための表現媒体であることの誘惑からも辛うじて身を守ることが出来る。[V]

現下の状況は、「放送法4条」(政治的公平性)を制度問題としての議論することを迫るだろうが、しかし私たちが制度の問題の前提をどこに置くかは極めて重要である。メディアの可能性を抑圧しようとして制度が作用することに私たちは常にナーバスでなければならないが、制度論の危うさはメディアの本質への視線をしばしば阻むように作用することにある。メディア論の重要性は、制度を越えて情報と人間との関係を語るところにある。

「テレビ、わたしはただの現在でありたい」というこの一言について考えなければならないのは、テレビマンだけではない。ラジオもまた同じ問の前に立っている。これは、機能の問題ではなく方法の問題であり、方法は思想である。私は、〈状況と想像力の同時進行〉が、放送メディアの立ち位置だと思う。ラジオは、今このテレビマンが発見した「原点」に極めて近いところに立とうとしている。私が、ラジオの可能性を見るのはそこである。そこに探り当てるべきこのメディアの鉱脈がある。それは放送メディアの地下水脈なのだ。

梅棹忠夫のいうところの「放送人というものの内的人間像の、論理的側面」は放送人の本質を鋭く指摘しているのであり、それは放送人のオリジナルな特性でもあるのだが、放送人は自らに先行する新聞人や映画人演劇人、そして文学人?達を観察し、自らの立ち位置を手探りで確かめつつ「放送人」に行き着いたのである。いま、ラジオが新しい可能性の中で新しい放送人=ラジオ人(マン)を発見することが出来るとすれば、それは必ずテレビ人(マン)たちに極めて多くの刺激を与えるであろう。デジタル時代の放送はそのようにして自らの道を開いていかなければなるまい。**〈状況と想像力の同時進行〉**という放送メディアの原点を確認するためのヒントが、この「TBSラジオ読本」には散りばめられている。

個別のパーソナリティー論やラジオ編成の現在については、多くの論者が語るであろう。

武田砂鉄さん、TBSラジオの担当者のみなさん、お疲れさまでした。

【追記Ⅰ　精緻なあるいは鋭利なメディア論は数多あるが、読み物としてあるいは経験的に面白く且つちょっとドキドキするようなメディア論は、例えば「テレビの青春」(今野勉)、「テレビ回想録　さらばわが愛」(和田勉)、「ぼくのテレビジョン」(村木良彦)、「星の林に月の舟　怪獣に夢見た男たち」(実相寺昭雄)、「芸能人の帽子　アナログ時代のタレントと芸能記事」(中山千夏)、「久米宏です　ニュースステーションはザ・ベストテンだった」(久米宏)、「8時だヨ!全員集合の作り方」(山田満郎)、「ザ・ベストテン」(山田修爾)、「さらば卓袱台　テレビドラマの風景」(守分寿男)、等々あり、夫々にまことに面白く奥が深いのだが、この「TBSラジオ公式読本」は書架にあるそれらの本の隣に並べたい。

【追記Ⅱ　「放送人の会」は、昨年「NHK経営計画 2021-2023」についての「意見」を公表した。詳細は「会報」(NO93.2021.11.12)あるいはホームページを参照して頂きたいが、そのとき私たちが強く意識していたのは、放送にとって経営合理性以前にその根底にあるのは「文化的存在理由」であり、放送の公共性とはその一点にかかっているということであった。

先人の残したものを私たちが記録しなければならないのは何故か。TBSラジオは70年を経てあらためて放送メディアの何たるかを問い直そうとしている。

【追記Ⅲ　この文章を、ラジオを深く愛した畏友故加藤節男が読んだらなんというだろう。きっと辛口のコメントが返って来るに違いない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

大河ドラマのタイトル考

鈴木嘉一

ＮＨＫで1月から始まった「鎌倉殿の13人」は、61作目の大河ドラマとなる。数字が入ったタイトルは、5作目の「三姉妹」（１９６７年）と「八代将軍 吉宗」（95年）、「葵 徳川三代」（２０００年）など4作あったが、洋数字はこれが初めてだ。黒澤明監督の「七人の侍」、工藤栄一監督による集団アクション時代劇「十三人の刺客」などの傑作映画を挙げるまでもなく、時代劇には漢数字のほうがしっくりする。

しかし、作者の三谷幸喜とＮＨＫのスタッフは今回、物語の核となる人数をあえて洋数字で表した。題名一つ取っても、新しさを打ち出したいと考えたからではないか。

三谷が初めて手がけた大河ドラマは、近藤勇を主人公とする２００４年の「新選組！」だった。文章に「！」を多用する若い世代を意識し、当世風のニュアンスを込めた。大河ドラマで初めての続編「新選組!! ～土方歳三 最期の一日～」は、06年の正月時代劇として制作された。感嘆符が二つに増えたのは、作り手の遊び心を感じさせた。

新聞社は今や、東京新聞などごく一部を除くと、洋数字の表記を原則としている。三谷とスタッフたちは、大河ドラマでも違和感を持たれないと踏んだのだろう。

これまでの大河ドラマを振り返ると、幕末の大老井伊直弼を主人公に据えた舟橋聖一原作の第1作「花の生涯」（１９６３年）がそうだったように、初期は有名作家の小説をドラマ化していたので、原作名をそのまま使うケースが多かった。企画の独自性と脚本家のオリジナリティーが重視されるにつれ、題名も独自色を出し始めた。初めて庶民を主役に据えて、戦国時代を描いた78年の「黄金の日日」や、鎌倉時代初期を背景にした79年の「草燃える」、山田太一が大河ドラマ初のオリジナル脚本に挑んだ80年の「獅子の時代」、橋田壽賀子のオリジナル脚本による81年の「おんな太閤記」はその代表格だろう。テーマ性を込め、文学的な香りも漂わせた。

60作のうち、歴史上の人物の名前をそのまま題名にした作品は、4作目の「源義経」以来、「勝海舟」「徳川家康」「武田信玄」「春日局」「毛利元就」「徳川慶喜」「北条時宗」「篤姫」「平清盛」の計10作を数える。わかりやすいが、芸がない。大河ドラマ最大のヒット作「独眼竜政宗」（87年）や「龍馬伝」（２０１０年）のように、名前の一部を取り入れた題名は14作に上る。

ちなみに、松本潤が徳川家康にふんする来年の次回作は「どうする家康」と発表された。「どうする」という話し言葉を取り入れることによって、歴史をつくった英傑を現代人にも身近に感じさせようという意図と思われ、大河ドラマの題名では変化球と言える。

オリジナルのタイトルでは、ある傾向がうかがえる。「草燃える」をはじめとして、初めて太平洋戦争の時代を取り上げた「山河燃ゆ」（１９８４年）、奥州藤原氏4代の興亡を描く「炎（ほむら）立つ」（93～94年）、吉田松陰の妹を主人公にした「花燃ゆ」（２０１５年）などには、「主人公たちは真っ赤に燃えて、その時代や社会に大きな影響を及ぼした」という共通のイメージが託されている。それにしても、二度の「燃ゆ」は感心しない。

１９９０年代後半には、「秀吉」「毛利元就」「徳川慶喜」とそのものずばりのタイトルが続いた。なぜ〝実名路線〟なのか、当時のＮＨＫドラマ番組部長に尋ねたところ、「続いたのはたまたまです。徳川慶喜の場合、『最後の将軍』だと滅びのイメージになってしまう。一人の青年が時代と格闘する姿を描きたいので、司馬遼太郎さんの原作の題名は避けた。いろいろ考えた末、これ以上のタイトルは思い浮かばなかった」と率直に語った。

これにならうなら、２０１６年に放送された三谷の大河ドラマ2作目は「真田幸村」となっただろうが、それは避けられた。真田信繁（幸村）の生涯でクライマックスとなるのは、徳川方の大軍と戦う大坂冬の陣と夏の陣だ。真田勢が迎え撃つ出城の名前から「真田丸」と付けられ、ドラマを象徴するこのタイトルには感心させられた。

終盤の回のラストで真田丸が完成し、「名前は何としましょう」と問われた幸村（堺雅人）は「もちろん、真田丸よ」と即座に答えた。と同時に、テーマ曲とタイトルバックが流れるエンディングも、視聴者をあっと言わせる「コロンブスの卵」だった。

今回も、小栗旬が演じる主役の名前を付ける「北条義時」ではなく、「鎌倉殿の13人」としたのは巧みなタイトルと褒めたい。「鎌倉殿」とは言うまでもなく、平家を滅ぼした源氏の棟梁、源頼朝のことだ。13人は頼朝の没後、鎌倉幕府を合議制で運営した有力御家人たちを指す。北条義時伝というより群像劇の色彩が濃く、権謀術数や血生臭い謀殺が横行する内部抗争によって一人、また一人と消えていく。「きのうの友はきょうの敵」や「敵の敵は味方」という格言のとおり、スリリングな物語展開を示唆している。

これを現代の企業社会に置き換えてみよう。同じ年に入社した同期生たちも、歳月とともに出世の階段を上る人間が限られ、座るポストの数は上に行けば行くほど少なくなる。ピラミッド型の権力構造と激しい権力闘争は古今東西、人間社会の真理ではないか。

なお、朝日新聞夕刊で週1回連載されているエッセー「三谷幸喜のありふれた生活」では、「鎌倉殿の13人」以外はすべて漢数字が使われている。どこの新聞社も、作家らには特別扱いとして好みの表記を許容しているので、三谷自身は〝漢数字派〟なのだろう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

歌は時代を映す

～イムジン河～

小池勝次郎

「イムジン河水清く　とうとうとながる
水鳥自由に　むらがりとびかうよ
わが祖国南の地　おもいははるかイムジン河水清く　とうとうとながる・・・」

哀愁と望郷の思いをこめた歌が聞こえてきた。この曲は、いまから半世紀余前フォークグループ「ザ・フォーク・クルセーダズ」によって歌われ世に出た「イムジン河」（1968年2月）である。

コロナ禍のこの2年間、企画制作した白鷗大学フォーラムは、対面形式をやめオンラインによるＷＥＢ放送に切り替え6回シリーズで開催した。

そのタイトルは、「きたやまおさむと語る～危機と日本人～」。昨年12月のＷＥＢ放送「ポストコロナ、歌で紡ぐ素晴らしい愛」では、作詞家であり精神科医である本学学長きたやまおさむの〝歌の世界〟をゲストとともに旅し、「あの素晴らしい愛をもう一度」等数々の名曲が時を越えて今なお人々に愛され続ける時代性を考察、歌の魅力とパワーが人々の心を糸のように紡ぎ生きる力を与えていることを検証した。1970年代「ザ・フォーク・クルセーダズ」時代の北山修が作詞、フォークシンガー杉田二郎が作曲した「戦争を知らない子供たち」他を、ゲスト杉田氏が歌い当時学生運動の

盛りあがるなか反戦歌といわれ、若者の心をとらえた曲が生まれた背景をあつく語り、多くの反響をいただいた。

一昨年2月NHKBSプレミアム、昨年12月NHK総合で「アナザーストーリーズ運命の分岐点『時代に翻弄された歌イムジン河』」が放送された。番組から流れてきた歌「イムジン河」は、北朝鮮で生まれ京都の朝鮮学校で歌われていた曲に一人の作詞家が日本語の歌詞をつけレコード会社が発売を試みたが、朝鮮総連からの抗議で発売中止となった。しかしその後、日本・北朝鮮・韓国で数奇な運命をたどるなかよみがえり歌いつがれ、その思いはいまなお人々の心に響き続けている。時代はいま大きく変化している。日本そして世界は、コロナ禍の流行拡大で人々の日常が激変し心の有様に大きな影響を与えた。米中の民主主義と覇権主義の対立、民族間の亀裂、貧富の差等、各地で格差や壁、分断が際立ち混迷を深めている。

歌は時代を映す鏡といわれる。ポストコロナの混沌とした分断の時代、再び「イムジン河」にスポットが当たる。2022年度白鷗大学フォーラム（16年目）は、きたやまおさむ楽曲の一つ「イムジン河」をコンセプトに企画検討に入っている。歌そして音楽が、人々の心をいやし希望の灯となり続けることを願う。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

祖父が沸かしてくれた 温かい風呂

大類なぎさ

幼い頃よく、父の実家へ泊りに行った。山形県最上郡舟形町。豪雪地帯で冬は積雪2mにもなる。

とにかく寒い。手を洗う水は針を刺すような冷たさだ。とりわけ寒かったのは風呂場で、室内温度は常に外と同じ氷点下だった。

だが、四畳半ほどの風呂場にあった桶風呂の湯は温かかった。祖父が作った桶風呂だ。

納屋には薪と亜炭がたくさん積み上げられており、祖父はその亜炭で、いつも風呂の湯を沸かしてくれた。

亜炭は質の劣る石炭で、戦時中は家庭用燃料として利用されていたという。山形県に最も多量に存在する地下資源だった。

最上炭田は県内に存在する亜炭田のひとつで、その中心地だったのが、父の故郷舟形町である。なかでも木友炭鉱や中山炭鉱は、昭和31年頃が全盛期だったという。

どの炭鉱で働いていたのかは分からないが、父の話では、祖父は炭鉱夫だったという。

大正2年生まれの祖父は、生まれつき体が小さいうえに病弱で定職にもつけず、戦時中は、徴兵検査も通らなかった。仕方なく炭鉱で選炭作業をして働いたが、エネルギー革命で燃料が石炭から石油に代わり、亜炭鉱も閉山。祖父も失業者となった。

父が話していた。「あの人（祖父）の一生涯の屈辱は戦争に行けなかったことだ」と。

私は、ペンで「反戦」を訴え続けてきた、父のその言葉が最初、理解できなかった。

徴兵にとられなければ、戦地に行かずに済む。無駄死にすることもなく、家族を悲しませることもない。

「戦争」というものが、そこまで人の心を追い詰め、歪めてしまうのかと思うと、寒々しさを覚え、鳥肌が立った。

祖父は亡くなる最期まで、自分の過去について触れることは一切なかった。

2022年1月6日。東京都にも雪が降った。積雪10㎝。

コロナ禍で2年も帰省していない。そろそろ雪の匂いが恋しくなり、10㎝の雪でも懐かしいと思ったが、さすがに寒い。風呂場の湯船から離れることができない。

そんな時に懐かしく思う。

こんこんと雪が降る冬の夜。「月がでたでた…」という炭坑節が響き渡る。祖父がハーモニカを吹きながら、真っ赤に燃える亜炭に薪をくべて沸かしてくれた。

あの風呂の湯の温かさが懐かしい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

細々といまもまだ

金沢市 中崎清栄

取材に協力してくれた若者が「Uチューブに乗せたいが良いか？」と聞き、「テレビは見ない、将来はUチューバー希望」と言うのです。

「出演したんだ、使いたい！」気持ちは理解しながら、やんわり断りながら『テレビ界はこの先どうなる？』と考えます。

それに加え「ドキュメンタリーは絶滅危惧種」にもひっかかります。

視聴率は取れず、手間ばかりかかりますが、『放送の基本はドキュメンタリー』と信じているだけに残念で「生き残る道は良質コンテンツを目指す事では？」とつぶやく昨今です。

☆ ☆ ☆ ☆

公開セミナー **第51回名作の舞台裏**

『パパはニュースキャスター』

3月21日(春分の日)13時30分～

横浜市市民文化会館 関内ホール

〈ゲスト〉

西尾マリ／大塚ちか子／鈴木美恵子（出演者）

伴 一彦（脚本）

八木康夫（P／放送人の会）

〈司会〉

堀井美香（TBSアナウンサー）

昨年4月に永眠された田村正和さんが、コミカルな主人公を演じた話題作。

1987年1月9日から毎金曜・夜9時・全12回。

子供嫌いの独身主義者のもとに、突然現れた12才の娘たち・3人！「あなたは私のお父さん！」と同居。生活がはじまる…。

〈主催〉**（一社）放送人の会**

（公財）放送番組センター

会員の皆さま、ふるってご参加下さい。

参加希望者は事務局まで、お電話・FAX・メールなどで、ご一報下さい。

放送人グランプリ下馬評座談会

恒例の下馬評座談会をお届けします。いつものようにA、B、C、Dとあるのは段落記号のようなもので、特定の発言者を示すものではありません。

文頭のA、B、Cは、いつものように段落とお考え下さい―。

グランプリのノミネートの参考にしてください。

投票締切は、3月18日(金)です。

【お詫び】申し訳ございません。写真撮影を失念しました。お許し下さい。

◇2021年、どんな年だった?

A　話のきっかけに、エッセイスト青木るえか氏の2021年テレビベスト5の記事を朝日新聞のWEB「論座」から紹介する。

第5位**「夫のチンポが入らない」**（CX）。第4位の宮藤官九郎・脚本**「俺の家の話」**はドラマの当たり年の象徴的作品。（TBS）。第3位が衝撃のしょぼさの**「東京五輪開会式生中継」**（NHK）「素晴らしい！すごい‼」アナウンサーは声を張り上げる。第2位**「小室圭・眞子夫妻結婚会見　生中継」**（NHK、民放各局）。日本でいちばん名門の家で「好きなように結婚します。好きなので」と堂々と宣言。第1位は**「『秋篠宮誕生日会見』の収録映像および、それを報じたニュースやワイドショー」**。花嫁の父が普通にまともな対応をしたのに、これほどまわりが騒ぐのはどうなのか。

……天皇家の一族も少子化だった。

B　顕著な2点挙げる。第1点。コロナ禍2年目に入って、現地で取材できない中で、やってみれば結構出来るぞ、と制作者は新しい手法に気づく。テレビの放送史で大きなエポックになった。第2点。太平洋戦争80年、第1次資料の発掘が無くなって証言も取れない中で、太平洋戦争の新資料が発掘され、天皇側、陸軍海軍側、それぞれに見事なものが出て来た。恐らく高校の教科書の教材になるものが蓄積できた。制約の中でも大きな成果が生まれてきていると感じている。

C　太平洋戦争80年でBS1を中心にかなりの本数を作っていて、何本か見た分では大変見応えがあった。また、NHKが2025年に向けて大きなプロジェクトで取り組んでいるのを注視したい。

年明けの印象に残った地域ドラマ。NHK大津局制作の開局80周年記念ドラマ**「キャンパスで会おう！」**BS1・1/6木、24:10～、27分。滋賀県の大学生にコロナ禍の2年間を取材し、リアルな体験をもとに制作。脚本：三谷昌登、D：松本仁志、制作統括：谷口僚平、出演：八木莉可子、イッセイ尾形ほか。農学部に晴れて入学したが、コロナで入学式は中止、オンライン授業で友達もできない！

D　コロナとオリンピック、菅内閣が倒れて岸になる。コロナで様々な催し物が潰れた。被爆者の団体も活動を殆どやっていない。各国との交渉も停滞した。色んな活動がちゃんと出来ていないので、それも番組に反映しているような気がしてならない。

番組では、バラエティの**「アイ・アム・冒険少年」**（TBS、毎月曜19:00～）で、無人島から脱出する**『脱出島』**が面白い。タレントでは、**あばれる君**と**フワちゃん**が面白い。戦争ごっこや鬼退治が流行るのは、どういうことなのか、誰か教えてくれないか？

A　コロナ・オリンピック・開戦80年。オリンピックで8月の放送枠を取れなかったせいか、NHKでは二山に分けて、8月と12月に戦争関連（終戦と開戦）を編成。青木るえか氏の記事にもあったが、天皇と秋篠宮家の話、それと戦争関連のE特**「昭和天皇が語る開戦への道」**（前後編、12/4, 11）は、戦争責任を一人の人間としてどう感じ取っていたのかを、きちっと捉えていて非常に見応えがあった。

B　今まで戦争関連の番組では被害者側から描いていたが、『開戦』というキーワードで、仕掛ける時から描いたため、特集ドラマ**「倫敦ノ山本五十六」**（12/30）も含めて、加害者側から描いていた。

ドキュメンタリー系では、証言の発掘が斬新で深いものがあり、ドラマよりはるかに『戦争に来たひとりひとりの人間ドラマ』を感じさせられた。

C　若い人に見て貰おうとAIを使って努力しているが、少し不安に思うのは、戦争中のフィルム映像をカラー化して見せること。確かにカラーはリアリティーを感じさせるが、例えば、あと何年か経った時に、本物の中にカラー化の映像が紛れ込んでいて、そのまま全てが本物だと錯覚して使われないかと心配です。

D　2020年は戦後75年の節目で、コロナ1年目、東日本大震災10年と話題は色々あったが、21年は開戦80年はあったものの、なにか特色に欠けた年でした。ギャラクシー賞もテーマに悩んでいると感じた。そうは言っても、SDGs、大谷翔平など、それなりの特色はあった年だと思います。

開戦80年で、被害者意識から加害者意識に視点が変わったのは、重要な年だったと思います。

A　ドラマで、一つだけ推薦するなら、**「今ここにある危機とぼくの好感度について」**。これを、コロナの前に企画制作したのは凄い！　コロナが起こって、この国のあり方とか、いい加減さが露わになったわけだから、予言したように、目の付け所が凄いのだ。脚本の渡辺あやさんか、勝田夏子Pなのか、特筆すべきドラマだ。

B　昭和のブラウン管のテレビを支えた人たちが鬼籍に入られた。**橋田壽賀子**さん95歳。**鴨下信一**さん85歳。**澤田隆治**さん88歳。俳優では、**田中邦衛**さん88歳。**田村正和**さん77歳。**千葉真一**さん82歳。**中村吉右衛門**さん77歳。

田村正和さんはテレビ俳優に徹しても、スター性は無くならないという素晴らしい俳優でした。

田中邦衛さんは、死亡記事だと若大将や仁義なき戦いが先に書かれる個性派俳優に過ぎなかった。彼が国民的俳優になるのは、20年続いた『北の国から』があったからで、その意味でもテレビに残した功績は大きい。

テレビを書く人・出る人・作る人が亡くなって、昭和の残照を感じる。

C　亡くなられた方で、ウルトラマンの**飯島敏宏**さんをあげておきたい。木下プロの功績もあるが、ウルトラマンをテレビの世界に登場させたのは、偉大な仕事であったと思う。

D　新しい潮流がある。放送の動画配信サービスがますます存在感を増したこと。日本テレビは去年の秋から、ゴールデンのドラマやバラエティで同時配信を始め、民放各局もな

誤字脱字はご勘弁！　　2022/02/11　菅野記

2021 年度・私的メモ／気になるドキュメンタリー＆ドラマ

○ＢＳ1 スペシャル・**「ゴミが教えてくれたこと ～あるゴミ収集員の記録～」**3/18 木、21:00～、49 分。
　コロナ禍で奮闘するゴミ収集員の日常をノーナレで伝える。横浜で深夜、一日三トン。「ゴミには愛された記憶が残る。」
　撮影・Ｄ：高橋裕和、Ｐ：横山友彦、制作統括：荒川格、制作著作：ＮＨＫ。

○ＢＳ1 スペシャル**「満州難民感染都市」**3/28（日）22:00～、50 分+50 分
　前編『知られざる悲劇』、後編『祖国への脱出』発疹チフス。取材：内山直樹、松井？？　Ｄ：矢島良彰、制作統括：梅原勇樹、塩田純、制作統括：梅原勇樹、鐘川崇仁、塩田純、制作：ＮＥＤ、制作著作：ＮＨＫ、テムジン、

○ＮＨＫＧ・Ｎスペ**「追跡 “コロナ犯罪”」**4/3（土）21:00～、49 分
　コロナ禍による普通の人々が犯罪。助成金の不正受給、顧客情報の換金 etc. 取材：高橋圭太、影山遥平、橋野朝奈、林雄大、平瀬梨里子、Ｄ：新名洋介、田中誠也、境一敬、Ｐ；鈴木伸元、制作統括：鈴木秀文、三石泰行、石田望

○ＢＳ1 スペシャル**「渋沢栄一に学ぶＳＤＧｓ “持続可能な経済” をめざして」**4/3（土）22:00～、50 分
　渋沢の病的な性癖はＳＤＧｓにそぐわない。番宣です。出演：渋澤健（玄孫）、語り：田辺誠一、取材：宮沢天馬、木學卓子、Ｄ：小関竜平、Ｐ：奥田朋之、制作統括：堅達京子、新藤誠、制作：ＮＥＰ、制作協力：テレコムスタッフ、制作著作：ＮＨＫ

○ＮＨＫＥテレ・ＥＴＶ特集・シリーズパンデミック揺れる民主主義
　「ミャンマー　立ち上がる市民たち」　4/3（土）23:00～、59 分
ミャンマー人…7 割の仏教徒、20 の少数民族 200 の多文化。キリスト教やイスラム教（ロヒンギャ）への差別。明日はシリアか！　キャスター：道傳愛子、Ｄ：新田義貴、Ｐ：山口哲也、制作統括：東野真、

○テレビ朝日・テレメンタリー**「先生、お産です。～産声守る 75 才の産科医～」**4/4（日）4：30～、
　個人病院を赤字で閉じて勤務医に。南さつま市。Ｄ&編集：小田葉月、Ｐ：折田義樹、制作：鹿児島放送

○ＴＢＳ・ドキュメンタリー“解放区”**「約束　～真菜と莉子へ～　池袋母子死亡事故から 2 年」**4/4（日）24:58～、60 分枠。
　元高級官僚 87 才の暴走運転の被害者遺族・松永卓也さん。取材・Ｄ：宇田哲、Ｐ：武石浩明、藤井和史、制作著作：ＴＢＳ

○日本テレビ・ＮＮＮドキュメント 21**「夢見た国でみたものは　彷徨う外国人技能実習生」**4/4（日）25:00～、30 分枠。
　徳島の農園で働く技能実習生の実態。借金。劣悪。監視。そしてコロナ禍。
　Ｄ：小喜多雅明、Ｐ：前川貴宏、ＣＰ：網師本誠司、制作著作：四国放送

○ＮＨＫＥテレ・ＥＴＶ特集**「“小さな国” の大引っ越し　大阪大学外国学部」**
　4/10（土）23:00～、59 分　そこそこ退屈はしないが、テーマが無い……。語り：サヘル・ローズ、Ｄ：酒井克、制作統括：藤田英世、田中志緒里、制作：ＮＥＤ、制作著作：ＮＨＫ、ドキュメンタリージャパン、

○ＢＳ1 スペシャル**「福島幻の銘酒 十年目の復活」**4/10（土）20:00～、50 分
　福島の浪江町の地酒「磐城寿」が **10 年**ぶりに**復活**。浪江の米と水に拘る杜氏・鈴木大介さん。語り：三宅貴大、取材&撮影：佐野哲也、Ｄ：石井大智、鈴木冬悠人、Ｐ：落合厚彦、制作統括：坂元信介、吉田宏徳、廣田昌也、制作：ＮＨＫグローバルメディアサービス、制作著作：ＮＨＫ仙台・福島　～小品だが「復興」の本質をも問う。人の善意とか生きることへの思い～

○ＢＳ1 スペシャル**「“自由の声” が消えゆく世界で ―アラブの春から 10 年 夢の先に―」**4/11 日
独裁政権を崩壊させたアラブの春から１０年、デモを率いた若者たちの今をレポート。取材：藤吉智紀、柳澤あゆみ、スレイマン・アーデム、撮影：山村充、Martin Ekelin、Ｄ：永田彩香、制作統括：荒井利彦、高橋潤、制作著作：ＮＨＫ。

○テレビ朝日・テレメンタリー**「#闇バイト　捨て駒にされた若者たち」**4/18（日）4：30～、
　オレオレ詐欺（指示役にインタビュー）など。Ｄ：宮本華、Ｐ：藤田貴久、西一樹、制作著作：ＡＢＣテレビ、

○日本テレビ・ＮＮＮドキュメント21**「濡れ衣　～闘い続ける余命一年～」**4/18（日）25:00～、30分枠。
　1967年「布川事件」。桜井昌司さん。がんにより余命１年。司法の闇を世に引きずり出すと、まだ吠える。
Ｄ：黒住周作、ＣＤ：清水？　Ｐ：今村忠、ＣＰ：有田泰紀、制作著作：日テレ、

○ＢＳ1スペシャル・廃炉への道全記録2021・**「原発事故10年の全記録」**4/24（土）22:00～、50分　シリーズ「廃炉への道」。10年の軌跡を見つめ、福島のこれからを展望。若手経営者の『HAMADOORI13』。クレジットなし。制作著作：ＮＨＫ

○ＮＨＫＥテレ・ＥＴＶ特集**「コロナに負けない～名物校長と“笑う学校”～」**4/24（土）23:00～、59分
　越谷市新方小・田端栄一校長。笑う学校に福来たる。コロナ禍、吉本の指導を受け教育漫才を試みる。取材：水野ひかる、
　Ｄ：近藤剛、ＣＰ：東野真、山本妙、熊田佳代子、制作ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ、パオネットワーク、

○ＥＴＶ特集**「激変する西之島　太古の地球に出会う旅」**5/1土、23:00～、59分。
絶海の孤島、西之島。ＮＨＫは研究者とともに島の変化を記録。ワクワクするもんだ！　※クレジット失念。

○ＮＨＫスペシャル　新型コロナ“第４波”**「変異ウイルスの脅威　大阪からの報告　なぜ医療崩壊したのか」**5/2日21時～？？分、前編：救える命を救えない。後編：変異ウイルス拡大。東京・首都圏での最前線で何が…。司会：武田淳一、出演：尾身茂、濱田淳郎、武田制作著作：ＮＨＫ大阪

○ＢＳ1スペシャル・欲望の資本主義　特別編**「コロナ　２度目の春　霧の中のＫ字回復」**
　５/２日22時～、23時、50分×2　①K字回復が格差を拡大させる、②バブルか？崩壊か？株価高騰の行方、③霧の中の神の見えざる手、④新冷戦が負の連鎖を生む？

○ＮＨＫスペシャル・**「被爆の森　2021年変わりゆく大地」**5/9日、21:00～、50分、
　長期取材ゆえの強み！　野生動物の森、被爆の森は再生出来るか？　初期被爆の実態…。再生の兆しも。
　撮影：郡司真、Ｄ：刈田章、藤松朔太郎、制作統括：中井暁彦、生田寛。

○ＢＳ1スペシャル**「何も求めずただ座るだけ　自給自足の禅寺 安泰寺」**5/16日、22:00～、49分
　思い悩む青年たちが尋ねて来る。外国からも。『三年間の掟』＝修行は３年間。取材：下村優太郎、Ｄ：多々見英里、制作統括：村上祐一郎、制作著作：ＮＨＫ神戸。

○ＮＮＮドキュメント21**「高齢者ギャンブル依存～さまよいの果て～」**5/16日、24:55～、30分枠
　ナレ：川喜田尚子、Ｄ：原壮介、Ｐ：内田充生、ＣＰ：蛭川雄二、製作著作：鹿児島読売テレビ

○ＢＳ１スペシャル**「市民たちの不服従　北角裕樹が見たミャンマー」**5/23日、22:00～、49分
　☆☆タイムリーな秀作！&記録!!　　北角さん取材。2/1のクーデター～、4/18拘束。差入れのコーヒー粉でインクに、
　5/14帰国&5/16取材。Ｄ：稲垣綾子、取材：山本遥、制作統括：川口潤、川畑耕平、茂木明彦、制作：ＮＨＫグローバルメディアサービス、制作著作：ＮＨＫ、パオネットワーク

○ＨＢＣテレビ・報道スペシャル・**「ネアンデルタール人は核の夢を見たか～高レベル放射性廃棄物の行方～」**
　5/29土、16:00～、49分　△10万年後までの責任！北海道寿都町・核ゴミ最終処分場。町長立候補・６年間90億の交付金！取材：藤田忠士、幾島奈央、長沢祐、Ｄ：澤出梨江、Ｐ：山崎裕樹、製作著作：ＨＢＣ北海道放送。
　☆秀作。地方の時代映像祭・優秀賞。

○ＢＳ・ＴＢＳ・ドキュメントＪ×和歌山**「辺境に生きる　芸術家と家族の移住生活」**6/6日、11:00～、
　和歌山県串本町。自給自足。芸術だけでは食べていけない現代アート。Ｄ：和田浩、Ｐ：奥田雅浩

○ＢＳ1 スペシャル**「ジェネレーション３．１１～東日本大震災 10 年の日々～」**6/12、22:00～、49 分。
NHK WORLD JAPAN。キャスターの高橋美紀。子どもに焦点をあて５年目を取材。10 年目に再び取材。４つの物語。
①**『千年後の命を救いたい』**女川いのちの石碑を建てる。②**『あかりさんの涙』**震災の記憶を教える保育士になりたい。
③**『ありがとうテイラー先生』**石巻市の小中で英語教師。子どもを避難させたあと、津波で亡くなる。テイラーの父と先生の教え子たちとの交流。④**『ふるさとのためにともに奏でる』**東北ユースオーケストラ。呼び掛け人坂本龍一。10 年目の 3.11、小さなコンサートを開催。キャスター：高橋美紀、撮影：緒方聖悟、取材：榎原美樹、中村大熙、高比良歩、Ｄ：土井田真吾、
制作統括：木内啓、河野聡、制作著作：ＮＨＫ

○ＥＴＶ特集・**「生きていればきっと笑える時が来る～牧師・奥田知志～」**6/12 土、23:00～、59 分。
北九州市。奥田の半生。生活困窮者の支援 33 年。ＮＰＯ法人「抱撲」。出会いから看取りまで、教会に納骨堂。
Ｄ：吉崎健、Ｐ：岩下宏之、制作統括：石田涼太郎、梅原勇樹、制作著作：ＮＨＫ福岡、

○ＮＨＫＧ・ＮＨＫスペシャル**「若者たちに死を選ばせない」**6/13 日、21:00～、49 分
ＮＰＯ法人「ライフリンク」ＳＮＳの相談 10 代～20 代。「休もう！」「休んでもいい」「立ち止まってもいい」と一言・声を掛けよう！　取材：古市駿、宗像真宏、古川賢作、Ｄ：丸岡裕幸、立花江里香、鹿島真人、プロデューサー：右田千代、制作統括：夜久恭裕、清水將裕、島田雄介、大井俊宏、制作著作：ＮＨＫ、

○ＢＳ1 スペシャル**「シリア隠された傭兵たち～内戦 10 年の果てに～」**6/13 日、22:00～、50 分
10 年の内戦で死者 38 万人のシリア。20 年停戦合意後、反政府勢力の兵士たちが傭兵・戦闘力が高い！　※※　有名人出演の功罪が議論になるかも？　出演・語り：ＳＵＧＩＺＯ（LUNA SEA/X JAPAN）、語り：山内泉、取材：柳澤あゆみ、藤吉智己、西脇順一郎、佐野圭榮、Ｄ：佐川豪、三浦菜紘、制作統括：花井利彦、鴨志田郷、高橋潤、制作著作：ＮＨＫ

○ＥＴＶ特集・**「“孤独死”を越えて」**6/19 土、23:00～、59 分。
特殊清掃員の小島美羽（27）を追う。⇔　2019 年 8 月 20 日刊・小島美羽著『時が止まった部屋　遺品整理人がミニチュアで伝える孤独死のはなし』原書房刊。　～～各局で、出過ぎ？？
撮影：井手口大騎ダグラス、高野大樹、取材：金善、Ｄ：佐藤雅俊、制作統括：矢吹寿秀、森博明、藤田英世、本木敦子、制作：ＮＥＤ、
制作著作：ＮＨＫ、ドキュメンタリージャパン

○ＮＨＫＧ・ＮＨＫスペシャル**「パンデミック 激動の世界（11～12）『検証“医療先進国”前編～後編』」**
6/20 日・27 日、22:00～、59 分×２回。　儲かる医療に走った・医療先進国の構造的脆さ。キャスター：大越健介、語り：中山果奈、取材：山屋智香子、岡肇、Ｄ：加賀恒存、先崎壮、篠﨑貴志、制作統括：植松由登、牛田正史、制作著作：ＮＨＫ、

○ＢＳ1 スペシャル**「ワクチン接種 自治体の叫び ～埼玉対策チームの４か月～」**6/26 土、22:00～、49 分。
740 万人の埼玉県。高齢者接種は７月末だがワクチンが来ない！　時系列で描くと、国がいかに頼りないかとなる。
Ｄ：藁科直清、工藤剛史、制作統括：吉本知裕、山根平太郎、鈴木真美、制作：ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ、パオネットワーク、

○ＥＴＶ特集・**「山伏 現代（いま）を駆ける～祈りの山　出羽三山～」**6/26 土、23:00～、59 分。　　制作著作：ＮＨＫ仙台
後半の福島や震災地との関わりは面白いが……。取材：深沢千秋、Ｄ：上坂大介、制作統括：青木一穂、矢吹寿秀、

○テレビ朝日・テレメンタリー2021**「拭えぬ不安 避難計画～福島の教訓はどこに～」**6/27 日、4:30～、30 分枠
再稼働が迫る東北電力女川原発。Ｄ：川原千夏子、Ｐ：藤井尚弘、制作：阿部佳弘、制作著作：東日本放送

○日本テレビ・ＮＮＮドキュメント 21**「セックスと同意～「性犯罪」刑法は変わるのか～」**　6/27 日、25:25～、55 分枠。
☆☆女性スタッフの労作です。☆☆同意のない性行為を犯罪に・上谷さくら弁護士。魂の殺人。デスク：小島都、取材：植田恵子、
ＡＤ：森下未季、Ｄ：大島千佳、Ｐ：今村忠、福田春雄、古市礼子、ＣＰ：有田泰紀、制作協力：ＡＬＩＶＥ、製作作著作：日本テレビ

○日本テレビ・ＮＮＮドキュメント 21**「ご近所さんと私。～母ちゃん防災士の信念～」**7/11 日、25:05～、30 分枠。
～☆中崎さんらしい長期取材の小品。～　取材・Ｄ：中崎清栄、構成・撮影：辻本昌平、Ｐ：北尾美和、制作著作：テレビ金沢。

○NHK・ＢＳＰ**「山田洋次の青春～映画の夢 夢の工場～」**7/17 土、22:30～、89 分　初回放送：ＢＳ４Ｋ、６/６。
89 才・89 作目の「キネマの神様」公開のＰＲ番組。　　出演：山田洋次、犬童一心、松たか子ほか、構成演出：犬童一心、

○NHKＢＳ１・ストーリーズ**「北角裕樹が見たミャンマークーデター」**7/17 土、22:40～、29 分
関心が薄くなる中で、イベントで声を上げ続けたい。Ｄ：稲垣綾子、取材：山本遥、制作統括：坂元信介、茂木明彦、川畑耕平、
制作：NHKグローバルメディアサービス、制作著作：NHK、パオネットワーク。

○ＥＴＶ特集・**「僕らが自分らしくいられる理由」**7/17 土、23:00～、59 分。
御所市大正中学・向本博俊校長。特別支援学級の３年生・卒業までの半年。ナレ：ゆうじ（字が読めない）、いぶき（母が鬱）、かれん（知的障害）、撮影：満若勇咲、伊澤豪、Ｄ・編集：二宮寛子、Ｐ：久保暢之、制作統括：大坪悦郎、村井晶子、制作著作：NHK

○ＢＳ1 スペシャル・**「コロナ新時代への提言３　それでも、生きてゆける社会」**7/18 日、22:00～、50 分。
コロナ後の世界の指針を語るシリーズ第３弾。
ミヒャエル・エンデの児童文学『モモ』をヒントに人類が向かうべき未来、誰もが生きるに値する社会について語る。

○日本テレビ・ドキュメント‘21**「遺族とマスコミ 京アニ事件が投げかけた問い」**7/18 日、25:05、55 分枠、未見。

＜東京オリンピック予選が始まる。7/21 水、8:15～、NHKG＞

○ＢＳ1 スペシャル・**「独占告白 渡辺恒雄　～戦後政治はこうして作られた平成編～」**7/22 木、20:00～21:00～、50 分＋50 分。
足かけ２年、計８回のインタビュー。95 才・主筆。～政治の病（御厨貴）。～
リポーター：大越健介、Ｄ：安井浩一郎、Ｐ：三村忠史、制作著作：NHK
～☆こう言う記者の存在こそ、日本の不幸そのものかも知れない。昭和編の方が歴史のディテールを学ぶ上で面白かった。

＜オリンピック開会式。7/23 金、19:56～、ＮＨＫＧ＞

○テレビ朝日・テレメンタリー2021**「拝啓 国会議員様 核廃絶はできますか？」**7/24 土、4:30～、30 分枠。
核兵器禁止条約の批准を国会議員に面会して訴える。2019 年核若広島の活動。Ｄ：薄井美水、Ｐ：立川直樹、制作著作：広島ホームテレビ。

○ＥＴＶ特集**「白い灰の記憶ー大石又七が歩んだ道」**7/24 土23:00～、59 分。
ビキニの水爆実験で被爆。2021 年３月に亡くなった大石又七（87）、核廃絶を訴え続けた軌跡を追う。19 年 12 月最後の講演。「第五福竜丸は核のない未来に向かって今も航海中です」。資料提供：永田浩三、Ｄ：岡田亨、Ｐ：山口智也、制作統括：東野真

○日本テレビ・NNNドキュメント 21**「ほころぶ 性暴力の被害者 それぞれの一歩」**7/25 日 25:05～、30 分枠。☆☆秀作です。
ほころぶ＝隠していた気持ちが外へ出る…。取材・撮影・語り・Ｄ：森葉月、Ｐ：吹上直裕、制作著作：中京テレビ。～

○ＥＴＶ特集**「ドキュメント精神病院×新型コロナ」**7/31 土、23:00～、59 分
撮影：原田人、取材：海老沢真、坂川裕野、Ｄ：青山浩平、持丸彰子、制作統括：真野修一、矢吹寿秀、制作著作：NHK。
１年間密着の記録。DはハートネットＴＶの持丸、Ｅ特「長すぎた入院」の青山。　都立松沢病院のコロナ専門病棟。コロナがあぶり出した日本の精神医療、その貧し過ぎる実態の記録。斎藤正彦医師「社会は見たくない人のために精神病棟がある」。
239 人のうち 115 人感染９人死亡。　　☆☆　優れた調査報道ドキュメント。力作です。☆☆

○テレビ朝日・テレメンタリー2021**「舞台に立ちたいーコロナ禍で迎えた劇団 70 年ー」**8/1 日、4:30～、30 分枠
Ｄ：藤田由果、Ｐ：佐藤宣明、制作著作：秋田朝日放送。～「よく分かる・わらび座の事情」にとどまる。～

○NHKG・目撃にっぽん**「“原爆は人間がつくった”～模型に託したメッセージ～」**
Ｄ：三木謙将、制作統括：井上新治郎、制作著作：NHK　　8／6 の後に放送？？。
広島の「リトルボーイ」と長崎の「ファットマン」。墨田区保管の原爆を実物大の２つ模型の引取先を求めて……。

○日本テレビ・NNNドキュメント21**「残してください 被爆ポンプです。」**8/1日、26:00～、30分枠
広島駅近くの“被爆ポンプ”。たった一人で保存活動をした被爆２世・永原富明（74）の半生。撮影・編集：日野知行、Ｄ：佐々木奈緒、越磨萌香、Ｐ：長島清隆、ＣＰ：岡田統一郎、制作著作：広島テレビ。～☆限界はあっても、やはり佳作です。～

＜オリンピック閉会式。8/8日、19:56～、NHKG＞　空騒ぎ…やっと終わった？？

○NHKG・NHKスペシャル**「原爆初動調査 隠された真実」**8/9月、22:00～、74分。
76年前、広島&長崎の「原爆初動調査」。残留放射線の影響はなぜ隠蔽された。核による被害」と「国家の思惑」。
最後のナレ「救われた命があった筈でした。何故調査は隠蔽されたのか？　そして何故痛みは放置され続けるのか？　被爆地からの訴えです。」　……本当に、こんなシメでいいの！……
取材：喜多祐介、Ｄ：佐野剛士、大小田紗和子、水嶋大吾、制作統括：佐藤稔彦、小口拓朗、制作著作：NHK、
⇔ＢＳ1スペシャル**「原爆初動調査 隠された真実」**12/29水、　８月放送のNスペに追加取材を加える。未見。

○ＢＳ1スペシャル**「マルレー『特攻艇』隊員たちの戦争」**8/9月、20:00～、50分。
香川県小豆島。陸軍の通称「マルレ」。ベニヤ板の小型ボートに爆弾を積んで闇夜に特攻。隊員約3,000人の多くが未成年、その６割が犠牲。実物大の模型を作った！　出演：濱田龍臣、高乃麗、Ｄ：多田篤司、Ｐ：西森大、制作統括：中尾好孝、制作著作：NHK松山

○ＴＢＳNEWS23・**「戦後76年プロジェクトつなぐつながる」**8/11水～13金？で特集コーナー
8/11『綾瀬はるか「戦争」を聞く/真珠湾攻撃80年/103歳元日本兵の証言』吉岡政光（103）元特攻兵。8/12以降は未見。

○ＢＳＰ・映像の世紀プレミアム**「第20集 中国“革命”の血と涙」**8/14土、19:30～、89分。
取材協力：加藤青延、長井暁、馬場毅、濱本良一、益尾知佐子、語り：山田孝之、山根基世、取材：池上敦子、羽山夏子、
Ｄ：小柳ちひろ、Ｐ：鐘川崇仁、制作統括：寺岡慎一、伊川義和、制作協力：テムジン、制作：ＮＥＰ、制作著作：NHK、
～1945年の建国を祝う式典を再現した映像、これは凄し！～

○NHKG・NHKスペシャル**「銃後の女たち～戦争にのめりこんだ“普通の人々”～」**8/14土、21:00～、49分。
国防婦人会の“心の戦争”に迫る。語り：ayako_HaLo、Ｄ：河合有華子、高瀬吉、池野彩、Ｐ：山田香織、制作統括：横井秀信、小笠原卓哉、上松圭、制作著作：NHK広島、大阪。　～統括に女性不在？　番組の質を下げていないか？　ラストのナレ『あの時代の記憶とどう付き合い、どう生きて行くのか、その問いは私たちひとりひとりに投げかけられています。』……こう言うのは止めたい！
～ ＢＳＰの中国革命とNHKGの銃後……巧まざる共通項がある。今の言葉を使うと『同調圧力』。～

○NHKＢＳＰ・**「対馬で発見！ラストファミリー物語」**8/14土、21:00～、59分。
長崎県五島列島野崎島・住民一人。7.1㎞。ほかに、香川県小豊島。出演：長濱ねる、ゴリ、構成：オオグロテツロウ、取材：五十嵐健太、小浦舜、Ｄ：鈴木慶昭、高橋康弘、制作統括：武中千里、小川隆蔵、吉本知裕、制作：ＮＥＰ、制作著作：NHK、ローリング。

○ＢＳ1スペシャル**「ヒトラーに傾倒した男～Ａ級戦犯・大島浩の告白～」**8/14土、22:00～、50分。
大島浩：駐ドイツ特命全権大使、終身刑。89才。75年：三宅正樹（国際政治学者）が公表しない条件で録音。86才。３日間に渡って12時間の証言テープ。△妻に許されて公開。取材協力：秋丸信男、菅原満、ブルウト・クレープス、撮影：村山貴道、Ｄ：曽根峰人、橋本朋美、制作統括：廣川潤、木内啓、制作著作：NHK

○ＥＴＶ特集・**「ひまわりの子どもたち～長崎 戦争孤児たちの記憶～」**8/14土、23:00～、59分。
原爆投下後の長崎。ＧＨＱ指示で設立の戦争孤児収容施設・向陽寮。寮長の餅田千代が残していた『育成記録』。高度経済成長期、就職して社会へ、差別や偏見が待っていた。60年ぶりに開かれた同窓会では……。
Ｄ：川端亜希、釜井瑛生、制作統括：山丈文王、梅原勇樹、制作著作：NHK長崎。　　～たんたんと描く。～

○テレビ朝日・テレメンタリー2021**「回天と100人の棺桶」**8/15日、4:30～、30分枠。
山口県周南市大津島・回天訓練基地。特攻少年兵・中村松弥（98）伊580潜水艦乗組員。一人で慰霊を続けている。
Ｄ：高橋賢、Ｐ：数井英司、井川弘宣、制作：山口朝日放送。

○NHKスペシャル**「開戦 太平洋戦争　日中米英知られざる攻防」**8/15 日、21:00～、60 分。
一次資料（日記・書簡・外交資料など）でひもとく日中戦争から太平洋開戦への道。△2006 年蒋介石の日記・書簡が公開。大東文化大・鹿錫俊教授がすべてを書き取ってパソコンに入力。△膨大な日記の全貌～蒋介石の戦略＝アメリカの介入を引き出せ！～が明らかになった。
Ｄ：阿部宗平、片山厚志、制作統括：三村忠史、安井浩一郎、制作著作：NHK
～出来悪し。視聴者が見えていない。文献を並べただけ。～

○ＢＳ1 スペシャル・**「特攻・知られざる真実　前後編」**8/15 日、22:00～、50 分×２回。
前編『海中調査で迫る“最期”』沖縄古宇利島 1.5 ㎞の沖の水深 40 ㍍、７年に及ぶ潜水調査で、沈没船・米海軍「エモンズ」と旧式の偵察機の残骸を写真撮影し、米軍のアクションリポートと併せて、３Ｄモデルの映像を作る。九州大学・菅浩伸教授。
後編『誠隊最期の１か月・知られざる苦悩と葛藤』　新たに見つかった手記や日記、関係者の証言。特攻部隊の最期の日々。撮影・取材：小林賢大、取材：中居重信、田中教仁、Ｄ：阿部康之、村山世奈、制作統括：夜久恭裕、花井利彦、小笠原卓哉、坂口央、制作著作：NHK
～３Ｄ映像は興味が湧くが……。後編に新味無し。～

○日本テレビ・NNNドキュメント 21**「メアリーが伝えるヒロシマ～アメリカ人ピースガイド」**8/15 日、24:55～、30 分枠。
メアリー・ポピオ（29）。ボストン生まれ。アニメ⇒⇒日本文化⇒⇒長崎の原爆⇒⇒広島に移住しＮＰＯ法人ピース・カルチャー・ビレッジを設立。平和活動を行う。Ｄ：渡邉洋輔、Ｐ：長島清隆、制作著作：広テレ！～Ｎスペ 8/14 の口直しに見た小品～

○ＴＢＳ・ドキュメンタリー解放区＃10**「李鶴来（イ・ハンネ）不条理と闘った男」**8/15 日、24:58～、60 分枠。
2021 年３月物故の、最後の朝鮮人ＢＣ級戦犯者・李鶴来の半生と想い。2020 年 11 月最後のインタビューでは「戦犯の汚名からの解消と補償」を求めた。取材：宮本晴代、河淵聡美、両坂省吾、岸将之、取材・ナレーション：日下部正樹、Ｐ：藤井和史、松原由香、製作著作：ＴＢＳ
～☆いと重し。直球です。～

○NHKＧ・クロ現**「シリーズ終わらない戦争」**8/18 水、22:00～、30 分。
空襲で被害を受けた民間人、忘れられた戦争補償。安野輝子、今年も法案が成立しなかった。

○フジテレビ・**「被爆地にたつ孤児収容所～２千人の父、上栗頼登～」**8/18 水、26:50～、55 分枠。
敗戦からわずか 2 か月後。26 歳の医師・上栗頼登（かみくりよりと）が孤児収容所「広島新生学園」を自費（陸軍の医師の退職金）で開設。原爆孤児、戦災孤児、引き揚げ孤児を収容。語り＆朗読：吉永小百合、取材・Ｄ：深井小百合（被爆３世）、
構成：松石泉、Ｐ：黒川陽央、制作著作：テレビ新広島、制作協力：ＴＢＳプロダクション。

○ＢＳ1 スペシャル**「マッカーサーが来るまで何があったのか？～市民たちの見た終戦直後 15 日間～」**8/21 土、22:00～、50 分　出演：山田五郎、ヤマザキマリ、足立梨花。～ネタ不足。看板倒れ～　取材：植松一裕、阿部野晃久、Ｄ：佐藤剛、蛭間鉄平、制作統括：井手真也、惣部潔、制作著作：NHKスペシャル、テレビ朝日映像。

○ＥＴＶ特集・**「戦火のホトトギス」**8/21 土、23:00～、59 分。　　～残念。いいエピソードが出て来ない…。～
「ホトトギス」掲載の戦地からの投句、句をてがかりに投稿者を追う。遺族が語る。取材：於保清見、Ｄ：五十嵐久美子、制作統括：東野真、牧野望、橋本佳子、制作：ＮＥＤ、制作著作：NHK、ドキュメンタリージャパン。

○ＢＳ1 スペシャル・**「感染症に斃れた日本軍兵士」**8/22 日、22:00～、50 分+50 分
前編『マラリア 知られざる日米の攻防』　後編『破傷風ワクチン開発の闇』
取材協力：飯島渉ほか 16 名、研究所など 9 カ所。コーディネーター：井手有希子、土井建治、柳原みどり、取材：原田歩実、石井佳美、
Ｄ・撮影：金本麻理子、制作統括：東野真、塩田純、制作：ＮＥＤ、制作著作：NHK、椿プロ。
～☆☆☆　椿プロ・金本麻理子さんの力作です！～
＜前編＞『南方軍防疫給水部』キニーネの独占～マラリアは徒手空拳。△証言者：坂本征二（94）坂上多計（96）
＜後編＞1944 年ジャカルタ。三種混合ワクチンで現地の人・約 400 人が死亡。△南方軍の人体実験を隠蔽するため、ケイマン研究所の医師を細菌謀略の冤罪で、拷問～死刑。△米軍は総力で破傷風ワクチンの開発。△日本はバラバラ。陸軍の人体実験、731 部隊で 30 人死亡。海軍給水部の人体実験でオーストラリア軍の捕虜、15 人死亡。▽独り、立崎英法務官が反対。ただ一人、戦後３年の判決を受けた、△解説&証言・ケビン・ベアード。△日本の給水部は誰も語らない。

○日本テレビ・NNNドキュメント21**「瀬戸内海がゴミ箱になる日」**8/22日、24:55～、30分枠。
愛媛県八幡浜市、岩田攻次（60）、自称『ゴミ馬鹿』。５年前から船を使ってプラスチックゴミを拾う日々。
取材：山本貴洋、Ｄ：伊東克明、Ｐ：荻山雄一、制作著作：南海放送。～～☆大変だ!!!!～～

○ＢＳ1スペシャル**「戦火に消えた住民～沖縄戦知られざる従軍記録～」**8/23月、21:00～、50分。
語り：国仲涼子、朗読：ゴリ、撮影：川崎敬也、斉藤数馬、取材：橋本拓大、Ｄ：矢野豊、制作統括：河野聡、制作著作：ＮＨＫ
～証言者が余り語らない。説明が散漫で話が飛んで理解しにくい。＜知られざる＞誇大広告では？～

○ＢＳ1スペシャル**「中国共産党100周年　“紅遺伝子”の継承」**8/23月、22:00～、50分+50分。
撮影：胡丹、Ｄ：木下富夫、制作統括：鈴木伸元、奥谷龍太、制作著作：ＮＨＫ。
～☆勉強になります☆～　東征のゆかりを観光にして裕福になる人、貧しいままの人。権力との距離が格差を産む。
よく分かる・習近平と共産党の限界。　※※タイトルが内容と一致していないのでは？？？～

○フジテレビ・ＦＮＳドキュメンタリー大賞**「チャイムのない教室～夜間中学 それぞれの夕空～」**
8/24水、27:05～、55分枠。構成：明神康喜、取材：澤実生、撮影：永田雅一（関西テレビ）、天野正義、制作著作：高知さんテレビ。
～それぞれの夕空で、３つの夜間中学を取り上げている。散漫の印象あり!!～

○ＥＴＶ特集**「“玉砕”の島を生きて～テニアン島日本人移民の記録～」**8/28土、23:00～、59分。
△戦前。サトウキビ栽培の移民1万5千人・テニアン島。～陥落後、移民・民間人犠牲者3500人。△生き残った日本人が長い歳月で少しずつ語られる・生と死の記録。20年以上の長期取材。　～太田D、執念の力作。悲しい話だ。～
取材協力：今泉裕美子、語り・撮影・Ｄ：太田直子、制作統括：東野真、太田宏一（ＮＥＰ）、田野稔（現代グループ）、制作：ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ、グループ現代。

○ＮＨＫＢＳプレミアム・**「松下奈緒　聖徳太子1400年への旅」**9/4日、21:00～、89分。
聖徳太子・没後1400年。どんな人物か？　聖徳太子信仰はどうして広まり、どのように守られたかの？
出演：松下奈緒、取材：岩瀬維則、大越成子、Ｄ：青木亮、Ｐ：久泉巧、制作統括：齊藤圭介、谷口雅一、制作：ＮＥＰ、制作協力：ライド、制作著作：ＮＨＫ。

○ＢＳ-ＴＢＳ・ドキュメントＪ×北海道**「照らし合う星 北星余市高・2021」**9/5月、10:00～、60分枠。
5月制作、6月北海道で放送。△余市町の北星余市高校、存続のためノルマ70人の多様性に富んだ生徒たちの記録。
撮影：三上幸男、Ｄ：河野啓、Ｐ：？？？　制作著作：北海道放送

○ＥＴＶ特集**「アフガニスタン 運命の８月」**9/11土、23:00～、59分。
2021年8月タリバンが首都カブールを制圧。映画監督・井上春生は直ちに現地の知人らの消息を追う。過去映像と緊迫のインタビュー。取材：菅原幸子、ファルク・アーセフィ、制作統括：中村光博、吉村恵美、梅原勇樹、制作：ＮＥＤ、制作著作：ＮＨＫ、テレコムスタッフ。

○ＮＨＫＧ・目撃にっぽん**「新型コロナ重症病棟 終わりなき闘い」**9/12日、6:10～、30分。
聖マリアンヌ医科大学川崎病院。藤谷茂樹・救命救急センター長、200人のスタッフ。撮影取材：松井大倫、Ｄ：里田恵香、制作統括：鈴木伸元。　～1年以上の長期取材。～

○ＮＨＫＧ・ＮＨＫスペシャル　**「ＭＥＧＡＱＵＡＫＥ 巨大地震 ２０２１～震災１０年 科学はどこまで迫れたか～」**
9/12日、21:00～、73分。　地震予知、科学の到達点と限界を考える。ゲスト：鈴木京香、解説：島川英介、出演：堀高峰、西村卓也、今村明彦、取材：老久保勇太、佐藤匠、Ｄ：松本貴久、上川啓太、安坂徳二、安本浩二、Ｐ：島川英介、制作統括：井上智広、中井暁彦、鈴木伸元、制作著作：ＮＨＫ

○ＢＳ1スペシャル**「甲子園で輝きたい－女子高球児の夏－」**9/12日、23:00～、49分。
8月、全国高校**女子**野球の決勝が、史上初めて聖地・**甲子園**で開催された。**女子球児**たちのひと夏を見つめた。
撮影：濵﨑務、池田俊己、Ｄ：吉田瑠美子、益田公志郎、Ｐ：小野裕子、制作統括：西村光弘、東健介、制作：ＮＨＫグローバルメディアサービス、制作協力：オルタスジャパン、制作著作：ＮＨＫ、

○ＥＴＶ特集**「私の欠片（かけら）と東京の断片」**9/18 土、23:00～、59 分
～要するに、社会学者/作家/立命館大教授/岸政彦の研究と本のＰＲ！「東京の生活史」（筑摩書房刊・4200 円）。～
Ｄ：今氏源太、制作統括：細田直樹、梅原勇樹。

○ＢＳ1 スペシャル**「廃墟になったマイホーム ～中国“鬼城”住民の闘い～」**9/25 土、22:00～、50 分。
中国。建設途中で工事がストップし、「**鬼城**」という廃墟に。買った**住民**たちの苦悩と**闘い**を描く。
撮影：李波、取材・Ｄ：李波、増田浩、制作統括：高木徹、郭強、芦立広、制作：ＮＨＫグローバルメディアサービス、
制作著作：ＮＨＫ、テムジン、

○ＥＴＶ特集**「東電の社員だった私たち 福島との１０年」**9/25 土、23:00～、59 分
～福島に向き合って 10 年、純粋に生きる人たちがいる！～10 年前、原発事故対応で、福島に向き合った東電社員たち、10 年の告白。
撮影：笠井智彦、Ｄ：金井良祐、制作統括：堤田健次郎、梅原勇樹、制作著作：ＮＨＫ。

○ＮＨＫＧ・ＮＨＫスペシャル**「認知症の先輩が教えてくれたこと」**9/26 日、21;00～、49 分
香川県の西香川病院、認知症の人が認知症の人の悩みを聞く相談室がある。「認知症になってもできることはある」
撮影・Ｄ：加藤弘斗、制作統括：旗手啓介、制作著作：ＮＨＫ
～関連の先行番組～　2020 年 11/6・クローズアップ現代＋『認知症ピアサポート 当事者同士で支え合う』
2020 年 12/17・クローズアップ現代＋『認知症が認知症の相談にのってみたら……』

○ＲＳＫ**「よみがえれニュータウン～岐路に立つ山陽団地～」**9/29 水、20:00～、47 分 30 秒
山陽団地（岡山県赤穂市）は 1970 年代、憧れの的。今や衰退の一途。活性化への模索も。取材構成：武田博志、制作著作：ＲＳＫ、

○ＢＳ1 スペシャル**「被爆の森 2021-変わりゆく大地-」**10/3 日、22:00～、50 分＋50 分　～5/9，Ｎスペで放送の拡大版～
「被曝の森」の 10 年、放射線に対する動植物の変化、生態系の変貌の記録の完全版
△帰宅困難区域が広大な実験場となった悲しい皮肉……。～

○ＥＴＶ特集**「没後 25 年 遠藤周作 封印された原稿」**10/9 土、23:00～、59 分
未発表の小説が見つかる。その謎に迫る。Ｄ：釜井瑛生、制作統括：山下文五、梅原勇樹、取材協力：遠藤周作文学館、新潮社ほか、
制作著作：ＮＨＫ長崎。　～母を巡る、父と子の和解、死ぬ前に。～

○ＮＨＫスペシャル**「ＲＥＧＥＮＥＲＡＴＩＯＮ 銃弾のスラム再生の記録」**10/10 日、21:00～、50 分。
南ア・ケープタウンのスラム。ギャングが抗争し所得格差が世界最悪。牧師がスマホで１年以上記録。撮影：Andie steele Smith、リサーチ：松田裕子、Ｄ：広田味圭子、制作統括：松本卓臣、制作著作：ＮＨＫ、

○ＥＴＶ特集**「新型コロナ こぼれ落ちた命 ～訪問看護師たちが見た“自宅療養”～」**10/16 土、23:00～、59 分。
自宅で入院待機となった陽性者。第４波の神戸。訪問看護師たちと本人や家族が今も残る傷痕を証言。取材：堀田新、Ｄ：川恵美、Ｐ：山口智也、制作統括：村井晶子、制作著作：ＮＨＫ～保健所の機能不全をカバーして余りある働き…。☆☆秀作です

○ＮＨＫＥテレ・Ｚの選択**「#ありのままの自分は好きですか？」**10/23 土、15:30～、30 分。
『Ｚの選択』は、Ｚ世代の人生の選択を、同世代のディレクターが描き出す！　～この枠、時に面白い！～
ふくよかな体型を隠さずに愛する北原弥住（22）、**自分**の理想を目指し顔も体型も作り込む高峰ヒナ（21）。撮影：駒形明子、取材：大村比呂子、Ｄ：杉山舞、制作統括：漆山真生、大野雅香子、制作著作：ＮＨＫ。

○ＢＳ1 スペシャル**「おうちに帰ろう～医療たちの新たな挑戦～」**10/23 土、22:00～、50 分
～☆☆明日は我が身、板橋区に引っ越したくなる！…番組!!～　△多死社会&看取り難民への挑戦。「おうちにかえろう病院」水野慎大院長。～若い院長の試行錯誤が引っ張りになっている～
語り：檀れい、撮影：松村敏行、Ｄ：内島悠介、制作統括：安西清麿、吉本裕、松本裕子、制作：ＮＥＰ、
制作著作：ＮＨＫ、パオネットワーク。

○NHKG・目撃！にっぽん**「あかりの消えない教室～じいちゃんの夜間中学～」**10/24 日、6:10～
「公設民営」の夜間中学。高知市。23 年前に設立。運営費は市が拠出、教えるのは民間。1000 人以上が育つ。
Ｄ：寺尾侑子、Ｐ：宮原秀之、制作統括：古澤健、制作著作：NHK高知。～

○ＢＳ-ＴＢＳ・ドキュメントＪ×広島**「描く ～被爆 76 年の広島から～」**10/24 日、10:00～、52 分。
初回放送は、ＲＣＣ中国放送で・8/6。被爆者自らが体験を描く「原爆の絵」。尾崎稔（89）△毎日新聞から転職した寺岡Dは、被爆 76 年の番組担当になって、どう作るか悩むのである……。Ｄ：寺岡俊、Ｐ：平尾直政、制作著作：ＲＣＣ

○日本レレビ・NNNドキュメント 21**「おいてけぼり～９０６０家族～」**10/24 日、24:55～、60 分枠。
愛知県の市営団地。16 年前、認知症の妻に先立たれた・92 歳の父。長男(65)はタバコ、パチンコ以外は自室に閉じこもる。1 か月４万円、パチンコに使う。54 歳の娘は 35 年間、自宅に引きこもる。暮らしの支えは、父の退職金と年金。20 年 12 月、父が亡くなる。名古屋で暮らす次男が、生活保護を申請し、妹を名古屋で独り住まいさせる。長男のパチンコ通いは変わらない。**Ｄ・撮影**：**森葉月**、撮影：佐藤彩子、伴尚志、Ｐ：中保謙、制作：中京テレビ。

○テレビ朝日・テレメンタリー2021**「なんで見えない～名古屋入管で起きたこと～」**
10/31 日、4:30～、30 分枠。スリランカ人、ウイシュマ・サンダ・マリの死亡事件。支援者の真野明美を通して追及。
Ｄ：田中秀治、Ｐ：村瀬史憲、制作統括：井上隼、制作著作：メーテレ。

○ＢＳ-ＴＢＳ・ドキュメントＪ×長崎**「あの子 ～原子野のうた声～」**10/31 日、10:00～、52 分。
初回放送は、ＮＢＣ長崎放送で・6/27 日 26:05～　被爆作曲家・木野譜見雄の生涯をたどる。“あの子”独唱：西村和美（山里小学校）、Ｄ：古川恵子、Ｐ：中島三博、制作協力：プロダクション ナップ、制作著作：ＮＢＣ長崎放送。

○ＥＴＶ特集・**「奄美・アイヌ ～北と南の唄が出会うとき～」**11/6 土、23:00～、59 分。
奄美、アイヌ。それぞれの唄文化を探る。2021 年 6 月旭川で交流。出演：ＯＫＩ（アイヌ音楽）、朝崎郁恵（奄美の唄者）～沖縄列島は何処へ行ったの？～　撮影：三浦大輔、Ｄ：上野智男、制作統括：久保健一、梅原勇樹、制作著作：NHK札幌。

○NHK地域発 ＳＤＧｓ推し！・東北ココから**「埋もれたい“俺”23 歳の景色」**11/8 木、10:15～、27 分。
初回放送；10/15 金。19:30～、27 分。宮城ローカル。仙台で生きる 23 歳、“俺”の視点で描くドキュメンタリー。就職を機にトランスジェンダー公表をやめた理由。
△目線カメラに映る不自由と自由の断片。～スタッフの記入を忘れました。～

○目撃!にっぽん**「妹が生まれなかったかもしれない世界 ～出生前診断と向き合って～」**NHKG、11/7 日、6:10～、30 分、
～出生前診断・命を選ぶことは何なのか？～　ダウン症の妹のいるディレクターが、自分の妹や両親、診断を受けた人たちを取材。撮影・Ｄ：植村優香、Ｐ：水谷宣道、製作統括：石田望。制作：NHK名古屋。　☆☆これも、東海地区の熱い風？
～妹が生まれる前に、ＮＩＰＴがあったら、父と母の選択は？　母は生まなかった。父も、妹はいなかった、と答えた～

○ＥＴＶ特集**「消えた技能実習生」**11/20 土、23:00～、59 分
コロナ禍、人道的見地から発給した（転職できる）短期滞在ビザ（90 日）により、実習生に「転職バブル」。△10 人のベトナム人技能実習生の行方を追う。△違法な職業紹介、闇金融、妊娠中絶、ＮＰＯ法人「日越ともいき支援会」。
撮影：小嶋一行、取材:持丸彰子、Ｄ：青山浩平、制作統括：梅原勇樹、真野修一、制作著作：NHK、

○ＥＴＶ特集**「ずっと、探し続けて ～“混血孤児”とよばれた子どもたち～」**11/27 土、23:00～、59 分
神奈川県大和町。行き場のない混血孤児（6 歳～15 歳）を収容する施設「ボーイズタウン」。1971 年に閉鎖され、唯一「ヨゼフ寮」が残され、孤児たちの溜まり場・避難場に。△今も通う、70 過ぎの孤児たちを取材。撮影：日昔吉那、Ｄ：福田紗友里、Ｐ：海老沢真、制作統括：梅内庸平、村井晶子、制作著作：NHK。

○NHKＢＳ1・Asia Insight**「中国　寝そべる若者たち」**11/29 月、14:30～、20 分？
過酷な競争社会に疲れ、最低限しか働かない。「**寝そべり**族」の本音を聴く。
～Asia Insight は、激動のアジアを市民の目線で描くドキュメンタリー枠。～

○NHKEテレ・ハートネットTV**「“浮きこぼれ”の子供たち」**11/30 火・12/1 水、22:30～、30 分。
第１夜『見直されてきた生きづらさ』、第２夜（生放送）『ひとりひとりが「才能児」！』
才能がある故にこぼれ落ちる子供たち、クラスに１人はいる！　　Ｄ：笹井英介、Ｐ：海老沢真、制作統括：柳迫有、制作著作：NHK
～言葉の発見！『浮きこぼれ』『才能児』『寝そべり』～

○NHKＢＳ１**「池上彰の零戦講義～高校生と対話～」**12/3 金、22:00～、50 分。
出演：池上彰、鹿屋中央高校２年生、Ｄ：林伸昭、Ｐ：広瀬哲雄、制作統括：藤田英世、山下茂、制作：ＮＥＰ、 制作著作：NHK。

○ＥＴＶ特集**「昭和天皇が語る 開戦への道 前編・後編」**　12/4 土・11 土、23:00～、59 分×２回
『前編 1928～1937 張作霖爆殺事件から日中戦争』・『後編 1937～1941 日中戦争から真珠湾攻撃』
太平洋戦争開戦 80 年。初代宮内庁長官・田島道治の「拝謁記」。軍の下克上を止められなかったと反省。
今年９月、天皇の侍従長・「百武三郎の日記」が公開。和平工作に期待も全面戦争へ。苦悩する天皇は、1941 年 11 月 20 日、開戦へ前のめりになる。△再現ドラマを交えて迫る。　出演：片岡孝太郎、橋爪功、再現演出：佐古純一郎、取材：吉見直人、Ｄ：小林亮夫、岡田享、制作統括：塩田純、梅原勇樹、制作協力：ＮＥＤ、制作著作：NHK、　　～昭和天皇の弁解。98 分でした……。～

○NHKG・NHKスペシャル
歴史を「個の視点」から「複眼的」に捉え直すシリーズ**「新・ドキュメント太平洋戦争」。**エゴ・ドキュメントと呼ばれる当時の日記や手記から、戦争の新たな断面に迫る。
『新・ドキュメント太平洋戦争「1941 第１回 開戦（前編）」』12/4 土、21:00～、49 分。
市民や国のリーダーたちが、なぜ戦争へ向かったのか、心の変化を見つめる。
Ｄ：今？？？、長野伶英、大場真美、制作統括：山崎啓明、齊藤圭介
『新・ドキュメント太平洋戦争「1941 第１回 開戦（後編）」』・12/5 日、21:00～、49 分。
最前線の兵士たちの記録。軍中央や銃後の国民との“温度差”を描きつつ、“開戦”が戦争長期化につながった実態。
取材：藤岡ひかり、高澤圭子、Ｄ：小川海緒、横里征二郎、秋山遼、制作統括：中村直文、鈴木伸元、

○ＢＳ1 スペシャル・激動の世界をゆく**「アフリカ新秩序の模索」**12/5 日、19:00～、50 分+50 分。　キャスター：鎌倉千秋。
△前編『ケニア』中国・アメリカの投資で急速な経済成長。　△後編『ガーナ』西アフリカ。援助依存から自立した国へ。

○ＢＳ1 スペシャル・**「真珠湾８０年　生きて愛して、そして」**12/5 日、22:00～、50 分+50 分。
真珠湾攻撃には 900 人近い航空隊の搭乗員が参加。その後、彼らは最前線に投入され続け、終戦を生きて迎えた者は２割に満たなかった。
語り・Ｄ：大島隆之、イラスト信長アキラ、筒井貴久、Ｐ：伊藤純、制作統括：太田宏一、渡辺圭、制作：ＮＥＰ、制作著作：NHK

○ＥＴＶ特集**「空蝉の家」**12/18 土、23:00～、59 分
孤独死の事情を辿るドキュメント。愛知県の市営団地。16 年前、認知症の妻に先立たれた・92 歳の父。1931 年生まれ。
長男(65)はギャンブルとタバコにふけり、パチンコに出かける以外は自室に閉じこもる。１か月４万円、パチンコに使う。
54 歳の娘は 35 年にわたって自宅に引きこもり、コンビニには行けるが、他人との交流はなく、国が示す「ひきこもり」の定義に該当。
暮らしの支えは、父の退職金と年金。月 18 万円の年金。家賃２万４千円。娘の年金に１万６千円。生活は困窮を極め、思いつめた父は、２年前に自殺を図ったことも。――20 年 12 月、「お父さんが亡くなった」と娘から記者に電話。長男は葬儀に出なかった。
名古屋で暮らす次男が、妹を名古屋で生活保護を申請し独り住まいをさせる。長男のパチンコ通いは変わらない。
54 歳の娘の独り暮らしが二か月になる……。　△次男が父の日記（家族の記憶）を見つける。父は長男を「廃人、空蝉のごとし」と表現。
日記から、仕事に逃げて、世間体に生きて、ついには家族を崩壊させた男（父）が浮かび上がる。
Ｄ：森田智子、制作統括：梅内庸平、渡辺由裕、村井晶子、制作著作：NHK。　～悲しい家族だね……。～

○ＢＳ1 スペシャル**「歩兵第 11 連隊の太平洋戦争　～“銀輪部隊”の英雄たち～」**　12/19 日、22：00～、23：00～、99 分。
テムジンの原賀伸ディレクターの力作。精強と謳われた広島の郷土部隊・歩兵第 11 連隊がたどった道を描く。
NHKの戦争証言アーカイブスも利用。
取材：谷花栄子、堀口裕生、Ｄ：原賀伸、Ｐ：伊藤純、矢島良彰、制作統括：東野真、太田宏一、小柳ちひろ、制作：ＮＥＰ、
制作著作：NHK、 テムジン

○ＢＳ1 スペシャル**「河瀬直美が見つめた東京五輪」**12/26 土、22:00～、50 分+50 分=100 分枠
　Ｄ：山口洋樹、制作統括：岩崎大輔、制作著作：ＮＨＫ大阪
～なぜ、大阪制作なのか？　河瀬直美で番組に！との魂胆？　見ている間、妙に肌触りの悪い番組だった…～
～『不適切字幕問題』…お金を貰って五輪反対デモに参加する。『名誉毀損された五輪に反対する人々には謝罪しないの？』
…ＮＨＫは、制作の現場からトップまで並べてガタガタ……？

○ＢＳ1 スペシャル**「#ＲＩＰ～安らかに眠れ～」**12/28 火、22:55～、50 分
　ＳＮＳ上の“おくやみ欄”、「#RIP(Rest in Peace=安らかに眠れ)」の言葉と共に拡散される。△訃報がつぶやかれた人たちの人生を取材。
　～懸命に生きた人の生から、残された我々の来し方行く末を考える。～

○ＢＳ-ＴＢＳ・報道１９３０**「象徴天皇制 聖と俗とは」**12/29、19:30～、
　新皇室論を考える。聖と俗との狭間で揺れる皇位継承。保坂が持論を展開。キャスター：松原耕二、ゲスト：保阪正康、河西秀章（名古屋大）。　☆☆☆☆　**松原耕二**　今年も放送人グランプリの候補に推します！

○ＮＨＫＧ・ＮＨＫスペシャル**「検証 コロナ予算 77 兆円」**12/29 水、21:00～、60 分
　2020 年度に計上の「コロナ予算」は 77 兆円。巨額予算がどう使われ、どのような効果をあげたのか。コロナ予算を徹底検証
　△１万ページに及ぶ「行政事業レビューシート」のデータをＡＩで解析。
　専門家：佐藤主光（一橋）、大橋弘（東大）、西出順郎（明大）、宮川大介（一橋）、尾上洋介（東大）。
　～あらわになった、日本の予算執行の課題そのもの。根拠に基づく政策立案（ＥＢＰＭ…Evidence Based Policymaking）が必要。政策が機能したのか否か、データーに基づく検証が前提だ。～
　キャスター：高瀬耕造、Ｄ：木下義浩、中川直樹、笹川陽一朗、加賀恒在、阪野一真、Ｐ：石田望、松田純、制作統括：旗手啓介、植松由登、野津原有三、大久保智、制作著作：ＮＨＫ

○ＮＨＫＧ・**「このドキュメンタリーがヤバイ！2021」**12/30 木、8:35～、83 分。
　今年のＮＨＫ話題作 108 本の中から、タレントがイチオシを選出。魅力を笑いありで語りつくす。
　出演：設楽統、ヒコロヒー、長濱ねる、大島新、斉藤和義、内田英恵、佐々木航跡、近藤剛、山田裕一郎、金川雄策、杉浦友紀、
　Ｄ：大貫陽、暢望、Ｐ：真野修一、制作統括：杉江亮彦、本間一成、城秀樹、制作著作：ＮＨＫ

○ＢＳ1 スペシャル・**「“アジアンヘイトクライム”と戦う ～分断深まるアメリカ～」**12/30、22:00～、50 分+50 分。
　トランプ前大統領の「チャイナウイルス発言」を機に、アジア系住民への暴行や脅迫行為「アジアンヘイトクライム」が噴き出した。
　現状のレポート。取材：鈴木理絵、五十嵐章、Ｄ：今野利彦、柴田夏未、Ｐ：大屋光子、制作統括：坂元信介、小堺正紀、西山亮、
　制作：ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ、東北新社。

○ＢＳ1 スペシャル**「私たちのデジタル医療革命 ２０２２」**1/２土、22:00～、50 分+50 分。
①救急救命…デジタル化、②画像診断にＡＩ（ディープラーニング）③見えないサインを見つける（パッチ式脳波計など）④いつでもＳＯＳ、⑤医療データーの共有化、⑥病院がつながる・どこでも医療、⑦医療の未来
　出演：三宅民夫、宮田裕章（慶応大）、取材：鈴木隆夫、吉村和真、前編Ｄ：山本雄平、庄田豊和、後編Ｄ：久保伸一、田中安美、
　制作統括：坂元信介、小野裕子、吉川美恵子、制作協力：ＮＥＤ、制作著作：ＮＨＫ、オルタスジャパン。

○ＢＳ１スペシャル**「マイケル・サンデルの白熱教室　中国の友よ　君はそれで幸せなの？」**1/３月、前後編、49 分×２回
　～国家は、個人や企業にどこまで介入していいのか。日米中の若者たちが議論～。
　Ｄ：飯塚純子、制作統括：寺岡慎一。橋本陽、制作：ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ

○ＮＨＫＥテレ・**ニュー試「世界の入試で未来が見える！」**1/15 土、15:00～、59 分。
　大学入学共通テストなど受験シーズンにお届けする・入試エンターテインメント番組「ニュー試」
　世界各国の入試問題に伊沢拓司・本田望結・福田麻貴が挑戦！　未来に求められる思考力や創造力、論理力とは？
　構成：西村隆志、Ｄ：山本結城、佐藤憲吾、松井真奈、Ｐ：玉井佑実、安孫子礼菜、制作統括：野々部一成、演出：中村真一朗、安井章浩、
　制作著作：ＮＨＫ

○ＢＳ1 スペシャル・**「我が子を家に　中国誘拐　執念の２２年」**1/16 日、22:00～、50 分。
上海の唐蔚華（とう・いか）は、４歳で誘拐された我が子を 22 年間捜し続けてきたが……。見つからない…。
中国の一人っ子政策の犠牲。撮影：易繁、取材：劉慶雲、Ｄ：福井早希、制作統括：白水康大、制作著作：ＮＨＫ

○ＢＳ1 スペシャル**「それでも声を上げ続ける～香港・記者たちの闘い～」**1/22 土、20:00～、50 分。
シャーリ・リャン（フリー、元林檎日報記者）、8 月のデモに参加したメディア関係者を訪ね歩く。
取材協力：伯川星矢、Ｄ：佐藤充則、制作統括：坂元信介、平野愛、茂木明彦、制作：ＮＨＫグローバルメディアサービス、制作著作：ＮＨＫ、アジアコンフレックス。

○ＢＳ1 スペシャル・**「全告白！　国際ロマンス詐欺　～漫画家が陥った“偽りの恋”」**1/23 日、23:00～、50 分。
レディースコミックの女王・井出智香恵。ハリウッド俳優を名乗る男に、３年半で7,500 万円をだまし取られた。きっかけはＳＮＳ･･･。
語り：岩下志麻、編集：鳥越翔平、制作統括：坂元信介、竹村香、村田真顕, 制作：ＮＥＰ、制作著作：ＮＨＫ、テレビマンユニオン

～～以下、下馬評で取り上げた・ドラマ（放送順）～～

□ＴＢＳ・**「俺の家の話」**（1/22 金～、22:00～、54 分×全 10 回）拡大①69 分
脚本：宮藤官九郎、ＣＰ：磯山晶、Ｐ：勝野逸未、佐藤敦司、Ｄ：金子文紀、制作：ＴＢＳＳＰＡＲＫＬ、ＴＢＳ、
出演：長瀬智也、戸田恵梨香、桐谷健太、西田敏行、永山絢斗、井之脇海、平岩紙、江口のりこ、
～元プロレスラーが、能楽師の家族とヘルパーと介護&遺産相続バトル、～

□フジテレビ・**「大豆田とわ子と三人の元夫」**（4/13 火～、21:00～、45 分×10 回）①枠広げ 56 分
脚本：坂元裕二、Ｐ：佐野亜裕美、Ｄ：中江和仁、池田千尋、瀧悠輔、制作協力：カズモ、制作著作：カンテレ、
出演：松たか子、岡田将生、角田晃広、松田龍平、オダギリジョー、高橋メアリージュン、弓削智久、平埜生成、石村みか、豊島花、石橋静河、石橋奈津美、滝内公美、長岡亮介、市川実日子、近藤芳正、岩松了、ナレ：伊藤沙莉
～３人の元夫に振り回されるバツ３子持ち女社長（注文住宅の建設会社）の日々奮闘するロマンチックコメディー～

□NHKG・土曜ドラマ**「今ここにある危機とぼくの好感度について」**（4/24 土～、21:00～、49 分×５回）
脚本：渡辺あや、ＣＰ：勝田夏子、訓覇圭、Ｄ：柴田岳志、制作：ＮＥＰ、制作著作：NHK、語り：伊武雅人、
出演：松坂桃季、鈴木杏、渡辺いっけい、高橋和也、池田成志、國村隼、古館寛治、岩松了、松重豊、温水洋一、斉木しげる、安藤玉恵、
～人気低迷のアナウンサーが恩師（学長）の誘いで、大学の広報マンに転身する。危機管理能力を見込んで。大学の好感度を上げ、学生を増やしたい。現代を斬るブラックメディー。～

□NHK・朝ドラ**「おかえりモネ」**（5/17～10/29、月-金、15 分×120 回）21 年度前期・104 作目。
脚本：安達奈緒子、制作：吉永証、須崎岳、Ｐ：上田明子、演出：一木正恵、梶原登城、桑野智宏、
出演：清原果那、鈴木京香、坂口健太郎、永瀬廉、浅野忠信、高岡早紀、西島秀俊、夏木マリ、内野聖陽、竹下景子（語りも）。
～宮城気仙沼湾・沖の島で育ち、登米で青春を過ごしたヒロインが、魅力と可能性を感じた天気予報を通して、人々の役に立ちたいと気象予報士を目指して上京。やがて故郷の島へ戻り予報士としての能力を活かして地域に貢献する姿を描く。～

□NHKG・終戦ドラマ**「しかたなかったと言うてはいかんのです」**　(8/13 金、22:00～、75 分)
原案：熊野以素「九州大学生体解剖事件 70 年目の真実」、脚本：古川健、ＣＰ：三鬼一希、熊野律時、Ｄ：田中正、
制作著作：NHK名古屋・大阪、　出演：妻夫木聡、蒼井優、永山絢斗、鶴辰吉、山西惇、辻萬長、中原丈雄、若村麻由美、
～教授の指導に逆らえぬまま、米兵捕虜の生体解剖実験（片方の肺で、どれだけ生きられるか？）手術を手伝う。戦後、戦犯として死刑判決を受ける。「私には罪がある」と嘆願書提出を拒む。S25 年朝鮮戦争により、減刑・重労働 10 年。S29 年 1 月巣鴨を出所。～

□日本テレビ・**「恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～」**（10/6 水～、22:00～、51 分×10 回）
原作：うおやま、脚本：松田容子、ＣＰ：加藤正俊、Ｐ：森雅弘、小田玲奈、鈴木香織（ＡＸ－ＯＮ）、Ｄ：内田秀実、狩山俊輔、
制作協力：ＡＸ－ＯＮ、制作著作：日本テレビ、出演：杉咲花、杉野遥亮、奈緒、鈴木伸之、岸谷五朗、戸塚純貴、堀夏喜、田辺桃子、
細田佳央太、生見愛瑠、ファーストサマーウイカ、古川雄大、案内人：濱田祐太郎、
～恋に臆病な盲学生と根は純情なヤンキー、二人が出会って始まるラブコメディー～　**【続きは32頁にあります。】**

らうと表明した。

ＴＢＳは日曜劇場の**「日本沈没-希望のひと」**をNetflixで放送直後の月曜０時から、約30言語に字幕翻訳して世界配信をした。今放送の**「ＤＣＵ」**はハリウッドと一緒に作っている。日曜劇場としては仕掛けの大きい作品になる。

Ａ　今売られているテレビのリモコンには、配信のボタン（Netflix、Huluなど）が組み込まれていて、その中に1とか2とかのチャンネルがある。若い人には地上波も配信も関係なく1も4もワンオブゼン。画面はモニター化している。

Ｂ　サッカーのワールドカップやゴルフのトーナメント中継を動画配信のＤＡＺＮが手掛けている。放送局は、放送権料が高いからと、テレビの特性が出ているジャンルを手放す傾向にある。これは、どうなんだろうか？

Ｃ　Netflixの米倉涼子主演の『新聞記者』が話題を呼ぶ。映画版を作った藤井道人監督がドラマ版を演出、これもやがて、放送人の会や放送批評懇談会が、Netflixを視野に入れて評価をする時代になるだろう。

　そのNetflixに、第2回大山勝美賞を受賞したＷＯＷＯＷの岡野真紀子が転身した。実にシンボリックな転身である。

Ｄ　放送人グランプリの議論で言うと、昨年は開戦80年と地方局の動向、この二つがポイントです。

　地方局は益々経営が苦しくなっている中で、東海テレビが始めたドキュメンタリーの映画化がはっきりした潮流になっている。優れたものが幾つか出て、内容も多様化している。

Ａ　**「コロナ編成」**と言うか、制作の環境が厳しいので編成上の再放送が増えたようだ。個人的には見逃していたものを見られて良かったと思うが、アーカイブの価値がテレビ編成そのものの中に入ってきたことを押さえて置きたい。たまたまコロナでそうなったが、テレビの存在理由を考えたり、テレビを見直す時には、大事な転換点だと思う。

　今後、「アーカイブは、今のテレビや今の時代を見直すための情報である」というような確かな位置づけを考えたい。

Ｂ　ラジオ開局70年はＴＢＳも文化放送もＣＢＣ、ＭＢＳも色々やったが、多少身びいきで言うと、**武田砂鉄**が**『ＴＢＳラジオ公式読本』**を出したことだ。武田がパーソナリティーにインタビューするのだが、これがなかなか面白かった。子供の頃はテレビが無くてラジオを聞いた世代ですから、その辺を思い起こして、（ＮＨＫの経営問題とは別に）ラジオをもう一回見直してみよう、ラジオというメディアについて考えようと思う。

Ｃ　東京オリンピックとコロナの関係。

　よく見たテレビは開戦80年の番組。80年経っても、いっぱい発見される事実があって、新たに語られることにしみじみ感動した。**「映像の世紀」**では、次々と発掘されてくる映像が一つのドキュメンタリーとして成り立ちうるという、アーカイブの別な使い方を見た。戦争関連も含めて、良い作品がいっぱいあったなと、つくづく感じた1年でした。

Ｄ　コロナ禍になった1年目は、恐怖だとかコロナそのものに焦点をあてた番組が多かった。2年目は、ある希望のようなものが見えて来て、新たなコロナの時代を模索する、テレビとメディアの時代だと感じました。

　ＳＤＧｓの話も出たが、選挙とオリンピックがあって、男女平等の問題など、新しい政治の側面をまざまざと見せてくれた。また、国内ロケや海外ロケに行けないのを逆手にとって、みんなが持っているスマホを使い、素人っぽさを活かした番組がNetflixにもありました。Paraviなど、多様なメディアを使って、放送の番組では出来ないものを、再編集してネットで見て貰うなどの全く新しい手法がいっぱい出てきて、新たな希望、新たなメディアの形が見えてきた1年だと思います。

Ａ　Googleで、ジャーナリストたちがオンラインで番組を発信できるプログラムを運営している。「グーグルニュース イニシアティブ」って言うんです。どこまで放送で、どこまで配信とするか、今後の課題です。

◇ラジオの番組を推薦！

Ｂ　全部で9本、放送日順です。

「ＳＢＣラジオスペシャル　Lost&Found～家族と故郷を失った父と娘の10年～」信越放送、2021年4/19、20:00～、59分枠。

　文化庁芸術祭ラジオ部門優秀賞。

　福島の原発事故で、避難先の白馬村から大熊町に通い、大津波で行方不明の娘を捜し続ける父と、妹を失った姉。自宅跡は中間貯蔵施設が建設中。無口な親子それぞれの心情を、二人のナレーターが語り分けて交差させる。

「真栄原ミュージック」ＦＭ沖縄、2021年4/1～、毎木曜21:00～、55分枠。出演：與古田忠、西向幸三。二人の地元にありそうな架空のレコード屋から、最高の音楽とやさぐれトークを届ける。

　本年、5月15日に沖縄復帰50年を迎えるので、先取りしての推薦。

「ニッポン放送開局67周年“冗談工房”結成65周年記念 特別番組『三木鶏郎とニッポン放送』7/20火、18:30～、120分枠。

　タイトル流し！　三木鶏郎主宰の“冗談工房”が制作し、開局2年後のニッポン放送で、1956年4月から5年間1800回放送した「トリロー・サンドイッチ」、その音源が見つかる。コメンテーター：高田文夫（73）、ゲスト：泉麻人（65）、鈴木慶一（69）、アシスタント：箱崎みどり（ニッポン放送アナ）。会見で檜原麻希社長は「60年以上前に放送していたものを令和の時代に届けたい。若手社員にも聴いてもらいたい」と語った。高田が「?」で、番組は散漫だった。だが、社長の勢いか最近のニッポン放送、レイティングは良い。

　なお、三木鶏郎の足跡は、ＮＨＫ「日曜娯楽版」→文化放送→ニッポン放送。

　文化放送では、2014年に「三木鶏郎生誕100年記念特別番組『三木鶏郎の世界』」を放送。パーソナリティ：泉麻人、濱田高志、監修：三木鶏郎企画研究所、構成：濱田高志＆土屋光弘。これは面白かった。

　この出演を機に、泉麻人は『冗談音楽の怪人・**三木鶏郎**―ラジオとＣＭソングの戦後史―』を書いた。

「ニッポン放送特別番組『伝説の箱根アフロディーテから50年～ピンク・フロイド貴重音源、奇跡の発掘～』7/29木、19:40～、生放送100分枠。これも発掘もの。

　1971（昭和46）年8月に開催された日本初の野外ロックフェスティバル『箱根アフロディーテ』から50年を迎える。主催したニッポン放送が、当時の音源とイベント当事者の証言で、あの“熱狂の夜”を振り返る。新たに発見された『原子心母』の貴重な当時のライブ音源をラジオ初オンエア。

　パーソナリティ：亀渕昭信、伊藤政則、メッセージ：ピンク・フロイドのドラマー、ニック・メイスン、松任谷由実。

　番組は、構成に難ありだった。

『ニッポン放送ショウアップナイタースペシャル　ありがとう「ミスター・ショウアッ

プナイター」深澤弘さんを偲んで』

9/13 月、22:00〜、60 分枠。

9月8日に 85 歳で亡くなった深澤アナの追悼番組。長嶋茂雄の引退風景等、数々の歴史的実況中継の音を交えながら、その足跡を振り返る。パーソナリティ：松本秀夫アナウンサー、出演：江本孟紀、高嶋秀武。

番組は聞きやすくまとまっていた。

「ＹＢＳラジオＳＤＧｓ『生理ＭＥＥＴＩＮＧ』〜わたしらしく“生理”整頓〜」

山梨放送、9/19 日、11:00〜、115 分枠。

ＳＤＧｓ関連。21 年らしいラジオドキュメンタリー。ナビゲーター：小松千絵、深田幹規、ゲスト：渡邊佳邦（梶山クリニック副院長）、田代久美子（山梨学院大学女子サッカー部監督）。

生理は女性にとって一生のお付き合い。身体とのいい関係をつくるため、悩みや辛さを解消し、男性も一緒に生理について考える。リスナーから事前に募集したアンケートの膨大な悩みに、産婦人科の先生が直接答える。アスリートと生理、「生理の貧困」など社会問題としても考える。

「ＴＯＫＹＯ ＦＭ 特別番組『銀座の神様〜小林亜星との日々』

11/3 水・祝日、19:00〜、55 分枠。

ドキュメンタリードラマ。コロナ禍で5月に亡くなった小林亜星（88）。銀座を愛した小林亜星の足跡から描かれる、コロナ後の世界への一筋の光とは……。銀座を歩きながら小林亜星との思い出に馳せる・久世朋子、それを天国から見つめる小林亜星と久世光彦の掛け合いを通して、小林亜星を描く。

出演：國村隼、山崎一、辻しのぶ。コメント出演：道尾秀介（小説家）、鈴木琢磨（毎日記者）、久世朋子。

評価が分かれる作品。芸祭では外れた。

C 久世さんに接した人間として、ひと言。なんともやりきれない番組になっていて、ただ久世さんのファンの人たちが書いたドラマだなーと思った。それはそれで、今の時代は仕方ないのか……。ご免なさい。

ラジオの推薦、続けてください。

D **「文化放送開戦 80 年スペシャル 東の風・雨」**12/11 土、18:00〜、60 分枠。

アーサー・ビナードが、3年連続で今年も戦争を考えた。開戦の日に焦点を当て、日本の負の歴史の起点日を掘り下げる。タイトルの『東の風・雨』は、海外向け短波放送の「天気予報」で繰り返し告知された対米開戦を知らせる暗号。番組は相変わらず見事な作りで、出来は素晴らしい。

出演：アーサー・ビナード（詩人）、澤地久江（作家）、吉岡正光（元・真珠湾雷撃隊航空兵、103 才）。

「ＴＢＳラジオ 開局 70 周年『大感謝祭』」12/24 金、8:30〜、生放送9時間 20 分枠。

3部構成で、この 70 年とこれからを語る。**第1部**：8:30〜**「パーソナリティ大集合」**

ゲスト：大沢悠里、ナイツ、神田伯山、空気階段ほか。「毒蝮三太夫×かまいたち」の中継番組コラボ企画も。パーソナリティ：赤江珠緒、田中裕二（爆笑問題）、外山惠理（ＴＢＳアナ）

第2部：12:00〜**「あの名物企画」**名物企画名物コーナーの紹介&再現。リスナーからも募集・記憶に残る珍プレー好プレー特集。パーソナリティ：ジェーン・スー、太田光（爆笑問題）、岩井勇気（ハライチ）。

第3部：15:30〜**「ＴＢＳラジオのニュース」**数々のニュース番組。関わった人たちの声。これまで何を伝えてきたのかを振り返る。ゲスト：遠藤泰子（「森本毅郎・スタンバイ！」のアシスタント）、宮呂真司・青木理（1995-2019「デイ・キャッチ！」に出演）。神保哲生（2010-2013「Dig」）、麻木久仁子（1998-2010「アクセス」）など。パーソナリティ：荻上チキ、武田砂鉄、南部広美。

長々と紹介しました。ご免なさい。

A さすがＴＢＳだが、9時間余をしても、内容はこの 20 年がメインで、開局 70 年は紹介し切れていない。80 年代の局アナが活躍した“大人のラジオ”が入っていない。ただ、時代の変わり目を象徴するイベント番組ではあった。

B いつもは下馬評の時には放送人グランプリを何処に出すか、頭の中にあるのですが、今回は全く読めません。「ＴＢＳラジオ公式読本」を出した**武田砂鉄**は、どうだろうか。

「森本毅郎・スタンバイ！」が終わったら、あとを継ぐのは「アシタノカレッジ」（月〜金、22:00〜23:55）金曜パーソナリティの武田砂鉄ではないだろうか。

C 全く同意見。「ＴＢＳラジオ公式読本」はＴＢＳのすべて（辞めた方も含めて）のパーソナリティにインタビュー（寄稿もある）した。彼の取材力はアッパレで、読んでいてすごくよく分かる。ＴＢＳが段々失って行ったものも分かって、彼にグランプリをあげても良いと思う。

番組では、萩上チキのピンチヒッターで出演し、総理会見をユーチューブで再生しながら、澤田大樹記者と武田砂鉄が実況解説するという、これはなかなかいい企画だった。

D 武田さんのラジオの本が異例に売れている。編集が見事なのは、武田さんが河出書房の元編集者だから。彼はテレビには、頑なに行かない人。ＴＢＳラジオ記者・沢田大樹は、オリンピックの森元総理会見で、女性蔑視発言を引き出した記者。

A ラジオの会員から伝言。「グランプリ特別賞の候補に当会・会員の富沢一誠（音楽評論家）氏を推薦したい」。レコード大賞実行委員や尚美学園大学副学長。50 年間に亘り音楽評論家として活動。大衆音楽は 1960 年代後半、演歌中心からＪ-ＰＯＰ中心へと変わる。そのＪ-ＰＯＰを育てたのが富沢氏。

彼の業績を讃えたい。

◇作る人・見る人・聞く人

〜世代の断絶はこえられるか〜

B 若者と中高年の分断で、マスメディアが全体を掴みきれなくなっている。紅白歌合戦が象徴。若者を掴もうとして掴みきれず、中高年も失った。ドラマも深夜の 11 時台で、若者を取り込もうとして、ネットを使ったドラマ作りなどで苦労を重ねている。

C テレビ離れの若者に向けて色んな努力をしてきたが、深夜ドラマ枠で若者を掴もうとするのは果たして正しい努力なのか？

D **「池上彰の零戦講義〜高校生との対話〜」**

池上彰が鹿屋中央高校2年生と格闘した。

ＢＳ１・12/3 金、22:00〜、50 分。

A 今、30 代前半でデキル人は戦争特集をやっています。若い彼らがテーマに向かう力は情報収集力も含めて相当あると思います。

2021 年の3本の中で、第1次資料を新鮮な目で見て、新資料を発掘したのは若い人でした。検索能力はさすがです。

年寄りというか、僕らの世代はあんまり動かないけど、彼らはすごいスピーディーに仕事が出来る。実感です。若い人に見て貰うには、若い人が作ることで番組に力が出て来るのだと思います。

B 資料発掘に新しいノウハウを駆使しているというのは感心しました。Ｎスペのシリーズ**「新・ドキュメント太平洋戦争」**では、歴

史を「個の視点」から「複眼的」に捉え直そうと、エゴ・ドキュメントと呼ばれる当時の日記や手記から、戦争の新たな断面に迫っている。**「1941 第1回 開戦（前後編）」**12／4 土&5日、49分×2回。

全国に埋もれている普通の人の日記を発掘してきて、大量のデーターの中からＡＩを使って、キーワードで探っていって、庶民の意識の変化がどのように変わったかを番組化した。これは若い世代で無いと出来ないもので、中々良い番組でした。

Ｃ　証言者を見つけて、その人の元に通って証言を撮るという、僕らの時代の作り方はもう出来ない。若い人の第1次資料を発見する力、検索力は、それは凄いと思います。

Ｄ　皆さんも30代は相当頑張った筈ですが、それはその時代の時代感覚と、その時代に使えたツールを使ってやってたんです。

それが新しいツールの時代になって、新しい武器が手に入って、それを使える人たちが主流になって行く。

基本は、やはり第1次資料だよね。

Ａ　いつの時代も若い人は頑張るんだけれども、あまり意識しないでね。自分たちが身につけたある種の力とか能力を喚起しながら、新しい表現の仕方や、番組の作り方を考え出す、自然にそうなるんですよね。

Ｂ　そうですよ。メディアの露出場所が、Netflixも含めてテレビだけでは無いので、今の時代に生きている人たちが、自分たちで面白がったり、自分たちで使える武器を手にして闘っているんです。

だから、あまり、若い人だからという意識はいらない気がするんです。

Ｃ　ＢＳ1スペシャル**「『自由の声』が消えゆく世界で ―アラブの春から10年 夢の先に―」**4／11日。非常に面白く見た。

今の議論で言えば、作り方は昔風の作り方で丹念に追っかけている。19世紀の小説「赤と黒」のジュリアン・ソレルのフィーリングもあって、優れた作品だと思っている。

昔風の作りを、どう評価するのか、皆さんのご意見を是非聞きたい。

Ｄ　作り方も含め、いいものは時代を超えて良いんです、ご心配無く……。

検索力も大事ですが、出すメディアの問題もあると思う。例えば、私が髪を切りに行く美容室の20代の子は、凄い昭和ブームなんです。コンテンツがスゴイって言って。だけどテレビはあまり見なくて、やっぱりネットで見るんです。

そう言う彼らに届ける方法。YouTube で長いのをやるのか、TikTok でフィーリングだけ短くやって、ネットやYouTube に誘導して、本編を見て貰うとか……。長いコンテンツに飢えている若者もいるし、出す側のマルチメディアの使い方の課題だと思います。

Ａ　そりゃ、そうだけど、こんなケイタイの小さな画面で長いのを見る？

Ｂ　はい。音楽がもう、そうなっています。

◇テレビとネット、議論は続く
～放送人グランプリの対象は？～

Ｃ　僕の単純すぎる理論だけど、「テレビとネットの区別」を言えば、何人かで見るのがテレビであって、一人で見るのがネットで、そこに行き着くのは必然ですよね。

今年、止めた番組を見ると、家族で楽しむとか、夫婦、子供同士、親子とか、そういう番組がどんどん無くなってきている。

だけど、どうせ若い人がテレビを見ないのであれば、紅白のような演歌もある、みんなで見られるものを、テレビは選択すべきではないだろうか。

Ｄ　ワンセグが出来た時に、デジタル放送推進協会（Dpa）にいたんだけど、あの時（2006年）、各局がワンセグ用試験番組を作ったが、ＮＨＫもふくめ、こんな携帯の小さな画面でドラマなんか見るか、せいぜい3分か3分半で、番組を作りましょうとなった。

でも、この小さな画面で長いものを見るのが当たり前になってくると、僕らの予想よりも、はるかに若い人の見る能力と許容範囲が上がったということで、すごく急速な変化だと思います。

ラインにしても、ツイッターにしても、わずか数文字の単語でみな対応しています。単語文化の中で、長い番組はどう言う位置づけになるのか、僕には未だにクエスチョンマークです。

Ａ　ネットとテレビ、通信と放送の融合というのは、僕がやった20年以上前からあった。インフラで言えば、大方は通信が放送を飲み込むというのを通信事業社・メーカー・役所が言っていた。そうじゃないと頑張ったのは放送だけでした。

先ほどのドラマをNetflixと一緒に作っていくと言うのは、テレビでは無いネット環境のマーケットを想定しているけど、内容的に言うとそれはテレビなんです。ＤＡＺＮのスポーツ中継だって、内容はテレビです。

つまり、テレビがネット（通信）に飲み込まれたのでは無く、ネット（通信）の内容・情報がテレビ化しているんです。だから、ビジネスとしてどっちが勝つかは別として、コンテンツは結局テレビ的番組がベースになりつつある。

だから、こんな小さな画面で、電車の中でもドラマを見るというのは、通信が強くなったと同時に、情報はテレビ化しているからって言えるんです。

つまりは、テレビのある種地下水脈のような、或いは遺伝子のようなものが、結局生き残って行くと僕は思っている。

Ｂ　ウエブサイトで**ヤフージャパンのクリエイターズ**というのがある。これは2018年新聞記者の方が立ち上げたものなんです。

コロナの時、フリーのテレビディレクターは仕事が無いから、非常に助かったんです。制作費が20万から100万で、ノーナレですけど、今年はスゴイ傑作が出て来て、ドキュメントで語るＳＤＧｓとかあるんです。ただし、10分以内です。

内容は非常にテレビ的なんです。その中から、映画化される作品もあります。

実は、テレビの手法は放送局から個人に移って、個人がメディア化して行って、それがテレビの手法を受け継いで行くってことなので、僕は悲観していません。

Ｃ　確実に露出の場が増えたと言う事ですね。そうすると、放送人グランプリの対象も少し広げないと？

Ｄ　ヤフージャパン「クリエイターズ・プログラム」などは、評価してあげたいですね。小さな所で、実直に地道なドキュメントを出していますから。

Ａ　ほとんど一緒のものが多いけど、どこまで括るかですね。テレビ受像機の世界で考えるのか、コンテンツがテレビであろうが通信であろうが全体でやるのか。

「評価の土俵を何処に置くか？」議論すべき大きなテーマだと思う。

Ｂ　『放送人』の『放送』とは何ぞや、と言う議論にも通じる。

Ｃ　今は、基本、放送から出て来るものって考えないと、際限が無くなるか、と。

でも、個人的には、お金払って配信でドラマを見てます。コマーシャルが無いので、流

れがよく分かるし、時間の節約にもなる。

内蔵や外付けのＤＶＤに、番組表から予約録画すよりも、手間いらずなので。

◇お待たせしました！　下馬評です!!

Ｄ　正月3日放送の**「マイケル・サンデルの白熱教室　中国の友よ　君はそれで幸せなの？」**100分・ＢＳ1スペシャル。

日中韓・3カ国の大学生が議論をする。

エッセンシャルワーカーについてどう思うか？　中国では未成年がオンラインゲームで遊べるのは、週末の1日1時間だけなどと政府が決めたことをどう思うか？　学生たちが議論をしあい、それをサンデルが纏めていく。これは実に面白くて、家族でテレビを見る機会になった。妻と息子と私、家族で見て自分も議論に参加したような気分になる。喫緊の話題について中国人がなんと言うか、興味を持ってみんなで見ました。実にテレビの特性を活かしていて、面白かった。

Ａ　優秀賞候補に推薦したい。マイケルは、エッセンシャルワーカーはコロナが怖いので外に出られない人が、ウーバーイーツに下請けに出している構造だと指摘する。

中国がゲーム機に関して規制を出す時、罰則は何処に向けられるか？　親が罰則を受けるのでは無く、売っている店に罰則が科せられるが、それはおかしいんじゃ無いか？　でも酒を売った時には、親が子供に飲ませたことを罰せられるのでは無く、酒を売ったところが罰せられるでしょ、と言う議論になる。アメリカ人、中国人、日本人が議論し合う、テレビ的で実に面白かった。

Ｂ　出演している日本の学生（東大と慶応）に芯が無い、と感じた。

Ｃ　そう。結局、マイケル一人で喋っているから、見ている私が反応している。つまり、一方的に送ってくるだけじゃ無くて、「違うだろう、それは……」と言いかける素材になっていたのだ。何より番組に力があったからだと思うんです。

◇ＮＮＮドキュメントが頑張っている

Ｄ　グランプリの候補です。日本テレビ、日曜深夜のＮＮＮドキュメント21。**「セックスと同意～「性犯罪」刑法は変わるのか～」**6/27・55分枠広げ。性被害者自身の証言は長期取材の信頼関係の成せるもの。女性スタッフの労作です。デスク：小島都、取材：植田恵子（ALIVE）、ＡＤ：森下未季、Ｄ：大島千佳、Ｐ：今村忠、福田春雄、古市礼子（ALIVE）、ＣＰ：有田泰紀、制作協力：ＡＬＩＶＥ、製作作著作：日本テレビ

Ａ　これはパート2で、2年前に『性被害』の問題を取り上げて賞を取っています。（※1）両方見ましたが、被害者が顔出しでよく取材に応じたな、と。Ｄの大島千佳はフリーですが、ALIVEの古市礼子Ｐの頑張りで続編が成立した。

他に、中京テレビが同じ枠で**「ほころぶ性暴力の被害者　それぞれの一歩」**を放送。7/25日、25:05～、30分枠。取材・撮影・語り・Ｄ：森葉月、Ｐ：吹上直裕、こちらも秀作です。

1年前に放送した「がらくた ～性虐待、信じてくれますか～」は日本民間放送連盟賞テレビ報道部門のグランプリを受賞した。Ｄ：森葉月、撮影 佐藤彩子、監修 安川克巳、Ｐ：横尾亮太。

いずれも**森葉月**ディレクター。

Ｂ　二つとも、ずっと追いかけている人が作っている。レイプ・性暴力の問題を継続的に取り上げている**「ＮＮＮドキュメント」**に賞を贈呈するのは、どうだろうか？　他で取り上げないので。

Ｃ　一昨年6月、「ＮＮＮドキュメント シリーズ」が『日本記者クラブ賞特別賞』を受賞しました。また、50周年を記念して**「ＮＮＮドキュメント・クロニクル 1970-2019」（丹羽美之編集・東京大学出版会、1344頁、2020年1月刊）**が出版されました。

いずれにしろ、地方局でドキュメンタリーを作っている人たちには、得がたい場なのは確かですね。

Ｄ　森葉月さん絡みで言うと、ＮＮＮドキュメント21**「おいてけぼり～９０６０家族～」**10/24日、24:55～、60分枠。悲惨な話で、男は駄目だなぁ―と思う。叩き上げで頑張った父の想いってなんだったんだろうなと、考えさせられました。語り：柄本明、Ｄ・撮影：森葉月、撮影：佐藤彩子、伴尚志、Ｐ：中保謙、制作：中京テレビ。

（※1）ＮＮＮドキュメント 19「なかったことに、したかった。未成年の性被害①」、「なかったことにできない。性被害②回復への道」10/6&13、30分枠。Ｄ：植田恵子（ALIVE）、撮影：門脇妙子、Ｐ：今村忠、福田靖雄、古市礼子（ALIVE）、ＣＰ：有田康紀）。第46回放送文化基金賞テレビドキュメンタリー部門最優秀賞受賞。

◇東海地区が熱い！

Ａ　名古屋地区は、東海テレビのドキュメンタリーの目覚ましい成果を受けて、各局が頑張っている。

阿武野勝彦さんが**「さよならテレビ　ドキュメンタリーを撮るということ」**（平凡社新書、21年6月刊）という本を出して、自分のドキュメンタリー方法論を具体的に書いた。面白く読めます。

彼は他局に呼ばれると、何処にでも気軽に出かけて行って、自分たちはどういう風に作っているかを開陳するんです。他系列の局が映画を作りたいが、どうしたらいいかと相談に来ると、個人の資格で全部教えるんです。だから全ての地方局の作り手たちにとって、東海テレビの阿武野は、みんなが彼の背中を見ている、そんな存在なんです。

メーテレの村瀬史憲Ｐが自衛隊をテーマにしたドキュメンタリーで、色々な賞に輝いていますが（※2）、それに刺激されて、明らかに東海テレビは頑張っているんです。だから、東海地方のドキュメンタリーはレベルが上がっている。

Ｂ　同じような意味で、山口放送の優れたドキュメンタリスト・佐々木聰（あきら）氏（※3）を起点に、これに刺激されて後発のＵ局・山口朝日放送の**高橋賢**さんが頑張っている。（※4）

（※2）メ～テレドキュメント**『防衛フェリー ～民間船と戦争～』2017年5/28、30分枠。Ｐ：村瀬史憲、Ｄ：依田恵美子。**「変わる自衛隊 地方から伝えた一連の報道」に対して、第55回ギャラクシー賞報道活動部門【大賞】放送期間：2014年7月1日～2018年3月28日。デスク：村瀬史憲、記者：依田恵美子、

（※3）開局60周年『ふたりの桃源郷』2002年～2013年取材。Ｄ・取材：佐々木聰、取材：藤田史博、高橋裕、Ｐ：久保和成、企画：赤尾嘉文、製作総指揮：岩田幸男。第4回日本放送文化大賞テレビ/グランプリ受賞。

（※4）**『シリーズひきこもり』**（2020年4月

～21年3月）D&編集・高橋賢。第58回ギャラクシー賞報道活動部門【選奨】

C　NNNドキュメントの精鋭たちをグランプリに推薦します。

テレビ岩手の**遠藤隆**さん。65歳の停年後もフリーで契約。一貫してNNNの枠でドキュメンタリーを作る。2020年7月末で41本。映画が2本。

2019年公開の開局50周年記念作品「山懐に抱かれて」。北上山地に移住して山地酪農に生きる大家族の24年を追いかけたものを映画化した。監督／P：遠藤隆、103分。

2021年3月公開**「たゆたえども沈まず」**構成・編集：佐藤幸一、監督：遠藤隆、企画製作・配給：テレビ岩手。あの大震災の日から生き抜いてる人々のヒューマンドキュメンタリー。1分縮めたテレビ版が令和3年度（第76回）文化庁芸術祭テレビドキュメンタリー部門の大賞を受賞した。テレビ岩手の規模で映画を2本も作るのは大変なことです。

D　今や、地方局のドキュメンタリー映画は2本目を作っている。20年8月公開「はりぼて」（監督：五百旗頭幸男、砂沢智史）の**チューリップテレビ**は**「傷ついた白鳥」**。出演・撮影：澤江弘一、D：**槇谷茂博**。

翼の折れた白鳥と“おじさん”の奇跡の物語。21年11月公開。

沖縄テレビ放送製作ドキュメンタリー映画第2弾**「サンマデモクラシー」**魚屋のおばぁ―がアメリカに喧嘩を売った！　伝説に埋もれたサンマ裁判を描く。監督・P：**山里孫存**。21年7月公開。

沖縄テレビ開局60周年記念作品「ちむぐりさ　菜の花の沖縄日記」監督：**平良いずみ**、P：山里孫存、末吉敦彦。20年3月公開。106分。テレビ版「菜の花の沖縄日記」（18年5/26、47分）は地方の時代映像祭2018・グランプリを受賞した。

◇テレビのドキュメンタリーを　映画館で見る文化

A　阿武野さんの公式。テレビドキュメンタリーの映画化作品は必ず自局で放送する。

その際、付加価値を色々付けてイベント化する。映画に関わる人をスタジオに呼んでトーク番組にして放送する。

新しい映画を上映する時は、ミニシアターで映画になっていない作品まで、お歳暮（OR お中元）と称して一挙上映する。彼はテレビのドキュメンタリーを、お金を払って映画館で見る文化を作り始めている。

B　**日本映画専門チャンネル**がドキュメンタリーに新しい鉱脈を見つけて、2月～3月で**「2か月連続企画　地方局ドキュメンタリー傑作選」**をラインナップした。

私事だが、2/7月25:35～、日本映画専門チャンネルで、「たゆたえども沈まず」を見た。冒頭からしばし、画面に釘付けだった。

C　ドキュメンタリー映画をエンタメとしてヒットさせる**大島新**監督。「なぜ君は総理大臣になれないのか」119分、20年6月公開、配信：Netflix、AmazonPrime。

「香川一区」156分、21年12月公開。大島は30歳でフジテレビを辞めて、「ネツゲン」という会社を立ち上げる。出自は放送人という自覚はある。

◇これも、お薦め！

D　大島新さんが絶賛した、名古屋局制作の**「目撃！にっぽん『妹が生まれなかったかもしれない世界　～出生前診断と向き合って～』」**NHKG、11/7日、6:10～、30分。

ダウン症の妹がいるディレクターのセルフドキュメント。出生前診断のNIPTが、もし妹が生まれる時に使えるとしたら、両親の選択は？　両親は共に分かっていたら生まなかったと答えた……。**撮影・D：植村優香**、P：水谷宣道、製作統括：石田望。

地方局制作の「目撃！にっぽん」は小さなドキュメンタリーで派手では無いが、多彩な作品に溢れている。

A　若い人も大人も、みな、懸命に生きていることを喋りたい。BS1スペシャル。

「#RIP～安らかに眠れ～」

12/28火、22:55～、50分。SNS上に「おくやみ欄」があって、死んだ人を悼んで呟いている。ネタになる素材を探していたディレクターが気になって取材に行く。亡くなった人、呟いた人などを尋ねて。やがて一人の人生が見えて来る……。

B　BS1スペシャルは奥が深い、何でもありの面白さだ。年の瀬とは言え、こういう作品が平気で出て行くのが、NHKの健全さを象徴している。

C　コロナ禍で癒しになる番組を推したい。

「七つの海を楽しもう　世界さまぁ～リゾート」TBS、毎土曜、深夜24:00～、30分枠。出演：さまぁ～ず（三村マサカズ、大竹一樹）。2013年から放送。各地のリゾートを紹介する人気番組。先駆的にマルチメディアを展開してきたチャレンジングな番組です。

最初、世界のビーチに行って、現地の日本語の上手なリポーターがたどたどしい日本語を使いながら取材する素人っぽさが受けた。

コロナでディレクターが現地に行けなくなって、現地に住んでいる日本人の女の子に、携帯で映像を撮りながら、勝手にぶらぶら歩いてリポートして貰う。海外のホテルウーマンに、働いているホテルを撮影してもらったり、様々な工夫をして集めた映像を編集し直して、UTUBEに短いものを出したり、Paraviで長いのを出して、物産を売ったりとか、マルチメディアの展開を始めた先駆的なチャレンジングな番組です。

D　音を大きくしないで、映像だけ流していても、癒やされる番組です。

◇BS-TBSとTBS　その報道力

A　BS-TBSの**「報道1930」**（月～金、19:30～、84分枠）が大好きです。

昨年はコロナとオリンピック、総選挙・自民党総裁選。キャスターの**松原耕二**さんが回して、ずっと討論番組で授業みたいなんですが、オリンピック前、そこに山口香さんが出演して「差別されたのは自分ですけど……」と女性差別の問題をぶちまけて話したり、石破茂元幹事長が毎日出演して、結局「出るに出られない」と本音を語って、それが「ニュース」になる。松原さんは番組回しも旨い。

コロナに関しては、政府の問題点を果敢に忖度無く切り込んでいく姿勢が、報道のあるべき姿を見せて、大変だなあと感心。

女性の問題には、小川淳也議員、辻元清美議員も出演。

B　確かに「報道1930」は在野の視点を大切にしているけど、自民党議員や閣僚も入れて議論する、そこが旨い。番組で逃げていると言うのでは無く、極めて報道らしい立場をわきまえて、一方的にならないできちっとさせる。でもこのままでは駄目だなというのがちゃんと分かるように伝えている。

C　この時間ニュースが無い、報道の隙間の時間になっている。BSだから出来る報道番組だ。ほかのBS局も頑張って欲しい。

折角公共の電波を使っているのに、あまりに民放各局のBS放送は酷すぎる。ほとんど、商品の販売に特化している。

D　夜の時間帯に報道番組を開設したのは、BSフジLIBE「プライムニュース」月～金、20:00～、115分枠。

キャスター：反町理（フジテレビ報道局解説委員長）。両者の論調の違いは、産経新聞と毎日新聞の違いがある。

A「TBSの報道」に期待したい。オリンピックを巡る様々な問題（弁当の大量廃棄、7千億が何で倍になる！他）をTBSは「報道特集」を始め一連で伝えていたが、オリンピックが終わったらお仕舞いじゃなくて、終わったからこそちゃんと検証すべきだ。

TBSは去年、報道局内に調査報道チームを作った。HPを見ると「情報提供お寄せ下さい」とある。いわゆるタレコミだが、成果は目に見えて出ている。

その一つはHIS関連会社のGoTo補助金の不正受給問題。最初は、もたらされた情報をもとに調べて報道する。すると色んな情報が集まってきて、さらに取材を重ねると、ホテルの69連泊に対して補助金が出ていた。担当者に尋ねても「どうしてか分かりません」と言う。どう見ても不正受給なのでデーターを突きつけて、やがてHISも認めざるを得なくなった。

その時点で、各社一斉に追いかけて報道。そして問題だと政府レベルに上がり、最後は行政も動かざるを得なくなる。これは文春砲のやり口です。TBSは横並びで無い報道を出している。注目すべきです。

B　今年の9.11で、TBSの「報道特集」では、フリーランスの記者がアフガンから生中継で現地の状況を伝えていた。今年の特筆すべき報道です。

現地に入れない中で、2次情報や欧米のメディアの情報を鵜呑みにして、タリバンは野蛮な政権だとか、女性迫害ばかりを報道する中で、報道特集ではキャスターが行く予定だったが、TBSの判断で行けなくなる。

遠藤正雄さんと新田義貴さんはたった2人で、自身の個人的な伝手を使い、アンマンから入って、現場から生中継でリポートした。自分の目で見たら女性たちは元気でやっていて、結構平和なところも見られた、と。

現場に立つ報道をフリージャーナリストがやって、それをTBSが（放送の）場を用意したのだ。この一連の動きをプラスすると、報道特集は大きな仕事をしたと評価したい。

◇情報系とバラエティーから

C　テレビ朝日「ザワつく金曜日」が面白い。毎金曜、18:50～20:00。出演：長嶋一茂、石原良純、高嶋さち子。司会進行：高橋茂雄（サバンナ）。微妙に問われる話題に、毒舌トリオが言いたい放題でスカッと爽快！コロナ禍の中で制作費をかけずに、テレビの本道「お茶の間でぺちゃくちゃ喋る」番組。中高年の視聴率が高い。

これも評価していいと思う。

D　これもテレビ朝日で、「サンドイッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」毎土曜、18・56～、64分枠。サンドイッチマンと芦田愛菜の異色タッグが天才少年少女たちの笑ってタメになる、大人顔負けの特別授業を受ける。

子供の可能性を掘り起こした、その作りに感心する。

A　テレ朝つながりで。モーニングショー、レギュラーコメンテーター・玉川徹を推薦したい。

B　「東海地区が熱い！」の続き。

中京テレビの「ヒューマングルメンタリー―オモウマい店―」毎火曜、19:00～、56分枠。MC：ヒロミ、進行：小峠英二。

非常にユニークな食堂を訪ねて、食堂の人間模様を取材しながら、自分も素材になって、弟子入りしたり、一緒に働いたりする。みんなで見るテレビだと、大いに評価したい。

C　作曲家・加古隆さんを表彰したい。

「映像の世紀」のテーマ曲『パリは燃えているか』の作曲家。彼の「NHKスペシャル映像の世紀コンサート」の活動などを評価したい。

◇ドラマは豊作の年だった…。

D「恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～」日本テレビ・10/6水～、22:00～、51分×10回。原作：うおやま、脚本：松田容子。

連ドラで障害者を主人公に良くやれたな、と感心。見ていてほのぼのと楽しい。脚本も、杉咲も良かった。

A　NHKの阿佐ヶ谷姉妹が面白かった。「阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし」11/8月～、22:45～、30分×7回。原作：阿佐ヶ谷姉妹、脚本：ふじきみつ彦。でも、阿佐ヶ谷なのに、なぜ名古屋局の制作なの？

B　名古屋の人が提案したんでしょう、そうすれば出来るんでしょ。

それよりも名古屋局制作のドラマを打ち切りにしたのは、とんでもない話で許せない。

C　僕も許せないことがある。

秋元康と上田誠（ヨーロッパ企画）が席巻するドラマっていたい何なのだ！

ヨーロッパ企画は京都を拠点に活動する劇団。上田誠はその代表で、全ての公演の作・演出を手掛ける。結成以来一貫してコメディを上演している。俳優で、脚本と演出のできる人が5～6人いて、彼らが交代で上田誠の原案・脚本のもとに、30分枠のドラマを書いて行く。殆どが、ワンシチュエーションドラマっぽい企画で、お金はかからない。

誉めるのが放送人グランプリだけど、誉めちゃいけないものもあると、この場では言って置きたい。

D　どうして駄目かをきちんとやりましょう、別の機会に。秋元康と前田会長を、ちゃんと別にやりましょう。

A　話を戻して、2021年のテレビドラマを振りかえると、20年に続いて、コロナ禍に覆われた1年だった。

制作現場が休止や延期、中止となった20年とは異なり、感染対策を配慮した様々な制約のもと、多くのドラマが制作された。劇中で登場人物たちがマスクを着用するドラマもあってwithコロナを感じさせた。

特筆すべきは見応えのあるドラマが多かったこと。また、東日本大震災から10年、震災を取り上げたドラマも目立ち、秀作が多かった。

◇コロナ禍の渦中で心に響いたドラマ

B　コロナ禍による長い自粛や突然の死は、多くの人々を再び〈家族〉に向き合わせることになった。

TBS「俺の家の話」。脚本：宮藤官九郎。1/22金～、22:00～、54分ほか×全10回。

能楽宗家の後継者争いと遺産相続を、プロレスと能というまったく異なる世界を繋ぐことで、生死の境界をも超えた親子の情愛を描いて、深い感動があった。

能役者とプロレスラーを演じた、長瀬智也の入魂の演技が秀逸だった。

新しいホームドラマのかたちを示し、若者にも「老い」や「介護」を身近に感じさせた。

C　カンテレ「大豆田とわ子と三人の元夫」4/13火～、21:00～、45分ほか×10回。

脚本：坂元裕二、出演：松たか子、岡田将生、角田晃広、松田龍平。

劇的なシーンで感動させる従来のドラマとは、まったく異なる文法で作られている。

大きな出来事（親友の死やプロポーズ）は起こるものの、**非日常的な出来事は直接描かれず、日常の言葉に落とし込まれ、まるで雑談のようにさりげなく語られる。そんな雑談をとおして、登場人物たちの人生の機微や痛みに触れ、彼らが過ごしてきた時間や、実現されなかった未来に思いを馳せる。**

コロナ禍で雑談の機会がめっきり減ってしまった私たちに、坂元裕二が紡ぎ出す、時に切なく時に可笑しい日常会話は、雑談の思いがけない豊かさを教えてくれた。

俳優たちの細やかな演技、演出、音楽など、すべてが完成度の高いドラマだった。

D　NHKG**「今ここにある危機とぼくの好感度について」**。元アナウンサーが名門大学の広報マンになり、次々と起こる不祥事をその場しのぎで収めていくが、元カノ（教授の論文不正を告発して大学を追われた）の影響を受けながら、徐々に正義の人へと覚醒していく。

終盤で巻き起こる、謎の蚊による健康被害と「次世代科学技術博覧会」の開催をめぐる騒動は、コロナ禍と東京オリンピック開催をめぐる騒動を思わせた。大学の科学研究のあり方や、短期的な成果を求める国や企業の問題にもふれて、正義のあり方を真摯に問う深みのあるドラマとなった。

◇震災から10年のドラマ　その後を描く

A　連続テレビ小説**「おかえりモネ」**脚本：**安達奈緒子**。5/17月～10/29金、120回。

医師がモネに語る、「あなたの痛みは僕にはわかりません。でも、わかりたいと思っています」。当事者の痛みは理解できないことを受け入れた上で、それでも寄り添おうとする姿を誠実に描いた。

被災地と非被災地、当事者と非当事者、東北と東京といった二分法で、私たちは分断されてしまいがちだが、この分断はドラマの大きなテーマでもあった。モネは、東北から始まり東京を経て東北に回帰しながら、苦しみは理解できなくてもわかろうとする。

自然と生命の大きなサイクルの中で、分断を超えてつながりたいという祈りを、体現したのがモネだったのではないだろうか。

B　僕も「おかえりモネ」を強く推したい。確かに、賛否二つに別れていて視聴率もあまり良くなかったが、フィクションで無ければ描けない世界、姉妹の葛藤や同級生同士がその時どこにいたか、とかを描いていた。

堀川とんこう演出・山田太一脚本の「時は立ちどまらない」（14年2/22、テレビ朝日）は、まさにドキュメンタリーでは描けない、心の内の世界を見事に描いていた。それを思わせるようなドラマでした。

ちゃんと人間が描かれていて、人間の葛藤を描いている。決してテーマ主義に陥らず、オリジナルの朝ドラとして、繊細な世界を描き切った脚本家の安達奈緒子は、本当に凄いです。

気象予報士という設定がテーマにも合っていて、ヒロインがウジウジしているんですが、そこも含めて良くやった朝ドラだと思うんです。被災地にもちゃんと届いています。チームに賞を上げたい。

C　NHKG「六畳間のピアノマン」2/6～27。NHKBSP・**宮城発地域ドラマ**「ペペロンチーノ」3/6土。東海テレビ「その女、ジルバ」最終回3/13土。

この3作品は、昨年の3月16日、放送人グランプリの選考会で審議済みです。

◇まだあります、良かったドラマ

D　TBS**「最愛」**10/15金～、22:00～、43分×10回。脚本：奥寺佐渡子、P：新井順子、D：塚原あゆ子。毎年のようにヒット作を出す・新井Pと塚原D、2人のコンビは今回も快調！

二つの殺人をめぐって15年の時を行き来しながら、さまざまな「最愛」のかたちを情感豊かに描いた。秘密を守る者と暴く者との攻防と葛藤を軸に、最初から最後まで緊密に構成されていて、完成度が高かった。

最終話、姉（ヒロイン）と弟を守るため、弁護士の『秘密』を刑事として暴いてきた男（ヒーロー）は、その『秘密』を受け継いだ。姉弟への愛が、男に『秘密』を守る者・暴く者の対立を超えさせる。

深い余韻を残したエンディングだった。21年には、他にも良いドラマがあったので、タイトルだけ挙げておきたい。

「コントが始まる」4月期日本テレビ。**「きれいのくに」**4月期NHK。**「恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～」**、**「オリバーな犬、(Gosh!)このヤロウ」**9月期NHK。**「青天を衝け」**NHK大河、2/14～、41回。

A　21年のドラマは、「俺の家の話」、「大豆田とわ子と三人の元夫」、「おかえりモネ」、「ペペロンチーノ」、「その女、ジルバ」など、死者と対話したり、死者の気配を感じたり、死者が別の生命に転生したり、死者の心を引き継いだりと、死者とともに生きるドラマが多かった。

それは、東日本大震災から10年の節目であることや、コロナ禍で日常に死が影を落とす日々が続いたことと無縁ではないだろう。「家族」や「雑談」、「人とのつながり」。コロナ禍の渦中だからこそ、心に響くテーマやモチーフが多く見られた。

VS

◇ドラマと、ドキュメンタリー

B　芸祭の優秀賞。終戦ドラマ**「しかたなかったと言うてはいかんのです」**8/13金、75分、NHKG。まあ、良かったかな。

C　太平洋戦争80年・特集ドラマ**「倫敦ノ山本五十六」**12/30木、22:00～、73分。企画：右田千代、脚本：古川健、D：大原拓。出演：香取慎吾、高良健吾、平岳紙ほか。

ドキュメンタリー側から言うと、ドラマを見たことで、地味な1次資料がキャラクターを持って浮かんできて、資料がどんどん面白くなるんです。

この連携は極めて新鮮でした。ドラマの人から見れば、物足りないドラマだと思うんでしょうが、ドキュメンタリー側から見ると、今までドキュメンタリーがドラマの脚注になっているのが多かったんですが、今回はドラマがドキュメンタリーの脚注になっているんです。その意味で、ドキュメンタリーを活かす最高のドラマだと思います。山本五十六が上り詰める前、神格化される前の五十六ですから、キャスティングは三船敏郎のような偉い人ではなく、ああいう香取慎吾がぴったりで素晴らしいと思ってみてました。

D　未解決事件シリーズがその作りでしたね。ドキュメンタリーで描けないところを、ドラマでフィクションを描く。このドラマも、そう言う狙いかも知れない。

A　結果的にそうなったのかも知れないが、ドキュメンタリー側には非常に良かった。

B　最近のNHKの戦争ドラマを見ていると、ドキュメンタリーと同じで、「何か新しいネタが見つかった！」的な、ドラマづくりをしていて、去年の黒崎君もそうですし、新

しいサムシングニューが無いと作れないというセオリーらしい。

僕は、ずっと戦争ドラマをやって来て、テレビドラマが戦争を描く場合は、戦場とか軍人を描くのでは無く、市井の人々、残された人々を描くのが大事だと思っています。僕はもう作れないから、せめてNHKさんに頑張って欲しいのです。

ドラマがドキュメンタリーの再現ドラマになっている、「倫敦ノ山本五十六」は残念だったなぁと思います。

C　ドラマとドキュメンタリー、お互いにせめぎあって競うべきですね。

D　他で大きな賞を受賞している作品と人は避けたいと思います。宜しくお願いします。

座談会次第

日時　1月26日（水）午後2時～4時30分

場所　千代田放送会館

出席者　伊藤雅浩、岡室美奈子、小川和之、河野尚行、新山賢治、菅野高至、鈴木嘉一、深尾隆一、前川英樹、牧之瀬恵子、三原治、八木康夫、吉田賢策、渡辺紘史

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

編集後記～その1～

本当に申し訳ございません。

文字ばっかりで写真が無い会報で、相済みません。

撮影のことは、しっかり忘れていて、家帰って、みんな疲れを知らずに、よく持論を展開されるものだと、しばし余韻にひたっていて、ふと気づいたのです。

誰も写真を撮っていなかったよね、と。

事ここに及んで、まだ人任せなのが恥ずかしい。

（その2に続く、菅野）

【24頁からの続きです】

□ＴＢＳ・**「最愛」**（10/15 金～、22:00～、43 分×10 回）

脚本：奥寺佐渡子、清水友佳子④、Ｐ：新井順子、Ｄ：塚原あゆ子、山本剛義、村尾嘉昭、編成：中西真央、東仲恵吾、

制作：ＴＢＳ、ＴＢＳスパークル、出演：吉高由里子、松下洸平、薬師丸ひろ子、井浦新、茅島成美、柊木陽太、佐久間由衣、岡山天音、及川光博、田中みな実、酒向芳、

～サスペンスラブストーリー、白川郷の幼なじみが、追われる者（容疑者）と追う者（刑事）に…。～

□NHKG・よるドラ**「阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし」**（11/8 月～、22:45～、30 分×7 回）

～お笑いコンビ「阿佐ヶ谷姉妹」（渡辺江里子、木村美穂）の自伝的エッセイのドラマ化。～

原作：阿佐ヶ谷姉妹、脚本：ふじきみつ彦、制作統括：三鬼一希、櫻井壮一、Ｄ：津田温子、堀内恵介、語り：きたろう、

制作著作：NHK名古屋、　出演：木村多江、安藤玉恵、いしのようこ、中川大輔、塚本直毅、中田喜子、研ナオコ、

□NHKG・太平洋戦争 80 年・特集ドラマ**「倫敦ノ山本五十六」**（12/30 木、22:00～、73 分）

企画：右田千代、脚本：古川健、取材：大森健生、梅本肇、Ｄ：大原拓、Ｐ：倉崎憲、里内英司（MMJ）、中村直文、制作統括：夜久恭裕、語り：林田理沙、出演：香取慎吾、高良健吾、片岡愛之助、國村隼、渡辺いっけい、嶋田久作、中村育二、市原隼人、平岩紙、景井ひな、伊武雅刀、山本學、

～太平洋戦争開戦から 80 年の歳月を経て、NHKEPの右田千代らの独自取材により開拓された日本海軍内部の極秘文書に基づいて制作された。日本国民から「英雄」と呼ばれる前の山本五十六がもがき続けてきた若き時代の姿を映し出す。～

放送人の会主催のシンポジウムを開催します。

『NHK は何処に行く?!　～NHK 経営計画を読んで、放送の近未来を考える～』

3月17日(木)14時 ―17時　千代田放送会館・2Fホール　　**内容＆参加方法は放送人の会HPに掲載**

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

事業委員会からのお願い

事業委員長　渡辺紘史

今年こそよろしくお願いします。

オミクロン株というニューカマーが出現し、今後を不透明にしています。会報が届く頃には、感染もピークを過ぎていることを願いながら、足掛け3年になろうとする、新型コロナによる、さまざまな「停滞」を危惧しているところです。私の関わるいくつかの団体もそうですが、その例年行事も、中止、延期の憂き目にあっています。密を避ける、人流を断つ、行動を自粛し、在宅勤務とオンライン業務など、日本の社会の規律と集団心理により常態化した〈新しい仕事のやり方〉は、私もオンライン会議やメール書面による会議の開催、果てはオンライン飲み会など何度も経験しましたが、実りあったという実感は持ちえませんでした。私の危惧するのは、密に人と交わり、汗をかいて事に当たる、本来のエッセンシャルワーカーでもある（私見かもしれませんが）我々放送人も、具体的行動を控え、引きこもっているうちに出不精になり、サボり癖がついてしまうことです。それでなくとも、オールドタイマーたち（私もそのうちの一人でしょう）は、加齢と健康の所為で活動力が鈍りがちです。そうしたなか、今の放送人の主な事業は、とりあえず、第一世代たる、故大山勝美さん、今野勉さん、松尾羊一さん、故堀川とんこうさん、石橋冠さん、荻野慶人さん等が開発した事業を、引き継いでやってきているといえます。

以下、これからの事業を列記します。

＊グランプリ選考に先立つ、「下馬評座談会」は会報で報告したように実施済。＊そのあとは、3月中旬、実施予定の「NHK経営計画に関するシンポジウム」

＊続いて3月21日（水・祝）名作の舞台裏「パパはニュースキャスター」

＊そして5月21日（土）は、放送人の会の「総会」と「グランプリ贈賞式」を予定。

＊その間「放送人の証言」の収録や出版化事業が継続します。

＊その他「放送人句会」や「ラジオ聞き酒の会」も長く続く事業となっています。今、誰しもが願うのは、第6波の感染拡大が終息し、それこそ〈アフターコロナ〉として、ふたたび人と人とが直接に触れ合える活発な社会が取り戻されることでしょう。世界史に記録される中世のパンデミック、ペスト大蔓延が終息したのち現れたのが「ルネサンス」、私がさらに願うのは、新しく花開く芸術再興ではありませんが、放送人の会の活動に「ルネサンス」を起こしてほしいという思いです。

この会の活動は、やりたい人が、やりたくない人も説得し、好きなようにやるというのが原点です。これまでの活動を単に引き継ぐばかりではなく、新しい発想で、時代が要求する新しい活動を起こす、若い人が出てこないのでしょうか。私は、こうした願いを、お題目のようにここ数年、何回も申してきています。

このところの「コロナ禍による停滞」を、不適切な言い方を許して貰えば、「奇貨」としてとらえ、新しい流れ（＝放送人の会のルネサンス）に繋げたいのです。そんな流れを起こす《ダヴィンチたち》の自薦、他薦を期待します。――これも前回の会報でも申し上げたとおり。正念場です――――。お願いします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

総務委員会からのご報告

総務委員長　小川和之

出口の見えない新型コロナの感染が続き、各種の事業活動が制約を受けていますが、事務局を預かる総務委員会は、総会、理事会、などの総務業務を始め、日常的な会の庶務業務を担当する他、各プロジェクトの窓口としての活動も続けています。コロナ禍で会員の皆様と接する機会も少ないこの機会に日常の総務業務以外の個々の総務委員の活動をご紹介いたします。

【深尾理事】事務局長を兼務しながら証言プロジェクトのアーカイブ化の中心的役割を担う。放送人の会の句会の幹事も務める。

【吉田理事】証言プロジェクトの収録の庶務業務を担う一方、会員の皆様との交流を深める企画・運営を担当している。

【木原理事】新しく加わった委員で、主にNHK問題検討会のメンバーとして活動。議事録を担当している。

【須齋事務局員】庶務・経理を始め日常的な事務局全般の庶務業務を担当している。

以上、総務委員長を含め5人体制で事務局に出局し、互いに助け合いながら使命感を持って作業を進めていますが、いざという時は、菅野広報委員長にも助けられています。古いパソコンの廃棄の際には、事務局内で実に12時間もかけて自主的にデータ消去作業をして頂くなど頭の下がる思いです。

私が何とか総務委員長を勤めていられるのも、私の足らざるを埋めて余りある理事の皆さんのお陰だとしみじみ感じています。

尚、通常、事務局には事務局員が月水金と出勤する他、業務に応じてそれぞれの総務委員が在室しています。私は原則として毎週水曜日に在室していますので、事務局へのご意見やご要望のある無しに限らず、コーヒーを飲みながらの雑談も大歓迎、お気軽にお立ち寄り頂ければ幸いです。今後ともご支援ご協力のほど宜しくお願いします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「放送人の証言」
4人の貴重な証言

収録プロジェクトチーフ　**工藤英博**

今期予定していた4人の「証言」は、厳しい状況を縫いながら無事収録を終えた。証言者を改めて順に紹介する。

和崎信哉さん　和崎さんは1968年NHK入局。社会教養部、Nスペ番組部で「行〜比叡山・千日回峰〜」など幅広く題材を求めて、多くのドキュメンタリーを作り続けた。95年衛星放送局の部長に異動して以降、衛星放送やハイビジョン、デジタル放送を推進するメディア戦略に携わってきた。

06年WOWOWに転じ、翌年社長に就任して以来、経営トップとして「ソフトとハード」の両面で辣腕を振るった。

「上質」というキーワードを掲げ、オリジナルドラマなどの制作を強化して放送文化基金賞やギャラクシー賞などの受賞が相次ぎ、「WOWOWのドラマは質が高い」という評価が定着した。フルハイビジョンの3チャンネル・サービスを実現し、伸び悩み気味だった加入者を増やした。衛星放送と有料放送業界をリードしてきた苦労話や裏話を率直に語った。

「WOWOWに来て社員のみんなと議論して『上質』というキーワードに行き着きました。僕が言い出した『上質』とは、スポーツであれ音楽であれ、トップレベルのものしかやらないということです。テニスだったらグランドスラム、音楽だったらサザンオールスターズというようにね。ドラマも民放と一線を画す企画やテイストの「連続ドラマW」を軌道に乗せました。」（担当：鈴木嘉一、工藤英博）

※以下担当者の敬称略

前川英樹さん　前川さんは1964年TBS入社。教養部を経て制作局演出部では市川森一脚本で「グッバイ・ママ」や「港町純情シネマ」、佐々木守脚本で「日本国憲法殺人事件」などの連続ドラマをはじめ数多くのドラマの演出を担当した。

84年、企画調査局総合開発部に異動。ハイビジョンにいち早く取り組み、最初の成果はTBSが制作したハイビジョン作品のHD国際コンクールで89年90年とグランプリを連続受賞。前川さんはこの作品の企画を立ち上げエグゼクティブプロデューサーを務めた。ハイビジョンの制作体験が以後取り組む地上波デジタル化推進につながる。

TBS取締役国際室長、TBSメディア総合研究所社長などを歴任。95年以後、具体化してくる地上波デジタルに取り組み、民放連・NHK・総務省の全国地上デジタル放送推進協議会・総合推進部会長などを務め、デジタル化のキーパーソンとして推進を牽引した。

08年、多年にわたり「電波の有効利用の推進に貢献した」功績が認められ総務大臣表彰を受けた。

「地上波デジタル化にあたって、民放各局の意見を整理し、まとめ上げるという自分でもいい仕事が出来たと思っていますが、それは日本テレビ専務を経て新潟テレビ社長の北川信さん（2000年1月「証言」収録）がいてくれて、この方が優れたリーダーだったんですよ。お陰で地デジの仕事が、民放全体がうまくいったと思っています。」

（担当：市川哲夫、近藤邦勝）

重延　浩（ゆたか）さん　重延さんは1964年TBS入社。70年、日本初の独立系制作会社テレビマンユニオンの創立に参加。NTV「第1回史上最大！アメリカ大陸横断ウルトラクイズ」のプロデュースや制作会社としてはじめてNスペの制作に参加した。「ベルリン美術館〜もうひとつのドイツ統一」の演出などを

経て、86年テレビマンユニオンの3代目の社長に就任。同年より現在も放送が続くTBS「世界ふしぎ発見」の企画・プロデュースを担当。95年に公開された是枝裕和監督のデビュー作「幻の光」を自主制作して以来、ゼネラルプロデューサーとして是枝監督を国際舞台へ押し上げた。02年、同社の代表取締役会長・CEOとして経営を担い続け、05年にはテレビ制作者として芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

「自立した制作者集団」を旗印に掲げる同社は20年、創設50周年を迎えたが重延さんは『創造と経営』を車の両輪としてきたからこそ、半世紀を迎えることが出来た、と振り返る。独自の組織論として確立された「メンバーシップ制」、意表を突いた出題で知られる入社試験、独自の報酬体系、定年がない人事制度などについても、創造性との兼ね合いから存分に語ってもらった。

「あっと言う間の50年でした。創設時に村木良彦の『テレビジョンを軸として、あらゆる方法論であらゆるメディアに関わって行く』という言葉があり、私の気質にも合っていました。テレビ的な方法論でそれぞれのジャンルに向かっていくためには、多くのエネルギーと時間が必要です。しかし、時間は飛ぶように流れていくわけで、私は記憶に残らないものはどっかで捨てて、記憶に残ることを大事にしてきた50年だったと思います。」

（担当：鈴木嘉一、柏木登）

高橋　浩さん　高橋さんはNETテレビ（現・テレビ朝日）入社。考査部に配属されたが、番組企画コンペで「優秀賞」を獲得したことが契機となって外国映画部に異動。ラインアップや買い付けを担当。購入交渉のノウハウを身につけていく。また、英語力を生かして作品のタイトル作りやスピルバーグ監督の「激突」は、いち早く目をつけて低予算で高視聴率を得た。

購入作品をヒントに、国産テレフィーチャー「土曜ワイド劇場」の開発につなげることが出来た。30代で編成部に移り、アニメ担当になる。アニメ番組の編成の難しさや妙味を熱く語った。「ドラえもん」、「プロゴルファー猿」「クレヨンしんちゃん」などシンエイ動画と共に開発し立ち上げる。

編成部長、BS朝日編成局長を歴任。

02年東映岡田社長から「アニメの世界は変わる。これからはテレビを知り尽くした人間しかこの荒波を乗り切れない」と請われて、東映アニメーションに転籍。翌年8代目の社長に就任。「ドラえもん」の経験を生かして「ワンピース」アニメの再上昇や「プリキュア」の立ち上げ、海外展開による事業強化などを陣頭指揮した。

「藤子先生と安孫子先生とは、欲しい作品を直接話し合って承諾して頂いたり、国内外の旅行をご一緒したり公私ともに長年の付き合いをさせて頂いています。二人は同じ名前で事務所も一緒ですが、作品は全く別々なんですよ。『オバケのＱ太郎』だけは、最初の方は大変だったので共作になっていますが、『ドラえもん』は藤子先生、『忍者ハットリくん』は安孫子先生というふうに仕事は別々なんですよ。」

（担当：矢島良彰、吉田賢策）

「放送人の証言」は、放送の過去を知ることで放送の未来を展望し、考えることが出来るようにするために、先達たちから受け継がれてきた。収録してきた証言は、膨大なオーラルヒストリーを形成しながら、今では200人を超えた。

この文化事業に、発足当初から20年以上の長きに渡って、援助を賜っている「（公財）放送文化基金」のご厚情に改めて感謝を申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ラジオのページ

番組制作者の能力とは何か
～ラジオドキュメンタリストの場合～

佐野有利

マスコミ学会の学会誌に掲載された私の研究では、ラジオプロジェクトの方々にもご協力いただきました。

未開拓だった送り手研究に貢献できるとの声をいただきました。放送現場を応援するというラジオプロジェクトの趣旨から、経緯をご説明いたします。

厚生労働省などの調査によると、放送現場の業務量増加と社員数減少により、正社員以外の割合が増えています。時期や担当者によっても業務に偏りがありますが、被雇用者の能力は人事担当者や管理職が開発できるものではなく「センス」であり、能力の尺度は視聴率などの外部評価の結果に依存しているとされています。

多くの放送関係者によって語られる制作能力と制作能力開発については、これまでの調査や研究でもはっきりしていないようです。制作方法は暗黙知であり、マニュアル化や研修可能なものではありません。そこで、私は能力を特定するために、経営学の人的資源管理の観点でアプローチしました。

調査対象は、地方局所属のラジオドキュメンタリーのベテラン制作者で、ほぼ1人で取材と制作が行われるため、行使や開発される能力が属人的に特定できます。そこで対象者に研究内容を説明した上で、確認の上署名捺印をいただき調査を行いました。詳細なインタビュー調査と分析の結果、制作者の経験と制作能力、熟達していく能力や意欲の変容がわかりました。

制作者の熟達や変容には、人とのかかわりや感想が重要です。しかし、聴取率が低く1回限りの放送では、職場も含めて番組への反応も少なく、彼らは評価者としてのリスナーの間に見えない壁を常に感じています。そこで、日常に得られるわずかな感想を得た経験から、放送後の感想を想像して制作していました。感想の種を得るために、職場を越境して学習しようと意欲が変容しています。その越境先の1つが番組コンクールなどの外部評価でした。

組織の中や感想の収集方法を工夫することで、さらなる能力開発が可能と思われます。しかし、制作者が活用している各種の外部評価に決められた評価基準はなく属人的な評価であり、講評が制作者の育成にどんな点で効果があるのかは不明です。

制作者の感想の獲得方法と活用方法、そして能力開発がどうあるべきか、制作者の育成方法についてさらに調査と分析を進め、実務に貢献したいと考えています。

みなさま、引き続きよろしくお願いいたします。

（法政大学大学院・静岡新聞社）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第81回　放送人句会

令和3年10月5日（火）於　赤坂・麦屋
出席　伊藤視郎、林備後　中村フミ　深尾一化
近藤久ニ　以上5名
不在投句　鶴橋康夫　佐々木光野
兼題　初霜　大根　酉の市
業界用語　ミスキャスト

初霜や今日も遅刻の遅刻坂　視郎
軒下や襖の如く大根干す　光野
大根や思ひあふるゝことばかり　備後
とめどなき不安語るや大根鍋　康夫

初霜や仮設が終の棲家かと　フミ

オリオン座眺めて一服烏賊大根　康夫
初霜やフランスパンを千切る朝　久二
大根というな単なるミスキャスト　康夫
ミスキャストいよゝ色濃き帰り花　フミ
初霜や仕舞ひ忘れし庭の下駄　一化
酉の市抜けて馴染みの縄のれん　フミ
さまざまに人に冬来る一の酉　久二
人事待つごと三浦大根の列　光野
しやんしやんも湿りがちなる一の酉　一化
大根煮て寒月いまだ高きまま　備後
酉の市少し大きめ探しをり　光野
大根を引き抜く女房尻太し　視郎
夫が持ち妻が支ふる大熊手　備後
終活はしません宣言大根抜く　フミ
提灯にママの名のある酉の市　視郎
去る人はみなしずかなり初霜も　康夫
初霜の一番ホールティーアップ　視郎
コロナでももろ肌脱ぎて大根立つ　康夫
酉の市帰路は馴染みの店で呑む　光野
初霜や戻らぬ夢よもう一度　フミ
夜半に醒め飲み直す卓煮大根　久二

第82回 放送人句会

令和3年12月6日(月) 於 赤坂・麦屋
出席 伊藤視郎 林備後 中村フミ 深尾一化
佐々木光野 近藤久二 以上6名
不在投句 鶴橋康夫
兼題 年越し 鱈 寒桜
業界用語 ボケ

交番のそばの色なき寒桜　視郎
ボケ人生我が凍星は輝けり　フミ
ボケかまし虚しさに死す年忘れ　フミ
年越や三尺ほどの身の廻り　備後
担ぎ棒吊す寒鱈十五キロ　光野
サングラス「ボケ」らしき人グリーン車に　康夫

野暮用とボケをかまして煤逃れ　一化
ツッコンでボケて独りのクリスマス　一化
延縄の一家釣りなる鱈大漁　光野
寒桜赤坂渋滞交差点　視郎
ボケ役を終へて見上ぐる冬の星　フミ
どこまでも純情可憐冬桜　備後
あるものはみな食べている鱈の腹　視郎
年越しや逢ひたき女に逢へぬまま　一化
冬桜友は熊野へ詣出ける　備後
庭先で捨つるとこなき鱈を裂く　久二
寒桜友の余命を告げられて　フミ
幼子の丸き眼や年を越す　フミ
惜別の校歌斉唱冬桜　備後
寒桜雨に散る夜の余震かな　久二
年越しやタバコ屋の犬尻尾振り　康夫
鱈ちりの湯気の向うに孫五人　視郎
寒桜青空に凍て死は間近　康夫
視郎さん待つは年越し気分なり　光野
鱈らふ 顎(あぎと) の先の先までも　備後
あといくつこの女房と年を越す　一化
ヤッさんのボケなつかしきてっさかな　久二
年越しやあれもこれもがまだ何も　備後
年を越すただその時に賭けた恋　フミ

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

訃報

中尾幸勇 2021年12月6日没。享年76
死因肝臓がん。1969年電通入社。
電通業務推進部で「おしゃれ」「TVスクランブル」「ニュースステーション」等担当。「C・A・L」社長で「水戸黄門」等を手掛けるほか、全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）理事長も務めた。

☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆

田中昭男 2020年2月9日没。享年90
NHKドラマの演出を経てフリーに。
「娘と私」（朝ドラ・第1作）、「アラスカ物語」「おはなはん」「となりの芝生」「おていちゃん」「いのち燃ゆ」「男が家を出るとき」ほか多数の演出作品がある。
（※ 編集部のミスで掲載が遅れました。申し訳ありません）

☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆

会員異動・退会

林 宣昭 2021年9月17日・退会

水上 毅 2022年3月31日・退会予定

☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆ ☆☆

新刊紹介

筑紫哲也―『NEWS23』とその時代
金平茂紀著（講談社刊・定価2000円）

著者の金平茂紀氏は当会会員。TBS「報道特集」のキャスターで、会員の中でも親しい方が多い。この本の「まえがき」には「本書は評伝ではない、あの番組（筑紫哲也NEWS23）に集まった人々の群像の一端が浮かび上がって読者の皆さんと共有できれば望外の喜びである」とある。

内容はキャスター就任の経緯を語る第1章から始まり第23章まで、井上陽水の主題歌「最後のニュース」、損失補填問題、原発広告、坂本龍一・忌野清志郎・高田渡など数々の音楽家、沖縄、辻本清美、田中真紀子、立花隆、クリントン大統領とのタウンホールミーティング、阪神淡路大震災報道……とさまざまなことが書かれている。これらの項目の一つずつに私は鮮烈な記憶があるが、中でも「TBS・オウム・ビデオ事件」は重い記憶である。

本書では、TBSに抗議に訪れたオウム真理教の幹部に『3時にあいましょう』の番組担当者が放送前の坂本弁護士へのインタビューVTRテープを見せたこと、そのことが日本テレビの（昼ニュースで報じられ、TBSはその日のニュースの中で事実無根と否定し、その後の社内調査委員会の調査でも「見せていない」としたが、その後いわゆる「早川メモ」を入手して「見せていた」と見解を変えたとの経緯を伝え、その日の「NEWS23」の中での筑紫さんの発言を記録している。

「報道機関というものは、形のあるものを作ったり売ったりする機関ではありません。そういう機関が存立できる最大のベースとは何かといえば信頼性です。特に視聴者との関係においての信頼感です。その意味で、TBSは今夜、死んだに等しいと思います。…実は私はこの番組を今日限りで辞める決心をしておりました。私はTBSの社員ではありませんし、直接、今回の事件のことを知っているわけではありませんが、信頼性と視聴者の

との関係では、TBSの一つの顔の役割をはたしてきただろうと思います。しかし、ここまで落ちて、いったん死んだに等しい局ですが、これからの信頼回復のために、あるいは甦るために努力しようとしている人たちがいます。その人たちと一緒にしばらくは、努力をしたいと思います。…」

金平氏はこの日筑紫氏から「スタッフと話をしたい」と言われ、当時のプロデューサー、ディレクター10数人と2時間にわたる長く重い会議をした。それが終わって部屋を出ると部屋にいたADや外部スタッフの人達が座っていた机を拳でドンドン叩いて「なんで社員だけで大事なことを決めるのだ！」「『23』はみんなで作ってきたじゃないか！」と一斉に抗議した。みんな熱かったのだ。

私は読んでいていくつかのページで胸を熱くした。既に亡くなったかたの名前も多い。とにかく読んでみてください。面白いと保証します。

（記　伊藤雅浩）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「民放 online」創刊

日本民間放送連盟は、2021 年9月1日、雑誌『民放』の理念を受け継ぎ、ウェブマガジン「民放 online」を創刊しました。

どうぞ、ご覧下さい。

【民放 online】https://minpo.online/

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

編集後記～その2～

本当に申し訳ございませんでした。

これはもう、人に頼るのを止めるに如かず、量販店に走るしかないか……。

プリンターの次に、カメラを買う!!　呆れている連れ合いの顔が浮かぶ。

そう言えば、彼女の顔を見たのは、何ヶ月前だったろうか？　コロナで行き来が遮断されて、しばし会っていない。会わなきゃ、会わないで、どうってことも無いが、花見は一緒に行きたいな。

◇　◇　◇

昨年の秋、コロナが猛威をふるうと、いつ何時、ゴミ屋敷で朽ちていたなどとならぬよう、整理整頓、ともかくも断捨離、モノを減らそうと片づけ始める。

というのも、なぜか紙類は捨てても捨ててもたまるのだ。で、たまったのをクリアファイルやバインデングで整理するが、その山が幾つか出来て、道半ばも行かぬのに、もはや飽きてしまう。

ならばと方針転換。某銀行の某女史に唆されて、遺書づくりに励んでみる。この際、意地でも片付けた証しが欲しい。

まあ、何と言っても、基本は人任せ、折々、確認して銀行振込をすれば済む。

遺書は、妻子が呆れて笑って読んでくれれば良いと思って、得意の思いつきだけで、エイッと書いたが、果たして、どうだろうか。

かれこれ2か月近くかかって完成した遺書を、師走間近に某女史同行のもと、渋谷の公証人役場に預けに行く。

終わって渋谷までの帰り道、某女史に、忘れっぽいから、やっぱり「連れ合いに遺書を持っていて貰うかな」と呟いたら、速攻で、「(ばか」と口に出しかねない面持ちで) まあ、それはどうでしょうか……ねえ」と睨まれた。

最後は、忘れっぽい私からのお願いです。

放送人グランプリの投票を
お忘れなく！
3月18日(金)、必着です。

会員名簿

2022.2.10 現在

【あ】藍澤幸久　相田洋　相本芳彦　青木裕子　青山悌三　秋田和典　天野證範　雨宮望　新井和子【い】池田正之　石井彰　石井ふく子　石田研一　石橋映里　石橋冠　石原信和　磯智明　板谷駿一　市岡康子　市川哲夫　市村元　伊藤博文　伊藤雅浩　井上佳子　今井義典　岩澤敏　岩瀬弥永子【う】上村忠　浮田周男　臼杵敬子　【え】江川雄一　江口展之　遠藤利男　遠藤雅充　【お】大池雅光　大川光行　大沢悠里　太田昌宏　大類なぎさ　緒方陽一　岡野真紀子　岡室美奈子　岡本勉　小川治　小川和之　小河原正巳　沖野聊　荻野慶人　尾田晶子　織田晃之祐　【か】加賀美幸子　柏木登　片岡敬司　加藤滋紀　加藤拓　加藤義人　金平茂紀　川平朝清　鎌内啓子　亀谷弘美　川喜田尚　川口健一　川渕恵子　河邑厚徳　【き】北川泰三　北川信　北出晃　北村美憲　北村充史　木下浩一　木原毅　木村成忠　【く】工藤英博　隈部紀生　倉内均　訓覇圭　黒崎博　黒沢淳　【こ】小池勝次郎　河野尚行　小玉滋彦　後藤和晃　小山帥人　近藤邦勝　今野勉　【さ】斎藤秀夫　斎明寺以玖子　寒河江正　坂元良江　桜井元　佐々木彰　佐々木光政　佐藤敦　佐藤幹夫　佐藤理恵子　佐野有利　【し】塩田純　重延浩　重村一　重盛政史　静永純一　柴田陽一郎　清水誠　志村一隆　下崎寛　下重暁子　下村幸子　白井博　新山賢治【す】菅野高至　菅野嘉則　杉田成道　鈴木俊樹　鈴木典之　鈴木弘貴　鈴木芳夫　鈴木嘉一　須磨章　【せ】清野豊　関佳史　せんぼんよしこ　【そ】曽根英二【た】高島秀之　高田宏　竹中一夫　田澤正稔　多田健　田中秋夫　田中直人　田中典子　田中則広　【ち】千葉邦彦　【つ】塚原あゆ子　塚本茂　塚本幹夫　辻本昌平　土屋敏男　つボイノリオ　露木茂　鶴橋康夫　【と】東城祐司　戸田桂太　富沢一誠　豊原隆太郎　鳥谷規　【な】長井展光　中込卓也　中崎清栄　中島僚　中島由貴　永田浩三　永田俊和　永野敏一　中町綾子　中村敦夫　中村克史　中村季恵　中村芙美子　中山和記　並木章　【に】新村もとを　西憲彦　西村与志木　仁藤雅夫　二宮文彦【ぬ】沼田通嗣【の】延江浩　信井文夫　【は】萩原豊　林健嗣　林宣昭　林安二　原田令嗣　【ひ】日笠昭彦　玄武岩　【ふ】深尾隆一　藤井チズ子　藤井正博　藤田知久　藤久ミネ　藤村忠寿　古川重樹　【へ】逸見京子　【ま】前川英樹　牧之瀬恵子　増山麗央　松尾羊一　黛りんたろう　丸山友美　【み】三上義智　水上毅　光原朋秀　三原治　三村景一　三村千鶴　宮崎洋　宮川鑛一　【む】村上光一　村上雅通　村上佑二　村田亨　【も】本木敦子　元田成　諸橋毅一　【や】八木康夫　矢島良彰　薮内広之　山鹿達也　山崎隆保　山崎裕　山路家子　山田尚　山田良明　山根基世　【よ】吉澤保　吉田賢策　吉村豪介　吉村直樹　【わ】和崎信哉　渡辺浩平　渡辺紘史

【賛助会員】　日本民間放送連盟　TBSメディア総合研究所　融合研究所　日本ケーブルテレビ連盟